

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
		2年			
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9
		2年			
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10	
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	21
		1年			
	自己管理論 生田カツ工、稲月正	2学期	1	2	22
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	23
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	24
		1年			
	コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	25
		1年			
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	26	
	2年				
大学論・学問論 休講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	27	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	28	
	1年				
統計を読む・統計をつくる 山本 努	1学期	1	2	29	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	30
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	31
	濱崎 裕介	1年			
	フィジカル・エクササイズI(ソフトボール)	1学期	1	1	32
	濱崎 裕介	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	33
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	34
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	35
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	36
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	37
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	38
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	39
	磯貝 浩久	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
濱崎 裕介	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	41	
濱崎 裕介	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	42	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	43	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	44	
鯨 吉夫	1年				

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	45	
		1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	46	
		1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	47	
		1年				
	■教養演習科目	教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	48
			1年			
		教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	49
		1年				
教養基礎演習I 小林 道彦		1学期	1	2	50	
		1年				
教養基礎演習I 神原 ゆうこ		1学期	1	2	51	
		1年				
教養基礎演習I 稲月 正		1学期	1	2	52	
		1年				
教養基礎演習I 廣川 祐司		1学期	1	2	53	
		1年				
教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司		1学期	1	2	54	
		1年				
教養基礎演習I 伊原木 大祐		1学期	1	2	55	
	1年					
教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	56		
	1年					
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	57		
	1年					
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	58		
	1年					
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	59		
	1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習Ⅱ 日高 京子	2学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 小林 道彦	2学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 神原 ゆうこ	2学期	1	2	62
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 徳永 政夫	2学期	1	2	63
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 稲月 正	2学期	1	2	64
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 廣川 祐司	2学期	1	2	65
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	66
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 伊原木 大祐	2学期	1	2	67
		1年			
教養基礎演習Ⅱ 二宮 正人	2学期	1	2	68	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 高西 敏正	2学期	1	2	69	
	1年				
教養演習AⅠ 伊野 憲治 他	1学期	2	2	70	
	2年				
教養演習AⅠ 高西 敏正	1学期	2	2	71	
	2年				
教養演習AⅠ 日高 京子	1学期	2	2	72	
	2年				
教養演習AⅠ 小林 道彦	1学期	2	2	73	
	2年				
教養演習AⅠ 神原 ゆうこ	1学期	2	2	74	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習A1(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	75
		2年			
	教養演習A1 稲月 正	1学期	2	2	76
		2年			
	教養演習A1 伊原木 大祐	1学期	2	2	77
		2年			
	教養演習A2 伊野 憲治 他	2学期	2	2	78
		2年			
	教養演習A2 徳永 政夫 他	2学期	2	2	79
		2年			
	教養演習A2 日高 京子	2学期	2	2	80
		2年			
	教養演習A2 小林 道彦	2学期	2	2	81
		2年			
	教養演習A2 神原 ゆうこ	2学期	2	2	82
		2年			
	教養演習A2(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	83
		2年			
教養演習A2 稲月 正	2学期	2	2	84	
	2年				
教養演習A2 伊原木 大祐	2学期	2	2	85	
	2年				
教養演習B1 伊野 憲治 他	1学期	3	2	86	
	3年				
教養演習B1 高西 敏正	1学期	3	2	87	
	3年				
教養演習B1 日高 京子	1学期	3	2	88	
	3年				
教養演習B1 小林 道彦	1学期	3	2	89	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ	1学期	3	2	90
	神原 ゆうこ	3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー)	1学期	3	2	91
	戸蒔 仁司	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	92
	稲月 正	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	93
	伊原木 大祐	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	94
	徳永 政夫 他	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	95
	伊野 憲治 他	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	96
	日高 京子	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	97
小林 道彦	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	98	
神原 ゆうこ	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー)	1学期	3	2	99	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	100	
稲月 正	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	101	
伊原木 大祐	3年				
プロジェクト演習Ⅰ	2学期	2	2	102	
見館 好隆	2年				
プロジェクト演習Ⅱ	1学期	3	2	103	
見館 好隆	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし(ナウシカ)	1学期	1	2	104
	竹川 大介	1年			

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	105
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	106
		1年			
	自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	107
		1年			
	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	108
		1年			
	現代人のこころ 田中 信利	1学期	1	2	109
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	110
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	111
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	112
		1年			
ものがたりと人間 休講	1学期	1	2		
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	113	
	1年				
言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2		
	1年				
芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	114	
	1年				
文学を読む 馬場 美佳 他	2学期	1	2	115	
	1年				
戦争と人間 戸蔭 仁司 他	1学期	1	2	116	
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	117	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	118
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	119
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	120
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	121
		1年			
	共生の作法 重松 博之 他	2学期	1	2	122
		1年			
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	123
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	124
		1年			
	企業と社会 遠藤 雄二	2学期	1	2	125
		1年			
	つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	126
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	127
		1年			
現代社会の諸問題 重松 博之 他	2学期	1	2	128	
	1年				
現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	129	
	1年				
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	130	
	1年				
国際紛争と国連 戸蔭 仁司	1学期	1	2	131	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	132	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	133
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	134
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	135
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	136
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	137
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	138
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	139
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	140
		1年			
	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	141
	1年				
ものと人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	142	
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	143	
	1年				
教養特講I (生命と物質) 日高 京子 他	1学期	1	2	144	
	1年				
教養特講I (生命の境界線) 中道 壽一 他	2学期	1	2	145	
	1年				
教養特講II (セクシュアル・ライツ) 文学部 河嶋 静代 他	2学期	1	2	146	
	1年				
教養特講III (誰にも負けない私のイギリス案内) 山崎 勇治	2学期	1	2	147	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	教養特講Ⅳ(報道・情報・営業、テレビはいま)	2学期	1	2	148
	見館 好隆 他	1年			
■教職関連科目	日本史	2学期	1	2	149
	内山 一幸	1年			
	西洋史	1学期	1	2	150
	疇谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	151
	藤野 月子	1年			
	社会学	1学期	1	2	152
	稲月 正	1年			
	人文地理学	2学期	1	2	153
	吉津 直樹	1年			
	土地地理学	1学期	1	2	154
	野井 英明	1年			
	地誌学	1学期	1	2	155
	吉津 直樹	1年			
	日本国憲法	2学期	1	2	156
	植木 淳	1年			
倫理学	2学期	1	2	157	
伊原木 大祐	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	1学期	1	2	158
	中尾 泰士	比・再履人・群			
	エンドユーザコンピューティング	1学期	1	2	159
	中尾 泰士	人・再履比・群			
	データ処理	2学期	1	2	160
	浅羽 修丈	比1-1・再履人			
データ処理	2学期	1	2	161	
山田 寛	人1-2				
データ処理	2学期	1	2	162	
浅羽 修丈	人1-1・再履比				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	163
		2年			
	情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	164
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	165
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	1学期	2	2	166
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 渡邊 晶子	1学期	1	1	167
		人1 - A			
	英語I 相原 信彦	1学期	1	1	168
		人1 - B			
	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	169
		人1 - C			
	英語II 渡邊 晶子	2学期	1	1	170
		人1 - A			
	英語II 相原 信彦	2学期	1	1	171
		人1 - B			
	英語II 伊藤 晃	2学期	1	1	172
		人1 - C			
	英語III ダニー・ミン	1学期	1	1	173
		人1 - A			
英語III ホセ・クルーズ	1学期	1	1	174	
	人1 - B				
英語III デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	1	1	175	
	人1 - C				
英語IV ダニー・ミン	2学期	1	1	176	
	人1 - A				
英語IV ロバート・マーフィ	2学期	1	1	177	
	人1 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	1	1	178
		人1 - C			
	英語V 船方 浩子	1学期	2	1	179
		人2 - A			
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	180
		人2 - B			
	英語V 村田 希巳子	1学期	2	1	181
		人2 - C			
	英語VI 船方 浩子	2学期	2	1	182
		人2 - A			
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	183
		人2 - B			
	英語VI 村田 希巳子	2学期	2	1	184
		人2 - C			
	英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	185
		人2 - A			
	英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	186
		人2 - B			
	英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	187
		人2 - C			
英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	188	
	人2 - A				
英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	189	
	人2 - B				
英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	190	
	人2 - C				
英語IX 渡邊 嘉則	1学期	3	1	191	
	比人3年				
英語X 渡邊 嘉則	2学期	3	1	192	
	比人3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語XI デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	3	1	193
		比人3年			
	英語XII ロバート・マーフィ	2学期	3	1	194
		比人3年			
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	195
		人1年			
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	196
		人1年			
	中国語III 未定	1学期	1	1	197
		人1年			
	中国語IV 未定	2学期	1	1	198
		人1年			
	中国語V 正野 留加	1学期	2	1	199
		済営人律政群2年			
	中国語VI 正野 留加	2学期	2	1	200
		済営人律政群2年			
	中国語VII 王 晨	1学期	2	1	201
		済営人律政群2年			
	中国語VIII 王 晨	2学期	2	1	202
		済営人律政群2年			
上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	203	
	英国済営比人3年				
上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	204	
	英国済営比人3年				
上級中国語III 王 占華	1学期	3	1	205	
	英国済営比人3年				
上級中国語IV 王 占華	2学期	3	1	206	
	英国済営比人3年				
朝鮮語I 金 光子	1学期	1	1	207	
	人1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語II 金 光子	2学期	1	1	208
		人1年			
	朝鮮語III 金 京姫	1学期	1	1	209
		人1年			
	朝鮮語IV 金 京姫	2学期	1	1	210
		人1年			
	朝鮮語V チャン ユンヒャン	1学期	2	1	211
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VI チャン ユンヒャン	2学期	2	1	212
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VII チャン ユンヒャン	1学期	2	1	213
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VIII チャン ユンヒャン	2学期	2	1	214
		済営比人律政群2年			
	上級朝鮮語I 金 貞淑	1学期	3	1	215
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II 金 貞淑	2学期	3	1	216
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語III 金 貞愛	1学期	3	1	217
		英中国済営比人3年			
上級朝鮮語IV 金 貞愛	2学期	3	1	218	
	英中国済営比人3年				
ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	219	
	済営比人1年				
ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	220	
	済営比人1年				
ロシア語III ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	221	
	済営比人1年				
ロシア語IV ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	222	
	済営比人1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語V 芳之内 雄二	1学期	2	1	223
		済営比人律政2年			
	ロシア語VI 芳之内 雄二	2学期	2	1	224
		済営比人律政2年			
	ロシア語VII ナタリア・シェスタコーワ	1学期	2	1	225
		済営比人律政2年			
	ロシア語VIII ナタリア・シェスタコーワ	2学期	2	1	226
		済営比人律政2年			
	ドイツ語I 古賀 正之	1学期	1	1	227
		済営人1年			
	ドイツ語II 古賀 正之	2学期	1	1	228
		済営人1年			
	ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	229
		済営人1年			
	ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	230
		済営人1年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	231
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	232
		済営比人律政2年			
ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	233	
	済営比人律政2年				
ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	234	
	済営比人律政2年				
フランス語I 中川 裕二	1学期	1	1	235	
	済営人1年				
フランス語II 中川 裕二	2学期	1	1	236	
	済営人1年				
フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	237	
	済営人1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語Ⅳ 山下 広一	2学期	1	1	238
		済営人 1年			
	フランス語Ⅴ 坂田 由紀	1学期	2	1	239
		済営比人律政 2年			
	フランス語Ⅵ 坂田 由紀	2学期	2	1	240
		済営比人律政 2年			
	フランス語Ⅶ 山下 高之	1学期	2	1	241
		済営比人律政 2年			
	フランス語Ⅷ 山下 高之	2学期	2	1	242
		済営比人律政 2年			
	スペイン語Ⅰ 辻 光博	1学期	1	1	243
		比人 1年			
	スペイン語Ⅱ 辻 光博	2学期	1	1	244
		比人 1年			
	スペイン語Ⅲ 岡住 正秀	1学期	1	1	245
		比人 1年			
スペイン語Ⅳ 岡住 正秀	2学期	1	1	246	
	比人 1年				
スペイン語Ⅴ 辻 光博	1学期	2	1	247	
	済営比人律政 2年				
スペイン語Ⅵ 辻 光博	2学期	2	1	248	
	済営比人律政 2年				
スペイン語Ⅶ 辻 博子	1学期	2	1	249	
	済営比人律政 2年				
スペイン語Ⅷ 辻 博子	2学期	2	1	250	
	済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語 A 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	1学期 (ペア)	1	2	251
		留学生 1年			
	日本語 A 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	1学期 (ペア)	1	2	252
		留学生 1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語B 清水 順子	1学期 (ペア)	1	2	253
		留学生 1年			
	日本語B 清水 順子	1学期 (ペア)	1	2	254
		留学生 1年			
	日本語C 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	2学期 (ペア)	1	2	255
		留学生 1年			
	日本語C 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	2学期 (ペア)	1	2	256
		留学生 1年			
	日本語D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	257
		留学生 1年			
	日本語D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	258
		留学生 1年			
日本事情 (人文) A		1学期	1	2	259
	留学生 1年				
日本事情 (人文) B		2学期	1	2	260
	留学生 1年				
日本事情 (社会) A 山崎 勇治		1学期	1	2	261
	留学生 1年				
日本事情 (社会) B 山崎 勇治		2学期	1	2	262
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■選択科目	認知心理学 福田 恭介	2学期	2	2	263
		2年			
	社会心理学 田島 司	2学期	2	2	264
		2年			
	対人心理学 田島 司	1学期	2	2	265
		2年			
臨床心理学 田中 信利	1学期	2	2	266	
	2年				
カウンセリング論 田中 信利	2学期	2	2	267	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	コミュニケーション論	1学期	2	2	268
	森永 今日子	2年			
	学習心理学	2学期	2	2	269
	大塚 一徳	2年			
	教育心理学	2学期	2	2	270
	五十嵐 亮	2年			
	発達心理学	1学期	2	2	271
	税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	休講	2年			
	心理療法論	2学期	2	2	272
	中島 俊介	2年			
	心理統計	2学期	2	2	273
	原口 雅浩	2年			
	老年心理学	2学期	2	2	274
	石塚 優	2年			
	生理心理学	1学期	2	2	275
	麦島 剛	2年			
	社会意識論	2学期	2	2	
	休講	2年			
文化社会学	1学期	2	2		
休講	2年				
家族社会学	集中	2	2	276	
鈴木 健之	2年				
理論社会学	集中	2	2		
休講	2年				
教育社会学	1学期	2	2		
休講	2年				
情報社会論	集中	2	2	277	
明間 肇	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	消費社会論	1学期	2	2	278
		2年			
	フィールドワーク論	集中	2	2	279
	藪田 慎司	2年			
	環境社会学	2学期	2	2	280
	岩松 文代	2年			
	人間環境地理学	2学期	2	2	281
	野井 英明	2年			
	生態人類学	1学期	2	2	282
	竹川 大介	2年			
	人間性の進化	集中	2	2	
	休講	2年			
	比較表象文化	1学期	2	2	283
	未定	2年			
	日本の大衆文化	2学期	2	2	284
	真鍋 昌賢	2年			
	教育原理	2学期	2	2	285
	見玉 弥生	2年			
教師論	1学期	2	2	286	
黒田 耕司	2年				
生涯学習学	1学期	2	2	287	
恒吉 紀寿	2年				
主体形成論	2学期	2	2	288	
恒吉 紀寿	2年				
教育相談	1学期	2	2	289	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	290	
楠 凡之	2年				
次世代育成論	1学期	2	2	291	
恒吉 紀寿	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目	社会教育計画論	2学期	2	2	292
	相戸 晴子	2年			
	生涯学習編成論	1学期	2	2	293
	山下 厚生	2年			
	現代社会と社会教育	1学期	2	2	294
	山口 保夫	2年			
	教育工学	2学期	2	2	295
	大塚 一徳	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	296
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	297
	黒田 耕司	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	298
	弓野 勝族	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	299
	楠 凡之	2年			
	博物館概論	1学期	2	2	300
	永尾 正剛	2年			
コミュニティスポーツ論	2学期	2	2	301	
内田 満	2年				
スポーツ産業論	2学期	2	2	302	
内田 満	2年				
健康科学	2学期	2	2	303	
高西 敏正	2年				
スポーツ心理学	1学期	2	2	304	
磯貝 浩久	2年				
身体適応論	1学期	2	2	305	
高西 敏正	2年				
身体スポーツ論	2学期	2	2	306	
加倉井 美智子	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	トレーニング論 徳永 政夫	2学期	2	2	307
		2年			
	心理学研究法 原口 雅浩	2学期	3	2	308
		3年			
	心理学実験実習II 田中 信利 他	1学期(ペア)	3	2	309
		3年			
	環境経済学 牛房 義明	1学期	3	2	310
		3年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	311
		3年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	312
		3年			
	人体の構造と機能及び疾病 小野 二六一	1学期	2	2	313
		2年			
	社会調査の基礎	1学期	2	2	314
		2年			
	相談援助の基盤と専門職 1 坂本 毅啓	1学期	1	2	315
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 坂本 毅啓	2学期	1	2	316
		1年			
相談援助の理論と方法 1 藤藪 貴治	1学期	2	2	317	
	2年				
相談援助の理論と方法 2 松川 素子	2学期	2	2	318	
	2年				
相談援助の理論と方法 3 藤田 博久	1学期	2	2	319	
	2年				
地域福祉の理論と方法 1 深谷 裕	1学期	2	2	320	
	2年				
地域福祉の理論と方法 2 渡辺 良司	2学期	2	2	321	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	福祉行財政と福祉計画 難波 利光	1学期	3	2	322
		3年			
	福祉サービスの組織と経営 中園 紀明	2学期	3	2	323
		3年			
	社会保障 坂本 毅啓	1学期	2	2	324
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 石塚 優	1学期	2	2	325
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 石塚 優	2学期	2	2	326
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 小賀 久	1学期	2	2	327
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 河嶋 静代	2学期	2	2	328
		2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 藤藪 貴治	2学期	2	2	329
		2年			
	保健医療サービス 来田 時子 他	1学期	2	2	330
		2年			
権利擁護と成年後見制度 小賀 久	1学期	3	2	331	
	3年				
相談援助演習 1 小賀 久	2学期	2	2	332	
	2年				
相談援助演習 2 小賀 久	1学期	3	2	333	
	3年				
相談援助演習 3 小賀 久	1学期	3	2	334	
	3年				
相談援助演習 4 河嶋 静代	2学期	3	2	335	
	3年				
相談援助演習 5 河嶋 静代	1学期	4	2	336	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	相談援助実習指導 1 小賀 久	1学期 (ペア)	3	2	337
		3年			
	相談援助実習指導 2 河嶋 静代	2学期	3	1	338
		3年			
	相談援助実習 小賀 久	集中	3	6	339
		3年			
	児童福祉論 河嶋 静代	1学期	2	2	340
		2年			
	障害者福祉論 小賀 久	2学期	2	2	341
		2年			
■演習・卒論科目	演習 A - 1 休講	1学期	3	2	
		3年			
	演習 A - 1 田島 司	1学期	3	2	342
		3年			
	演習 A - 1 田中 信利	1学期	3	2	343
		3年			
	演習 A - 1 松尾 太加志	1学期	3	2	344
		3年			
	演習 A - 1 野井 英明	1学期	3	2	345
		3年			
	演習 A - 1	1学期	3	2	346
		3年			
	演習 A - 1 竹川 大介	1学期	3	2	347
		3年			
演習 A - 1 河嶋 静代	1学期	3	2	348	
	3年				
演習 A - 1 小賀 久	1学期	3	2	349	
	3年				
演習 A - 1 黒田 耕司	1学期	3	2	350	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 1 楠 凡之	1学期	3	2	351
		3年			
	演習 A - 1 恒吉 紀寿	1学期	3	2	352
		3年			
	演習 A - 1 児玉 弥生	1学期	3	2	353
		3年			
	演習 A - 1 加倉井 美智子	1学期	3	2	354
		3年			
	演習 A - 1 高西 敏正	1学期	3	2	355
		3年			
	演習 A - 1 岩松 文代	2学期	3	2	356
		3年			
	演習 A - 1 税田 慶昭	1学期	3	2	357
		3年			
	演習 A - 2 休講	2学期	3	2	
		3年			
	演習 A - 2 田島 司	2学期	3	2	358
		3年			
演習 A - 2 田中 信利	2学期	3	2	359	
	3年				
演習 A - 2 松尾 太加志	2学期	3	2	360	
	3年				
演習 A - 2 野井 英明	2学期	3	2	361	
	3年				
演習 A - 2	2学期	3	2	362	
	3年				
演習 A - 2 竹川 大介	2学期	3	2	363	
	3年				
演習 A - 2 河嶋 静代	2学期	3	2	364	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 2 小賀 久	2学期	3	2	365
		3年			
	演習 A - 2 黒田 耕司	2学期	3	2	366
		3年			
	演習 A - 2 楠 凡之	2学期	3	2	367
		3年			
	演習 A - 2 恒吉 紀寿	2学期	3	2	368
		3年			
	演習 A - 2 児玉 弥生	2学期	3	2	369
		3年			
	演習 A - 2 加倉井 美智子	2学期	3	2	370
		3年			
	演習 A - 2 高西 敏正	2学期	3	2	371
		3年			
	演習 A - 2 岩松 文代	2学期	3	2	372
		3年			
	演習 A - 2 税田 慶昭	2学期	3	2	373
		3年			
	演習 B - 1 休講	1学期	4	2	
		4年			
演習 B - 1 田島 司	1学期	4	2	374	
	4年				
演習 B - 1 田中 信利	1学期	4	2	375	
	4年				
演習 B - 1 松尾 太加志	1学期	4	2	376	
	4年				
演習 B - 1 野井 英明	1学期	4	2	377	
	4年				
演習 B - 1	1学期	4	2	378	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 1 竹川 大介	1学期	4	2	379
		4年			
	演習B - 1 河嶋 静代	1学期	4	2	380
		4年			
	演習B - 1 小賀 久	1学期	4	2	381
		4年			
	演習B - 1 黒田 耕司	1学期	4	2	382
		4年			
	演習B - 1 楠 凡之	1学期	4	2	383
		4年			
	演習B - 1 恒吉 紀寿	1学期	4	2	384
		4年			
	演習B - 1 見玉 弥生	1学期	4	2	385
		4年			
	演習B - 1 加倉井 美智子	1学期	4	2	386
		4年			
	演習B - 1 高西 敏正	1学期	4	2	387
		4年			
	演習B - 1 岩松 文代	2学期	4	2	388
		4年			
演習B - 1 税田 慶昭	1学期	4	2	389	
	4年				
演習B - 2 休講	2学期	4	2		
	4年				
演習B - 2 田島 司	2学期	4	2	390	
	4年				
演習B - 2 田中 信利	2学期	4	2	391	
	4年				
演習B - 2 松尾 太加志	2学期	4	2	392	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 2 野井 英明	2学期	4	2	393
		4年			
	演習B - 2	2学期	4	2	394
		4年			
	演習B - 2 竹川 大介	2学期	4	2	395
		4年			
	演習B - 2 河嶋 静代	2学期	4	2	396
		4年			
	演習B - 2 小賀 久	2学期	4	2	397
		4年			
	演習B - 2 黒田 耕司	2学期	4	2	398
		4年			
	演習B - 2 楠 凡之	2学期	4	2	399
		4年			
	演習B - 2 恒吉 紀寿	2学期	4	2	400
		4年			
演習B - 2 見玉 弥生	2学期	4	2	401	
	4年				
演習B - 2 加倉井 美智子	2学期	4	2	402	
	4年				
演習B - 2 高西 敏正	2学期	4	2	403	
	4年				
演習B - 2 岩松 文代	2学期	4	2	404	
	4年				
演習B - 2 税田 慶昭	2学期	4	2	405	
	4年				
卒業論文 シラバス作成しない	1・2学期 (ペア)	4	6	406	
	4年				
■基礎演習科目	人間関係学基礎演習I 加倉井 美智子 他	1学期	1	2	407
		1年			

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■基礎演習科目	人間関係学基礎演習II 高西 敏正 他	2学期 (ペア)	1	2	408
		1年			
■概論科目	心理学概論 田中 信利 他	2学期	1	2	409
		1年			
	基礎心理学 松尾 太加志 他	1学期	1	2	410
		1年			
	社会学概論	1学期	1	2	411
		1年			
	人間環境概論 野井 英明 他	1学期	1	2	412
		1年			
	人類学概論 竹川 大介	2学期	1	2	413
		1年			
	教育学概論 恒吉 紀寿 他	1学期	1	2	414
		1年			
	生涯スポーツ学概論 加倉井 美智子 他	2学期	1	2	415
		1年			
	現代社会と福祉 1 河嶋 静代	1学期	1	2	416
		1年			
現代社会と福祉 2 小賀 久	2学期	1	2	417	
	1年				
■実験実習科目	心理学実験実習I 松尾 太加志	2学期 (ペア)	2	2	418
		2年			
	社会調査実習 (フィールドワーク) 非常勤:未定	1学期 (ペア)	2	2	419
		2年			
	社会調査実習 (サーベイ)	2学期 (ペア)	2	2	420
		2年			
人間環境実験・実習 野井 英明 他	1学期 (ペア)	2	2	421	
	2年				
生涯教育・生涯スポーツ実習 加倉井 美智子 他	1学期 (ペア)	2	2	422	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	法学総論 法:中山後任	1学期	1	2	423
		1年			
	政治学 濱本 真輔	1学期	1	2	424
		1年			
	国際関係論I 千知岩 正継	1学期	1	2	425
		1年			
	国際関係論II 大平 剛	2学期	1	2	426
		1年			
	メディア文化概論 未定	1学期	1	2	427
		1年			
	博物館経営論・博物館情報論 永尾 正剛	2学期	2	2	428
		2年			
	博物館資料論 永尾 正剛	1学期	2	2	429
		2年			
	日本の歴史と社会 八百 啓介	1学期	2	2	430
		2年			
	経済地理学I 柳井 雅人	1学期	2	2	431
		2年			
	経済地理学II 柳井 雅人	2学期	2	2	432
		2年			
国際法I 二宮 正人	1学期	2	2	433	
	2年				
国際法II 二宮 正人	2学期	2	2	434	
	2年				
博物館実習I 真鍋 昌賢 他	2学期(ペア)	3	1	435	
	3年				
博物館実習II 五月女 晴恵 他	1学期(ペア)	4	2	436	
	4年				
■教職に関する科目	社会科教育法A 坂口 一隆	1学期	2	2	437
		2年			

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目	社会科教育法 B	2学期	2	2	438
	坂口 一隆	2年			
	公民科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育実習 3	1学期	4	2	439
	恒吉 紀寿 他	4年			
	社会科教育法 C	1学期	2	2	
	休講	2年			
社会科教育法 D	2学期	2	2		
休講	2年				
■必修科目	教育実習 1	2学期	3	2	440
	黒田 耕司 他	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	441
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教職実践演習	2学期	4	2	
未開講	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	442
	1年				
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	443
	1年				
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	444
	1年				
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	445
	1年				
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	446
	1年				
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	447
	1年				
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
家族の再生 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
文化と政治 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
言語と認知 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	448	
1年					
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	449
	1年				

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	450
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 内田 若希	1学期	1	2	451
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	キャリア・デザイン (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	コミュニケーションと思考法 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	大学論・学問論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
法律の読み方 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
統計を読む・統計をつくる (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	452	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養基礎演習II (昼のみ開講)		1	2	
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	教養演習AⅡ (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	教養演習BⅠ (昼のみ開講)		3	2	
		3年			
	教養演習BⅡ 二宮 正人	2学期	3	2	453
	3年				
プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講)		3	2		
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし (人間と生命) 日高 京子	2学期	1	2	454
		1年			
	動物のみかた (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自然史へのいざない (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	455	
	1年				
現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	456	
	1年				
数のたのしみ (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
思想と現代 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	文化と表象 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	言語とコミュニケーション (昼のみ開講)		1	2	1年	
	芸術と人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	文学を読む 休講	2学期	1	2	1年	
	戦争と人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	1年	457
	民主主義とは何か 休講	1学期	1	2	1年	
	人権論 休講	1学期	1	2	1年	
	ジェンダー論 休講	1学期	1	2	1年	
障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	1年	458	
共生の作法 (昼のみ開講)		1	2	1年		
北九州学 休講	2学期	1	2	1年		
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	1年	459	
企業と社会 休講	1学期	1	2	1年		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講)		1	2	460
		1年			
	現代社会と倫理 休講	1学期	1	2	460
		1年			
	現代社会の諸問題 重松 博之 他	2学期	1	2	460
		1年			
	現代の国際情勢 休講	1学期	1	2	460
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	461
		1年			
	国際紛争と国連 休講	1学期	1	2	461
		1年			
	民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講)		1	2	461
		1年			
	開発と統治 休講	2学期	1	2	462
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	462
		1年			
	テロリズム論 (昼のみ開講)		1	2	462
		1年			
国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	463	
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	464	
	1年				
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	465	
	1年				
そのとき世界は (昼のみ開講)		1	2	465	
	1年				
戦後の日本経済 (昼のみ開講)		1	2	465	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	466
		1年			
	もとと人間の歴史 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	467
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
教養特講III (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
教養特講IV (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	468
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	469
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	470
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	471
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	472
		1年			
土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	473	
	1年				
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	474	
	1年				
日本国憲法 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	475
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	476
		群・夜間主コース			
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	477
		群・夜間主コース			
	情報表現 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
プログラミング基礎 (昼のみ開講)			2	2	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	478
		比人夜 1年			
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	479
		比人夜 1年			
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	480
		比人夜 1年			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	481
		比人夜 1年			
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	482
		比人夜 2年			
	英語VI 漆原 朗子	2学期	2	1	483
		比人夜 2年			
	英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	484
		比人夜 2年			
英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	485	
	比人夜 2年				
■第二外国語	中国語I 一木 達彦	1学期	1	1	486
		英比人夜 1年			
	中国語II 一木 達彦	2学期	1	1	487
		英比人夜 1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ 王 占華	1学期	1	1	488
		英比人夜 1年			
	中国語Ⅳ 王 占華	2学期	1	1	489
		英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅰ 金 光子	1学期	1	1	490
		英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅱ 金 光子	2学期	1	1	491
		英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅲ 金 光子	1学期	1	1	492
		英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	493
		英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	494
		英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	495
		英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅲ 芳之内 雄二	1学期	1	1	496
		英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅳ 芳之内 雄二	2学期	1	1	497
		英比人夜 1年			
ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	498	
	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	499	
	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	500	
	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	501	
	比人夜 1年				
フランス語Ⅰ 福島 勲	1学期	1	1	502	
	比人夜 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II 福島 勲	2学期	1	1	503
		比人夜 1年			
	フランス語III 福島 勲	1学期	1	1	504
		比人夜 1年			
	フランス語IV 福島 勲	2学期	1	1	505
		比人夜 1年			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	506
		英比人夜 1年			
	スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	507
		英比人夜 1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	508
		英比人夜 1年			
	スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	509
		英比人夜 1年			
■専門教育科目 ■選択科目	認知心理学 休講	2学期	2	2	
		2年			
	対人心理学 田島 司	1学期	2	2	510
		2年			
	臨床心理学 休講	1学期	2	2	
		2年			
	カウンセリング論 休講	2学期	2	2	
		2年			
	コミュニケーション論 森永 今日子	1学期	2	2	511
		2年			
学習心理学 昼のみ開講	2学期	2	2		
	2年				
教育心理学 休講	2学期	2	2		
	2年				
発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	512	
	2年				

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	513
		2年			
	心理療法論 昼のみ開講	2学期	2	2	
		2年			
	心理統計 昼のみ開講	2学期	2	2	
		2年			
	老年心理学 昼のみ開講	2学期	2	2	
		2年			
	生理心理学 昼のみ開講	1学期	2	2	
		2年			
	社会意識論	2学期	2	2	514
		2年			
	文化社会学	1学期	2	2	515
		2年			
	家族社会学 昼のみ開講	集中	2	2	
		2年			
	理論社会学 昼のみ開講	集中	2	2	
		2年			
	教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	516
	2年				
情報社会論 昼のみ開講	集中	2	2		
	2年				
消費社会論 休講	1学期	2	2		
	2年				
フィールドワーク論 昼のみ開講	集中	2	2		
	2年				
環境社会学 昼のみ開講	集中	2	2		
	2年				
人間環境地理学 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	生態人類学	1学期	2	2	
	休講	2年			
	人間性の進化	集中	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	比較表象文化	2学期	2	2	
	休講	2年			
	日本の大衆文化	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育原理	2学期	2	2	517
	見玉 弥生	2年			
	教師論	1学期	2	2	518
	黒田 耕司	2年			
	生涯学習学	1学期	2	2	
	休講	2年			
	主体形成論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育相談	1学期	2	2	519
	楠 凡之	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	520
	楠 凡之	2年			
現代社会と社会教育	1学期	2	2		
昼のみ開講	2年				
教育工学	2学期	2	2	521	
大塚 一徳	2年				
道徳教育の研究	1学期	2	2	522	
黒田 耕司	2年				
教育方法学	2学期	2	2	523	
黒田 耕司	2年				
人権教育論	1学期	2	2	524	
弓野 勝族	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	525
		2年			
	博物館概論 休講	1学期	2	2	
		2年			
	コミュニティスポーツ論 休講	2学期	2	2	
		2年			
	健康科学 高西 敏正	2学期	2	2	526
		2年			
	スポーツ心理学 昼のみ開講	1学期	2	2	
		2年			
	身体適応論 休講	1学期	2	2	
		2年			
	身体スポーツ論 加倉井 美智子	2学期	2	2	527
		2年			
	トレーニング論 休講	1学期	2	2	
		2年			
	心理学研究法 昼のみ開講	2学期	3	2	
		3年			
	心理学実験実習II 昼のみ開講	1学期 (ペア)	3	2	
		3年			
環境経済学 休講	1学期	3	2		
	3年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	528	
	3年				
教育法規 休講	2学期	3	2		
	3年				
人体の構造と機能及び疾病 村田 直子	1学期	2	2	529	
	2年				
社会調査の基礎	1学期	2	2	530	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	相談援助の基盤と専門職 1	1学期	1	2	
	昼のみ開講	1年			
	相談援助の基盤と専門職 2	2学期	1	2	
	昼のみ開講	1年			
	相談援助の理論と方法 1	1学期	2	2	531
	非常勤:未定	2年			
	相談援助の理論と方法 2	2学期	2	2	532
	松川 素子	2年			
	相談援助の理論と方法 3	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	地域福祉の理論と方法 1	1学期	2	2	
	休講	2年			
	福祉行財政と福祉計画	1学期	3	2	533
	難波 利光	3年			
	福祉サービスの組織と経営	2学期	3	2	534
	中園 紀明	3年			
	社会保障	2学期	2	2	535
	坂本 毅啓	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1	1学期	2	2	536
	石塚 優	2年			
高齢者に対する支援と介護保険制度 2	2学期	2	2	537	
石塚 優	2年				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1学期	2	2		
休講	2年				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	2	2	538	
河嶋 静代	2年				
低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	539	
柴田 滋	2年				
保健医療サービス	1学期	2	2	540	
石塚 優	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	権利擁護と成年後見制度	1学期	3	2	3年
	昼のみ開講				
	相談援助演習 1	2学期	2	2	2年
	昼のみ開講				
	相談援助演習 2	1学期	3	2	3年
	昼のみ開講				
	相談援助演習 3	1学期	3	2	3年
	昼のみ開講				
	相談援助演習 4	2学期	3	2	3年
	昼のみ開講				
	相談援助演習 5	1学期	4	2	4年
	昼のみ開講				
	相談援助実習指導 1	1学期	3	2	3年
	昼のみ開講				
	相談援助実習指導 2	2学期	3	1	3年
	昼のみ開講				
相談援助実習	集中	3	6	3年	
昼のみ開講					
児童福祉論	1学期	2	2	2年	
昼のみ開講					
障害者福祉論	2学期	2	2	2年	
昼のみ開講					
■演習・卒論科目	卒業論文	1・2学期(ペア)	4	6	541
	シラバス作成しない	4年			
■概論科目	心理学概論	2学期	1	2	542
	田中 信利 他	1年			
	基礎心理学	1学期	1	2	1年
	休講				
	人間環境概論	1学期	1	2	1年
休講					

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■概論科目	人類学概論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	生涯スポーツ学概論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	現代社会と福祉 1	1学期	1	2	543
	河嶋 静代	1年			
	現代社会と福祉 2	2学期	1	2	544
	深谷 裕	1年			
■実験実習科目	心理学実験実習I	1学期(ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	社会調査実習(フィールドワーク)	1学期(ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	社会調査実習(サーベイ)	2学期(ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	人間環境実験・実習	1学期(ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	生涯教育・生涯スポーツ実習	1学期(ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
■自由科目	法学総論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	政治学	1学期	1	2	
	休講	1年			
	メディア文化概論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	博物館経営論・博物館情報論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	博物館資料論	1学期	2	2	
	休講	2年			
	日本の歴史と社会	2学期	2	2	
	休講	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	経済地理学I	1学期	2	2	545
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	546
	杉浦 勝章	2年			
	国際法I	1学期	2	2	547
	二宮 正人	2年			
	国際法II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	博物館実習I	2学期(ペア)	3	1	
	休講	3年			
	博物館実習II	1学期(ペア)	4	2	
	休講	4年			
■教職に関する科目	社会科教育法A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	社会科教育法B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法A	1学期	2	2	548
	飯田 直弘	2年			
	公民科教育法B	2学期	2	2	549
	飯田 直弘	2年			
	教育実習3	1学期	4	2	550
	恒吉 紀寿	4年			
	社会科教育法C	1学期	2	2	551
	坂口 一隆	2年			
社会科教育法D	2学期	2	2	552	
坂口 一隆	2年				
■必修科目	教育実習1	2学期	3	2	553
	黒田 耕司	3年			
	教育実習2	1学期	4	2	554
	恒吉 紀寿	4年			

文学部 人間関係学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職実践演習	2学期	4	2	
	未開講	4年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から敗戦（1945）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【維新の三傑】
- 第3回 不平等条約と条約改正
- 第4回 明治14年政変と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第5回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第6回 明治憲法体制【伊藤博文】
- 第7回 日露戦争【山県有朋】
- 第8回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第9回 21カ条要求【大隈重信】
- 第10回 原敬と協調外交【原敬】
- 第11回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第12回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第13回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【東条英機】【吉田茂】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点
- 2回 家族制度の歴史
- 3回 家族の機能
- 4回 ハードウェアとしての家族
- 5回 システムとしての家族① - しつけ・教育
- 6回 システムとしての家族② - 役割・役割分担
- 7回 システムとしての家族③ - 勢力・権威
- 8回 現代家族の課題-離婚の原因
- 9回 現代家族の課題-離婚制度
- 10回 現代家族の課題-中高年の離婚
- 11回 現代家族の課題-夫婦間暴力
- 12回 現代家族の課題-児童虐待
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-高齢社会と家族
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかで育まれたものである。グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なるものであり、その違いを理解するのが困難なこともある。本講義では、その違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、自分なりの姿勢を身に着けるための手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、Power Pointのキーワードを書き写しただけで、安心せず、ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化
第2回 異文化理解とは

第3回 家族は普遍的か？
第4回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回 ジェンダー
第7回 伝統と普遍的価値観

第8回 中間試験 / 経済活動に見る文化：導入
第9回 経済活動にみる文化②：贈与・交換とは
第10回 経済活動にみる文化③：現代の贈与・交換
第11回 開発の現場における「文化の差異」
第12回 「貧しさ」とは何か

第13回 中間試験の講評 / 文化と世界観①：儀礼
第14回 文化と世界観②：宗教・呪術・占い
第15回 講義のまとめ 文化をめぐる問題の現状

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 20%、期末試験 80% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイから読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。2年次以上対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、世界観、経済活動、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる① - 統計から見る家族
- 3回 家族を見つめる② - 現代家族のゆくえ
- 4回 家族を見つめる③ - 家族論の変化
- 5回 家族モデルを考える① - 戦後に形成された家族のモデル
- 6回 家族モデルを考える② - 家族モデルの特徴と役割
- 7回 家族モデルを考える③ - 家族モデルのゆくえ
- 8回 家族の危機を回避する① - 家族の発達課題
- 9回 家族の危機を回避する② - 夫婦のかかわり
- 10回 家族の危機を回避する③ - 中高年の夫婦について
- 11回 家族の危機を回避する④ - 夫婦のコミュニケーション
- 12回 家族の危機を回避する⑤ - 親子のかかわり
- 13回 家庭裁判所の利用を考える① - 家庭裁判所の概要
- 14回 家庭裁判所の利用を考える② - 家庭裁判所の役割
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。
講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はグローバリゼーションの具体的な現場が抱える問題に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社
- ウルリヒ・ベック 2010 『世界リスク社会論』 ちくま学芸文庫
- 吉田憲司1999 『文化の「発見」』 岩波書店
- 関根政美 2000 『多文化主義社会の到来』 朝日選書
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
- デヴッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2回 自文化・異文化を知ること / 知らないこととはどういうことか？
- 第3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知ることの政治性の裏面：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5回 異文化を知ることの政治性①：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第6回 異文化を知ることの政治性②：植民地主義と博物館
- 第7回 普遍的な概念はあるか？
- 第8回 中間試験
- 第9回 グローバリゼーションの時代と人の移動
- 第10回 中間試験講評 / ナショナリズム・エスノナショナリズムと紛争
- 第11回 共生のための政治①：多文化主義
- 第12回 共生のための政治②：多文化主義の限界？
- 第13回 文化帝国主義
- 第14回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治①グローバルな危機への対応
- 第15回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治②リスク社会

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%
そのほか講義中に課した提出物にすばらしいものがあれば評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「人間と文化」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。「人間と文化」が異文化理解の基礎であるならば、「文化と政治」はより時事的な問題を用いる応用的な講義となります。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障とは何か(1)
- 第3回 安全保障とは何か(2)
- 第4回 戦争概論
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争、近代戦争
- 第7回 両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
- 第8回 戦争の変質(勢力均衡、アメリカ的戦争観)
- 第9回 原爆の開発過程
- 第10回 原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の種類と威力
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界論のはじまり(1) 【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(例年2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。
この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはっきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- B・スネル『精神の発見—ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』（新井靖一訳）、創文社。
 - ミシェル・フーコー『監獄の誕生—監視と処罰』（田村俣訳）、新潮社。
- その他の参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2【溝口健二】
- 4回 現代社会と身体の規律 1【シュレーバー】
- 5回 現代社会と身体の規律 2【オーウェル】
- 6回 社会身体論の展望
- 7回 中間考査（2回～6回の内容確認テストを実施）
- 8回 近代社会の勃興と心身二元論【デカルト】
- 9回 古代ギリシャの身体観 1【プラトンからホメロスへ】
- 10回 古代ギリシャの身体観 2【ソポクレス】
- 11回 古代ギリシャの身体観 3【通時的総括】
- 12回 キリスト教共同体と身体【アウグスティヌス】
- 13回 産業社会と身体【ドイツ表現主義】
- 14回 身体としての共同体
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末テスト...60%
(※内容確認テストを受けていない者は、期末テストの受験資格を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。
「生活世界の哲学」、もしくは同担当者による「倫理学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度よりテストを2回にわたって実施するので注意されたい。テスト方式・時間の詳細は初回の授業で説明する。この説明を聞かなかった場合に生じる不利益はすべて受講者本人の自己責任とする。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 権力 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著、ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー -】
 14回 健康な心と身体に行く末について。【老いと死の受容】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第 1回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第10回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせで行う。
- 第11回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時の身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第12回 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障害者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第14回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また将来のために有意義な大学生活を営むために、

- ①アイデンティティを獲得するために、自分について深く知る
- ②働くこと、つまり様々な業界や企業、そして働き方などを知る
- ③多様な人々と協働する力を身に付けるために、初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限の倫理感、社会人マナーを身につける
- ⑤将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 6回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい) ※社会人ゲストを予定
- 7回 社会人としての倫理やマナー① (傾聴、多様性理解)
- 8回 社会人としての倫理やマナー② (アサーショントレーニング)
- 9回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 10回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 11回 地域活動に挑戦する (地域活動を体験した先輩とのディスカッション)
- 12回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 13回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半コミュニケーションの部分では、外部から企業研修等で活躍されている講師が担当します。講師の話や聞き手だけでなく現実場面を設定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 応対マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話応対	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方のTPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることができます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。以下は過去の実績です。

<2011年度>マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路(NEXCOWest Japan)、デンソー九州、山口銀行(北九州銀行)、ジェイアイエヌ(JiNS)、フリーアナウンサー長崎真友子氏

<2010年度>ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行(北九州銀行)

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

○中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2011年度の実績

マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路(NEXCOWest Japan)、デンソー九州、山口銀行(北九州銀行)、ジェイアイエヌ(JiNS)、フリーアナウンサー長崎真友子氏

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員までメールなどで連絡をしてください。
※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の5項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁
※授業終了後、キャリアセンターにて座談会を開催する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'12』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

統計を用いて戦後（あるいは明治以後）の日本の地域変動・社会変動を読み解いていく。近代化、産業化、都市化、高齢化、少子化、過疎化、未婚・晩婚化、地域人口移動などに関わる統計指標が紹介され、それに基づく、社会分析を紹介する。

教科書 /Textbooks

山本努・徳野貞雄・加来和典・高野和良『現代農山村の社会分析』学文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷富夫・山本努『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市化・産業化・過疎化について
- 2回 過疎の変貌について
- 3回 人口の社会動態、自然動態について
- 4回 ある村の家族と職業の変化について
- 5回 地域意識、定住経歴について
- 6回 人口Uターンの基本分析について
- 7回 人口Uターンの生活構造分析について
- 8回 日本の人口推移と近代化の概略について
- 9回 少子化・未婚化と地域社会について
- 10回 1990～2010年ころに見る過疎化の最新段階について
- 11回 少子型過疎、集落分化型過疎の出現
- 12回 高齢者減少型過疎の出現と市町村合併
- 13回 社会調査とは何か
- 14回 量的(統計)分析と社会調査の類型について
- 15回 まとめ、補足、

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・90%
 遅刻・欠席はマイナス評価として反映する・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 1.教科書を持参して授業に参加のこと。教科書ナシでは授業は理解できません。
- 2.授業の進行次第ではプリントを配りますから、こちらも持参して授業に出て下さい。

履修上の注意 /Remarks

「統計を読む・統計をつくる」という科目名から数学のような印象をもつ学生がいるようですが、本講義は社会科学をベースにした講義です。統計学のごく入門的な話題が少し紹介されるかもしれませんが、数学的な統計の授業を期待している学生には受講を勧めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市化、産業化、過疎化、量的(統計)分析、社会調査

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、ソフトボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バレーボールの基礎(1) <オーバーパス>
- 3回 バレーボールの基礎(2) <アンダーパス>
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブカットをセッターに>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <サーブカットからアタックまで>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルールの習得>
- 9回 バレーボールの応用(1) <フォーメーション>
- 10回 バレーボールの応用(2) <ゲーム展開>
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 4回 フライト練習(3) <ドライブ>
- 5回 フライト練習(4) <スマッシュ>
- 6回 サービス練習(1) <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、現代社会と若者について論じているテキスト『希望難民ご一行様』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

古市憲寿・本多由紀 2010 『希望難民ご一行様』光文社新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：『希望難民ご一行様』
- 第8・9回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
- 第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・現代社会や若者に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。
- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポート(4000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジュメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鬼頭秀一（1996）『自然保護を問いなおす—環境倫理とネットワーク』ちくま新書
○大江正章（2008）『地域の力—食・農・まちづくり』岩波新書
その他、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

原則として、後期に開講する「教養基礎演習II」とセットで履修すること。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J. -P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキスト購入しておく必要がある (税込735円)。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。この授業は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！入門編」です。
この演習では、2012ロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選（FIVB, World Olympic Qualification Tournament: WOQT）の全日本の試合を題材に、実際の映像情報や公式情報を使い、ゲームを詳細に見直すことで、受講者に、バレーボールという競技の本質への理解を深めてもらうとともに、勝利のためには何が必要なのかを確認してもらうことを目的としています。この入門編を通じ、バレーボールの試合の流れを正しく掴む力、チームの特徴を捉える力、ゲームの勝因や敗因を特定する力、さらにはチームや個々の選手の今後の課題を明確にする力を養います。つまり受講者の皆さんには、バレーボールを科学するための基礎的な枠組みの習得に加え、試合を左右する戦術的要素に対する正確な視点の確立を目指してほしいと思っています。
また作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、受講者の皆さんには、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を身につけ、高めていってほしいと思っています。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 スキルチェック
- 事例学習『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』の試合を題材に
 - 第3回 ゲーム分析の基礎①：映像によるゲームの確認【作業枠組み】
 - 第4回 ゲーム分析の基礎②：公式記録の探し方とその見方【FIVB】【VIS】【Match Info】
 - 第5回 ゲーム分析の基礎③：コメント・戦評等の収集と活用【TV】【新聞】【日本バレーボール協会】
- 作業課題『FIVB, World Olympic Qualification Tournament (WOQT: 5/19-27, TKO-JPN)』の試合から選択
 - 第6回 グループ分けと作業内容の指示【分析対象試合の振り分け, 2試合 / Group】【PPT】
 - 第7回 グループ作業①：監督・選手コメントや戦評、公式記録等からの情報の収集
 - 第8回 グループ作業②：映像の確認によるゲームの流れの理解と課題の抽出
 - 第9回 グループ作業③：資料作成【試合の基本情報シートの作成】
 - 第10回 グループ作業④：資料作成【対戦チームとの比較分析シートの作成】【映像での再確認】
 - 第11回 グループ作業⑤：資料作成【担当2試合間の比較分析シートの作成】【映像での再確認】
 - 第12回 グループ作業⑥：プレゼン内容の最終確認【打合せ】【トライアル】
 - 第13回 グループ発表とフロア・ディスカッション【Group A】【Group B】
 - 第14回 グループ発表とフロア・ディスカッション【Group C】
対象6試合を通じたフリーディスカッション【クロス分析】
- 第15回 まとめ
- 夏休みの課題（個人研究）『The Olympic Games, London 2012: 7/27-8/12』の試合から選択

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。受講希望者が多い場合は、初回の授業時に選考を行います。したがって受講希望者は、最初の授業には必ず出席するようにしてください。

原則としてIとIIはセットで受講してください。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

夏休みの課題（個人研究）もあります（IIの授業内で発表してもらいます）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。

あなたの『バレーボールカ』を伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール ゲーム分析 ロンドンオリンピック 全日本 FIVB WOQT 2012 VIS 公式記録

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 演習運営方針に関する話し合い。
2~14回 各自の研究報告。
15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、受講者同士の問題関心に近いテキストをディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末には1の4000字レポートを書くことを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くということ。
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか? : 教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3・4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5・6・7・8・9回 テキスト輪読と議論
- 第10・11・12・13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する: レポート相互添削
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4000字のレポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くことが目的です。そのために自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

II（2学期）では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、調査やフィールドワークをするための基礎的な能力を身につけることを目的とする。環境問題やコミュニティ問題などの地域社会が抱える問題の多くは、1つの学問分野では解決することが困難な複合的要因によって発生している。そのため、その解決策を模索する際には、地域社会に出て実際に調査することが必要である。「地域の人々から学ぶ」という学習方法・姿勢の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジーン・レイヴ,エティエンヌ・ウエンガー（1993 = 1991）『状況に埋め込まれた学習-正統的周辺参加-』（佐伯胖訳）産業図書
 ○ジョン・デューイ（2004 = 1938）『経験と教育』（市村尚久訳）講談社学術文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：レポート報告会①（夏季課題レポートの報告）
- 第3回：レポート報告会②（夏季課題レポートの報告）
- 第4回：レポート報告会③（夏季課題レポートの報告）
- 第5回：調査する意味について①（「地域社会から学ぶ」とは何か？）
- 第6回：調査する意味について②
- 第7回：調査をする上での注意点
- 第8回：調査の方法について（量的調査と質的調査）
- 第9回：テキスト（『調査されるという迷惑』）の輪読①
- 第10回：テキストの輪読②
- 第11回：テキストの輪読③
- 第12回：調査計画の作成の方法について
- 第13回：調査計画の作成と報告①
- 第14回：調査計画の作成と報告②
- 第15回：調査計画の作成と報告③ + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前準備（夏季課題レポート）の完成度：30%
 調査計画の完成度：30%
 授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この演習を受講する者は、事前に示す課題について夏季休業中にレポートを作成してから、授業にのぞんでもらう。

履修上の注意 /Remarks

原則として「教養基礎演習I」を受講した者を対象とする。
 （教養基礎演習IIのみを受講したい者は事前に申し出ること。夏季課題レポートについて指示するため。）

教養基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には1年次である程度、興味・関心のあるテーマを自分で見つけることを目指してほしい。春季休業中に実際に「地域社会」に出て調査を行うことが望ましい。

キーワード /Keywords

調査・フィールドワーク、地域社会から学ぶ、調査計画の作成方法

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P.サルトル(安堂信也訳)『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(議事録作成)...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと(税込735円)。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。この授業は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
この演習では、教養基礎演習I(入門編)で経験した「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭(頭脳)」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題(ポイント)を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんに身につけ、高めていってほしいと思います。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス, 夏休みの課題(個人研究)の発表
- 第2回 夏休みの課題(個人研究)の発表の続き, バレーボールとアナリストの役割
- 【連続得点をとるための分析軸I: サービス⇒レセプション(サービスによって先手を取る)】
- 第3回 戦術理解I: レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①: フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②: ローテーションごとに結果を整理(レセプションの評価)
- 第6回 分析結果の発表I: サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II: レセプション⇒アタック(相手チームの攻撃パターンを知る)】
- 第7回 戦術理解II: アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①: レセプション⇒攻撃(軌跡化)
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②: レセプション⇒攻撃(選手ごとの特徴)
- 第10回 分析結果の発表II: どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III: デイグ⇒アタック(拾って攻撃につなげる)】
- 第11回 戦術理解III A: ブロックシステム, フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A: チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B: アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B: 高さを理解した攻撃を考えよう(2つの最高到達点の比較から)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

夏休みの課題(個人研究)を行ってこよう

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。
IとIIはセットで受講してもらうことを原則とします。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 キャンプ実習の計画(1)リーダーとしての関わり
- 5回 キャンプ実習の計画(2)安全性と有効性
- 6回 キャンプ実習の計画(3)プログラム作成
- 7回 キャンプ実習の実施
- 8回 キャンプ実習の評価
- 9回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(1)安全性と有効性
- 10回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(2)プログラム作成
- 11回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(3)プログラム作成
- 12回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施(1)
- 13回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施(2)
- 14回 中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
 高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える①：

本演習では、漠然と現代社会に関する問題や異文化に関する問題に関するフィールド調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文などでこれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて現代社会または異文化に関する文献を購読するとともに、質的調査の方法論に興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：春日直樹『人類学で世界を見る』、菅原和孝（編）『フィールドワークへの挑戦』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社

○箕浦康子（編）1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 具体的な現場から社会を理解することについて（講義）
- 第3回 インタビュー調査の方法と実践①
- 第4回 インタビュー調査の方法と実践②
- 第5回 言葉からわかることの限界
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第10回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・具体的に何らかのフィールドワークを行う必要は特にありませんが、各自で、なんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

- ・教養演習 A11も続けて受講することが望ましいです。
- ・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

- ・ 現代社会、文化、質的調査

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
- 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
- 報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J. -P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキストを購入しておく必要がある (税込735円)。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(1) 体力測定
- 8回 健康増進プログラムの計画(2) 安全性と有効性
- 9回 健康増進プログラムの計画(3) プログラム作成
- 10回 健康増進プログラムの実施
- 11回 健康増進プログラムの評価
- 12回 スキー実習の計画(1) 野外活動の意義
- 13回 スキー実習の計画(2) 安全性と有効性
- 14回 スキー実習の計画(3) プログラム作成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう(400字×20枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2~14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える②：

本演習では、1学期の演習を踏まえて、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。現代社会または異文化に関するテキストの輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、ジェームス・スコット『モラル・エコノミー』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など、または、世界思想社社会学ベーシックシリーズから適宜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心をいかに深めるか：テキストの選定
- 第2回 問題関心へのアプローチ法について：1学期のレポート返却とコメント
- 第3回 問題関心共有のための議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 教養演習AIの受講者を対象とするが、テキスト輪読のみに興味あるなど、教養演習AIIからの受講を希望する者は事前に相談すること。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと (税込735円) 。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 キャンプ実習の計画(1)リーダーとしての関わり
- 5回 キャンプ実習の計画(2)安全性と有効性
- 6回 キャンプ実習の計画(3)プログラム作成
- 7回 キャンプ実習の実施
- 8回 キャンプ実習の評価
- 9回 中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画(1)安全性と有効性
- 10回 中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画(2)プログラム作成
- 11回 中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画(3)プログラム作成
- 12回 中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施(1)
- 13回 中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施(2)
- 14回 中高齢者にあつた身体活動プログラムの評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
 高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習A1・II」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 A1・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える①：

本演習では、漠然と現代社会に関する問題や異文化に関する問題に関するフィールド調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文などでこれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて現代社会または異文化に関する文献を購読するとともに、質的調査の方法論に興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：春日直樹『人類学で世界を見る』、菅原和孝(編)『フィールドワークへの挑戦』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社

○箕浦康子(編) 1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 具体的な現場から社会を理解することについて(講義)
- 第3回 インタビュー調査の方法と実践①
- 第4回 インタビュー調査の方法と実践②
- 第5回 言葉からわかることの限界
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第10回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・ 具体的に何らかのフィールドワークを行う必要は特にありませんが、各自で、なんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 教養演習BIIも続けて受講することが望ましいです。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、質的調査、

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
- 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
- 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想史上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J. -P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキストを購入しておく必要がある (税込735円)。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名
/Instructor

徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名
 /Instructor

伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 2学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
 高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 ゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
 第2回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
 小林担当の「教養演習AI・II」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
 以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える②：

本演習では、1学期の演習を踏まえて、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。現代社会または異文化に関するテキストの輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、ジェームス・スコット『モラル・エコノミー』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など、または、世界思想社社会学ベーシックシリーズから適宜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心をいかに深めるか：テキストの選定
- 第2回 問題関心へのアプローチ法について：1学期のレポート返却とコメント
- 第3回 問題関心共有のための議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べる事が求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 教養演習BIの受講者を対象とするが、テキスト輪読のみに興味あるなど、教養演習BIIからの受講を希望する者は事前に相談すること。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講を義務づける。

BII(2学期)では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会(4)
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会(5)
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会(6)
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題(レポート)...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと (税込735円) 。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は事前にご相談ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は事前にご相談ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし (ナウシカ) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田未寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 「今西錦司と自然学」
- 第2講 「私とあなたの自然学」
- 第3・4講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第5・6講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第7・8講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第9・10講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第11・12講 「風の谷のナウシカの自然学」
- 第13・14講 「人の進化と自然学」
- 第15講 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 30%
- 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 30%
- 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

履修上の注意 /Remarks

講義は教室の中だけでは終わりません。
そういうのが好きな人だけ受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

自然学のまなざし (ナウシカ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学を予定しています。

- 1回 ガイダンス
- 2回・3回 自然史博物館での講義および見学
- 4回 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【学名】【アリストテレス、リンネ、ビュフォン】
- 5回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
- 6回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 7回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 8回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危惧】【生物多様性】
- 9回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- 10回 カエルとサンショウウオのはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- 11回 ヒスイが語る地下深部の世界（森）：【宝石】【鉱物】
- 12回 深海生物～その形と適応の意義～（下村）：【深海】
- 13回 アンモナイトの古生物学（御前）：【化石】【進化】【古生態】
- 14回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の博物館見学は必須となります。
 講義への積極的な参加30%、期末レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

博物館見学は10月第2日曜日と11月最終日曜日を予定していますが、日程を変更する可能性もあります。見学についての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

そのためにまず化学と身近な問題の関係を学習し、そのかわりから化学への興味をもち、そして化学的知識の理解・習得に至る過程に関わることがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)
2,310円 1996年09月発行 ISBN 978-4-621-04227-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) 2200円、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1化学の基礎
- 2砂糖と甘味料
- 3アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 4コレステロール、その働き
- 5脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 6くすり その1・・・毒と薬は紙一重
- 7くすり その2・・・その開発と副作用
- 8原子力と放射性物質 (教科書外)
- 9洗剤・・・洗浄、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10洗剤・・・洗剤と環境問題 (教科書外)
- 11塩化ビニルとダイオキシン・・・プラスチックと高分子の歴史
- 12塩化ビニルとダイオキシン・・・化学汚染と環境問題史
- 13二酸化炭素その1・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 14二酸化炭素その2・・・二酸化炭素の地球循環
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむ終えない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代人の教養としての心理学を理解する。本講義では、乳児期から青年期までに出会う人間関係、すなわち親子関係、家族関係、そして友人関係に着目し、それらが人間の成長にどのような影響を及ぼすかについて、発達心理学、臨床心理学、及び青年心理学の観点から考究する。(ちなみに、本講義の単位取得は容易ではないので、受講に際しては慎重に判断されたい)

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、講義時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 人間関係を探る【エゴグラムテスト】
- 第3回 親子関係を探る(1)：人間関係の芽生え【生得的解発機構】【応答性】
- 第4回 親子関係を探る(2)：自己の起源【分離 - 個体化】【アタッチメント】
- 第5回 親子関係を探る(3)：「三つ子の魂、百までも」【個人差】【内的作業モデル】
- 第6回 家族関係を探る(1)：子どもにとっての家族【家族の病理】
- 第7回 家族関係を探る(2)：思春期の家族関係【第2の分離 - 個体化】【個性性と結合性】
- 第8回 友人関係を探る(1)：児童期から思春期にかけて【チャムシップ】【ヤマアラシのジレンマ】
- 第9回 友人関係を探る(2)：現代若者事情【対人恐怖心性】【ふれあい恐怖心性】
- 第10回 青年期を考える(1)：アイデンティティ【モラトリアム】
- 第11回 青年期を考える(2)：アイデンティティの諸問題【不適応】【同一性拡散】
- 第12回 青年期を考える(3)：ストレスとメンタルヘルス
- 第13回 青年期を考える(4)：進路選択決定についての自己理解【職業的アイデンティティ】
- 第14回 青年期を考える(5)：進路選択にかかわる諸問題【ひきこもり】【フリーター】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト&レポート ... 40% 試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではハンドアウトを配布するので講義中にメモを取っておくと同時に次回講義の前に必ず再度目を通して復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校・高校で習う「数学」とは異なり、文化的観点を取り入れた「数楽」を体験してもらう。ねらいは次の通り。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。これを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて欲しいと思われる問題。
 - 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
 - 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
 - 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
 - 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
 - 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
 - 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比【黄金比】
 - 7回 いろいろな記号の起源、未知数がXになるまでの道のり、方程式の解法をめぐって【数学記号】
 - 8回 究極の折り紙【折り紙の幾何学】
 - 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論【近世数学】
 - 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野【近代数学】
 - 11回 フェルマーの最終定理が解かれるまで【フェルマーの最終定理】
 - 12回 「テーマから考えてみよう」
 - 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【法の世界】
 - 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
 - 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3回以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、高校までの数学とは一味違う、「数楽」の講義です。
 数の神秘やそれにまつわる歴史にふれること、たのしむこと、そして、思考の奥深さを体験することが内容に含まれます。
 講義を通して数学の意義や在り方を各自で感じ取ってもらい、今後の人生を生き抜く上でのひとつの糧となれば幸いです。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 世界の諸宗教
- 4回 宗教の諸類型
- 5回 宗教とはなにか？
- 6回 一神教について1（ユダヤ教の形成）
- 7回 一神教について2（一神教の論理）
- 8回 一神教について3（キリスト教）
- 9回 仏教について1（シャカの教え）
- 10回 仏教について2（大乘仏教とは）
- 11回 仏教について3（中国の宗教風土と仏教）
- 12回 仏教について4（日本の仏教）
- 13回 神道について1（日本の神と祭り）
- 14回 神道について2（神仏習合）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 平常の学習状況... 30% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 仏教 神道

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピー等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、イメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 7回 映画分析①
- 8回 映画分析②
- 9回 映画分析③
- 10回 【テーマ研究】 表象を論じるためのテーマ
- 11回 テーマ研究①
- 12回 テーマ研究②
- 13回 テーマ研究③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 中間レポート・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、中間レポート・期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国内外の現代美術の事例を、鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして紹介します。必要に応じて美術以外の諸分野も取り上げます。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)
ほか、できるかぎり近辺の展覧会に足を運び、現場での実体験をすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品鑑賞1：学内作品鑑賞
- 3回 作品鑑賞2：抽象美術作品鑑賞
- 4回 美術の現場1：美術館展覧会の舞台裏
- 5回 美術の現場2：アートプロジェクトとは
- 6回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 7回 美術と近代化2：東南アジアの現在：ラオス、カンボジア
- 8回 美術と近代化3：東南アジアの現在：タイ
- 9回 芸術と権力：ファシズムと祝祭性について
- 10回 芸術と宗教：ニューエイジについて
- 11回 美術と教育：美術教育の現場から
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 美術と地域：福岡県内プロジェクト事例紹介
- 14回 北九州・福岡アートシーン紹介1
- 15回 北九州・福岡アートシーン紹介2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
伊原木 大祐 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター
板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに、私たちは「国語」という科目のなかで「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょう？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値する、どのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見、自明にみえる課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉え直すことがこの科目の目的です。

◎2012年度のテーマ：「ノーベル文学賞」（コーディネーター：文学部・馬場）

毎年メディアで大々的に取り上げられている「ノーベル文学賞」。みなさんはこの賞について何を知っていますか？その歴史や背景はどのようなものか？受賞した作家たちはどのような人で、どのような作品を書いたのか？今年度は10名の受賞作家をとりあげ、それぞれを専門とする教員および特別講師によるオムニバス講義を行います。世界中が注目する「ノーベル文学賞」が、政治・社会そして国家の問題をはらみつつ、文学とどのようにきりむすんでいるのか。行動する作家たちの生き様や作品をてがかりに、考えて行きます。

教科書 /Textbooks

担当教員毎に必要な箇所を配布、もしくは提示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○講義でとりあげる作家の作品(リストを、授業の初回で提示します)。
図書館の指定図書コーナーにすべて配架してありますので、各自閲覧してください。
また、本館地下・生協にも専用のコーナーがあり、書籍を購入することができます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「ノーベル文学賞」を考える
- 第3回 ウィリアム・バトラー・イェーツ【アイルランド】 木原担当(外・英米)
- 第4回 トーマス・マン【ドイツ】 岩本担当(文・比較)
- 第5回 ウィンストン・チャーチル【英国】 小林担当(基盤)
- 第6回 アーネスト・ミラー・ヘミングウェイ【アメリカ】 新村担当(特別講師/文・比較)
- 第7回 ジャン-ポール・サルトル【フランス】 伊原木担当(基盤)
- 第8回 川端康成【日本】 馬場担当(文・比較)
- 第9回 トニ・モリスン【アメリカ】 田部井担当(文・比較)
- 第10回 高行健/ガオ・シンジエン【中国・フランス】 板谷担当(外・中国)
- 第11回 ル・クレジオ【フランス】 福島担当(文・比較)
- 第12回 大江健三郎【日本】 服部担当(特別講師)
- 第13回 レポートについて
- 第14回 「ノーベル文学賞」で考える①
- 第15回 「ノーベル文学賞」で考える②

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート... 40%
学期末レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で対象となる作家の作品を事前に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

毎講義、しっかりとノートテイクをすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に関する問い合わせは、コーディネーターの馬場まで

キーワード /Keywords

文学、政治、社会、歴史、伝記、近現代、日本文学、海外文学、文学賞

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概説(続)
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化と民主主義 【第三の波】【ベルリンの壁】【東欧革命】【市民社会】
第2-3回 ポリスの民主主義・「デモス」と「クラティア」について 【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4-5回 近代の民主主義・民主主義の二つの伝統 【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6-7回 近代市民革命と自由民主主義について 【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】【議会制民主主義】
第8-9回 理論としての民主主義・現代民主主義の諸類型 【同質性民主主義】【エリート主義的民主主義】【参加民主主義】【共生の民主主義】【熟議民主主義】【ラディカルデモクラシー】
第10-11回 制度としての民主主義・議院内閣制民主主義と大統領制民主主義 【政治的安定性】【首相公選制】
第12-13回 民主主義批判の思想について 【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 運動としての民主主義・デモクラシーの徹底化について 【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ 民主主義の三つのレベル 【思想】【運動】【制度】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを多く配布するので、すべてを一つにファイルして、毎回の講義に持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民主主義は「未完のプロジェクト」であると同時に「時代と社会の鏡」です。したがって、民主主義は常に自己検証を繰り返しながら、理念と現実の緊張関係の中から、新たな地平と可能性を切り開かなければなりません。そのためにも、私たちは、民主主義に対する様々な考え方を学ばなければなりません。

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 国内の人権課題「部落問題について」
- 6 国内の人権課題「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 国内の人権課題「在日外国人と人権課題」
- 8 国内の人権課題「在日コリアンについて」
- 9 国内の人権課題「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「アジアの人権状況 1」
- 14 「アジアの人権状況 2」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 40% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

人権論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
山本 光英 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年				
対象入学年度 /Year of School Entrance		2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、法と道徳（重松）
- 第2回 裁判とは何か（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 障害のある人の権利 - 日本国憲法から（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武後任）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（矢澤）
- 第11回 社会保障の必要性と社会保険について考えよう（津田）
- 第12回 規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。

- ①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
- ②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

共生の作法【昼】

キーワード /Keywords

現代社会 共生 作法 ルール マナー

北九州学 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握するために環境問題に関する基礎的な知識を習得し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、行政・企業・NPO・マスコミ等の実務担当者を招へいし、様々な視点から北九州の環境を学習する。また、「環境首都検定」を受験し、市民の立場に立って環境に対する取り組みを幅広く学習する。さらに、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）を見学し、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 持続可能な社会をめざして
- 3回 北九州における環境問題
- 4回 北九州における環境政策
- 5～6回 環境関連施設見学①
- 7回 北九州の自然・生態系
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス
- 9回 環境問題と市民の関わり
- 10～11回 環境関連施設見学②
- 12回 環境首都検定模擬問題学習
- 13回 環境問題とジャーナリズムの役割
- 14回 環境都市としての北九州
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

施設見学参加を原則必須とする。
 環境首都検定（12月16日実施）の成績（50%）、積極的な授業への参加（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

施設見学は①環境ミュージアム（12月2日（日）午後）、②エコタウン（10月31日（水）午後）を予定しているが、変更の可能性もある。
 定員は100名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

すでに検定試験を受けたことのある者も歓迎します。

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業における男女平等とワークライフバランス
日本企業における職場の男女平等、働き方に関して多面的に把握し、21世紀の企業における新しい働き方を追求する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。ただし、参考図書を随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：講義の概要
- 2 日本企業における女性労働の変遷：1960～75年
- 3 日本企業における女性労働の変遷：1975～92年
- 4 日本企業における女性労働の変遷：1992年～現在
- 5 男女別の人事労務管理
- 6 雇用管理の変遷と雇用形態の多様化
- 7 男女別賃金制度とコース別管理
- 8 男女賃金格差と性別職務分離
- 9 非正規社員と女性労働
- 10 男女雇用機会均等法の変遷
- 11 ワークライフバランスと人間らしい働き方
- 12 欧米の女性労働の特徴
- 13 企業における男女平等実現のための世界の流れ
- 14 男女共同参画社会の地平
- 15 21世紀日本の職場の男女平等と人間らしい働き方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言や小テスト・・・20% 試験の成績・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々の新聞を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に発言を求められることがあるので、前回の授業で指示した課題について考えたうえで出席することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の通り。

キーワード /Keywords

職場における男女平等、ワークライフバランス、人間らしい働き方

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)+期末レポート試験(50点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思えます。また、より深く地域活動をとおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 6回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 7回 中間のまとめ
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 40% 学期末試験... 60%
(第7回「中間のまとめ」の時間に小テストを実施します。小テストの受験は単位取得のための必須条件となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要と詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となっている。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講義は、現代において生起しているそのような様々な問題の幾つかを取り上げ、それらを正確に理解したうえで問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、「現代正義論の展望」(重松)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「障害のある人の権利 — ADAを中心にして」(植木)
- 第4回 「ドメスティック・バイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「裁判員制度」(山本)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「株式会社とは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「行政活動の実効性」(福重)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「現代型商取引から生じる法律問題」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。

- ①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
- ②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。
- ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。
- ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
- ⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

キーワード /Keywords

現代社会 諸問題

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想史的に考察する。そのため、近年に国際関係分野においても注目を浴びているポストコロナリズムとその思想課題を主軸とし、講義を進める。

教科書 /Textbooks

姜尚中『ポストコロナリズム』（作品社、2003）、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 第2回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)【植民地主義後】
- 第3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(2)【植民地主義後の可能性】
- 第4回 第IV部の総論 「ポストウォー」から「ポストコロナル」へ【戦後、植民地以後】
- 第5回 第II部の総論 「ポストコロナリズム」の思想的現在性【理論、現実】
- 第6回 第II部の「近代」 【ポストモダニズム、ポスト構造主義】
- 第7回 第II部の「性・文化」 【フェミニズム、カルチュラル・スタディーズ】
- 第8回 第II部の「日本」 【植民地主義、構造的批判】
- 第9回 第II部の「第三世界」 【第三世界、民族解放論】
- 第10回 第II部の「国家」 【ナショナリズム論】
- 第11回 第IV部の1「ポストコロナルとポリティカル・エコノミー」【開発独裁、オリエンタリズム】
- 第12回 第III部の2「帝国と文化」【植民地朝鮮】
- 第13回 第III部の3「記憶と責任」【過去の克服、植民地支配責任】
- 第14回 第III部の4「マイノリティ・ジェンダー・他者」【沖縄、多文化間精神医学】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加への熱意 (30点)、レポート3本 (70点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習と復習。教科書のなかに登場する概念、理論、人物について自主学習すること。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

思想と哲学に関心をもち、勉強しようという意欲をもつこと。

キーワード /Keywords

国際情勢、ポストコロナリズム、思想課題、ポスト構造主義、植民地主義、ナショナリズム、オリエンタリズム、アイデンティティ、過去の克服、他者

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）【植民地支配】
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）【冷戦】【民団と総連】
- 第8回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【エスニシティ】
- 第10回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会④【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「国際」とは何か?
- 第3回 国際社会と主権国家、国際機構
- 第4回 国際社会の組織化(1)～国際機構の誕生
- 第5回 国際社会の組織化(2)～国際連盟の展開
- 第6回 国際社会の組織化(3)～国際連盟の失敗と教訓
- 第7回 国際連合の成立過程(1)～第二次世界大戦と連合国構想
- 第8回 国際連合の成立過程(2)～大西洋憲章からダンバートンオークス会議に向けて
- 第9回 国際連合の成立過程(3)～ヤルタ会談とサンフランシスコ会議
- 第10回 国際連合の展開(1)～国際連合の誕生と国連軍
- 第11回 国際連合の展開(2)～安保理の機能不全
- 第12回 国際連合の展開(3)～日本の戦後処理と国連加盟
- 第13回 国際連合の展開(4)～途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第14回 国際連合の展開(5)～PKOの展開
- 第15回 PKOと日本の国際平和協力

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるネイションとエスニシティ
- 2回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【オルダム暴動】【多文化主義】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4)【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムの事例から
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念の構築
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの想像の共同体
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるにあたって	担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)	担当：伊野
第4回 理論と現実 -ミャンマーの民主化をめぐる~その1 【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実 -ミャンマーの民主化をめぐる~その2 【ミャンマー】	担当：伊野
第6回 援助と民主主義：バングラデシュの事例 【援助】	担当：チョウドリ・三宅
第7回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動 【バングラデシュ政治】	担当：チョウドリ・三宅
第8回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
第9回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化 【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
第10回 南太平洋からの便り~フィジーを事例に 【フィジー】	担当：三宅
第11回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】	担当：三宅
第12回 日本の子ども会をとりまく環境~グループワーク 【子ども会】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境~教員による説明	担当：三宅
第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク	担当：指名教員
第15回 まとめ	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

グループワークでは誰でも気軽に話せるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ フィジー、子ども会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸は三つある。第一は政治面の軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が主な内容である。第二が経済面の軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』第3版(有斐閣 2010年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【バブル経済】【冷戦の終結】
- 第14回 冷戦後の日本外交【小泉政権】【民主党政権成立】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 『ラスト・サムライ』と武士道
 - 3回 武士道の成立
 - 4回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 5回 『平家物語』を読む②騎馬戦と【言葉戦】
 - 6回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 7回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 8回 県名を読む③戊辰戦争
 - 9回 「国語」とは何か?
 - 10回 『国語元年』(ビデオ)を読む(ビデオ)①方言とは何か?
 - 11回 『国語元年』(ビデオ)②標準語とは何か?
 - 12回 網野善彦と日本史の枠組み
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合には筆記試験100%、受講生100名以下の場合には授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山七士殉難事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、スペインといった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 スペイン(岡住)【民主化】【自治州国家体制】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題をできるだけ平易に説明してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮選書、2008年
三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標・戦前と戦後
- 2回 戦後改革
- 3回 経済復興
- 4回 高度成長とそのメカニズム
- 5回 高度成長とそのメカニズム
- 6回 高度成長期の企業システム(1)
- 7回 高度成長期の企業システム(2)
- 8回 高度成長のもたらしたもの
- 9回 高度成長の終焉
- 10回 日本企業の国際競争力
- 11回 バブル経済
- 12回 長期不況と不良債権
- 13回 アジアの成長と日本経済
- 14回 金融危機と日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト・レポート25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習事項の復習をきちんとしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義には、二つの柱がある。ひとつは、「都市と農村」あるいは「都会と田舎」という区分が、現代社会において、どのような繋がりと存在意義を持っているのかを明らかにすることである。もうひとつは、「世間」というものが、現代の私たちの生活を無意識のうちに律していることを自覚し、その存在理由を文化的に分析することである。

授業においては、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない人々の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 何気ない普段の生活を意識する
- 第2回 はじめに「都市の誘惑」都市と農村のリズム
- 第3回 「世間とは」気づかない日常の拘束力
- 第4回 「言葉の威力」言葉から都市と農村を見る
- 第5回 「新しい世間」電子メディアと文化均一化
- 第6回 「稲の魂」農村と神
- 第7回 「都市と御霊」都市の間と光
- 第8回 「祭と祭礼」都市の指標としての祭礼
- 第9回 「都会の身体 / 田舎の身体」身振りと文化
- 第10回 「人気(じんき)」国民性・県民性 集合的無意識
- 第11回 「都会のハビトゥス1」出会いと社交の技法
- 第12回 「都会のハビトゥス2」結集の技法
- 第13回 「都会のハビトゥス3」不文律の妙
- 第14回 「都市の威力」博多山笠に見る文化伝播
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近なところから問題点を発見し、自ら分析し、解決する。この知的技法の基本を楽しく伝えていきたいと思います。

キーワード /Keywords

日本民俗学 柳田國男 世間 世間体 文化伝播 伝統と創造 変化変容 都市祭礼 フィールドワーク 伝承と電子メディア

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車発明への道【ガソリン・エンジン】【電気自動車】
- 第6回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第7回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第8回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第9回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第10回 フォード対GM 【柔軟な大量生産システム】
- 第11回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第12回 自動車と道路【道路の歴史】【交通規制】
- 第13回 自動車と都市政治【住宅開発】
- 第14回 自動車と国家【産業政策】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、日本・アメリカ・ヨーロッパの代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、ヨーロッパについては1930年代の世界恐慌とそれを打開しようとしたアメリカのルーズベルト大統領のニューディール政策、ドイツのヒットラーのナチス経済、世界恐慌を救済する理論を考案した経済学者M. ケインズ。ケインズ政策を使って昭和恐慌を救った高橋是清について述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。(新村)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 日本、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 永遠の繁栄のアメリカと賠償支払い問題で苦境のドイツ
 - 第2回 1929年世界恐慌の構造
 - 第3回 ルーズベルト大統領とニューディール政策
 - 第4回 ヒットラーとナチス経済
 - 第5回 M ケインズと不況の経済学「一般理論」
 - 第6回 高橋是清と昭和恐慌
 - 第7回 サッチャーの経済政策とバブル経済
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講I (生命と物質) 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか、生物はどのような物質からできていて、どのようなしくみで成り立っているのか。生命のはじまりと終わりは生物学的にどのように定義されるのか。本講では生命を物質的な側面からとらえ、生きているということについて科学する。また、生命の多様性を生み出すしくみ、放射線や化学物質などが生物に及ぼす影響、遺伝子工学や生命操作についての基礎を学び、現代社会における生命科学の諸問題を理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「文系のための生命科学 第二版」 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年 (羊土社)
 - 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年 (岩波ジュニア新書)
 - 「生物と無生物のあいだ」 福岡伸一著 2007年 (講談社)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地球をつくる物質の起源【元素】【原子】【超新星爆発】
- 3回 地球の進化と環境の変化【太陽活動】【宇宙放射線】【生物絶滅】
- 4回 物質のなりたち【分子】【化学結合】
- 5回 生命の部品となる物質【核酸】【タンパク質】【糖】【脂質】
- 6回 生命を設計する物質【DNA】【遺伝子】
- 7回 生命を動かす物質【ATP】【呼吸】【酵素】
- 8回 生命をとりまく物質【放射線】【変異原】
- 9回 生命の起源と進化【原核生物】【真核生物】
- 10回 多様性を生み出すしくみ【突然変異】【生殖】【減数分裂】
- 11回 生命を操作するという①【遺伝子工学】【遺伝子組換え作物】
- 12回 生命を操作するという②【ES細胞】【生殖医療】
- 13回 映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加40% (質問やコメントの内容で評価する)、確認のための小テスト (2～3回実施) 30%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。興味がある者は、「自然学のみなぞし (人間と生命) 【夜間】」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養特講I (生命の境界線) 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 中野 次吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< テーマ >

医療倫理を学びます。

< 概要 >

遺伝子治療、安楽死、脳死・臓器移植を通して、現代医療において「いのち」がどう扱われているか学びます。そのことを通して、現代医療が抱える制度的、倫理的課題について考えます。

< 対象 >

医療や科学・技術問題に関心がある学生、とくに医療・福祉分野に進みたい学生を歓迎します。

教科書 /Textbooks

とくに使いません。プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布するプリントの末尾で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 授業内容 >

医療技術の発達で、人類は神の力を手に入れました。それは「いのち」を自由に操作する技術です。いまや、多くの病気や死は克服されつつあるようにみえます。しかし、そのことで、人類はかつて経験しなかった難問を抱えこんでしまいました。

たとえば、臨終の場面を想像してみてください。医師はあなたにこう尋ねます。「もはや手は尽くしました。ご家族は生命維持装置なしにはもちません。これからも治療を続けますか?」。あなたが「はい」と答えると、家族は機械の力で生き続けます。「いいえ」と答えると、家族は機械を外され「いのち」を終える、つまり死ぬこととなります。

「いのち」に意図的な境界線を引くこと、これが現代医療の抱える難問です。これまで死はどうすることもできない運命でした。しかし、いまは科学・技術の力でそれを何とかすることができます。上述のように、あなたの一言が人の生死を決定します。わたしたちは人間の死に対して責任を負わなければならなくなりました。そこに倫理が生じてきます。

授業では、現代医療における「いのち」について、医療技術・制度、哲学、法律などの観点から、自分なりの「いのちの境界線」について考えてもらいます。具体的な事例として、遺伝子治療、安楽死、脳死・臓器移植をとり上げます。

< 授業計画 >

- 第1回 : ガイダンス
- 第2回 : 第1章 遺伝子治療① — 「人体製造」技術
- 第3回 : 第1章 遺伝子治療② — 遺伝子治療と倫理
- 第4回 : 第1章 遺伝子治療③ — 操作される生命「救世主兄弟」
- 第5回 : 第2章 安楽死① — 操作される死「カレン事件」
- 第6回 : 第2章 安楽死② — 安楽死と法
- 第7回 : 第2章 安楽死③ — 安楽死の論理「どこで線を引くか?」
- 第8回 : 第2章 安楽死④ — 残された課題
- 第9回 : 第3章 脳死・臓器移植① — 脳死とは?
- 第10回 : 第3章 脳死・臓器移植② — 死の概念「医学と哲学における基準」
- 第11回 : 第3章 脳死・臓器移植③ — 臓器移植という治療の特色
- 第12回 : 第3章 脳死・臓器移植④ — 脳死・臓器移植の倫理、制度的課題
- 第13回 : 第4章 科学・技術と倫理① — 科学・技術における「自然」の考え方
- 第14回 : 第4章 科学・技術と倫理② — 科学・技術に対する倫理
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験で評価します (配布プリント、ノートの持ち込みを可とします) 。

教養特講I (生命の境界線) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

とくにありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

配布するプリントをよく読んでください。

キーワード /Keywords

遺伝子、安楽死、脳死、科学・技術、倫理

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 文学部 河嶋 静代 他

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
本学教員と外部講師によるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 3回 トランスジェンダー 【トランスジェンダリズム】 【性同一性障害】
- 4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 5回 性感染症の予防 【性教育】 【性的自立】
- 6回 生殖医療の発達と生命倫理 【代理母】 【不妊治療】 【出産ビジネス】
- 7回 大学におけるセクシュアル・ハラスメントと防止 【男女雇用機会均等法】 【アカデミック・ハラスメント】
- 8回 デートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力被害とトラウマ 【性暴力裁判】 【強姦神話】 【フェミニスト・カウンセリング】
- 10回 日本における売春防止法と「婦人保護」 【公娼制度】 【売春の歴史】
- 11回 日本と諸外国の売買春をめぐる動向 【セックスワーカー】 【性労働】 【売春の合法化】
- 12回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 13回 戦争と性暴力 【軍事化】 【性支配】 【植民地主義】 【民族浄化】
- 14回 メディアと子どもの性被害 【ポルノグラフィ】 【児童ポルノ禁止法】 【メディア・リテラシー】
- 15回 これまでの振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III (誰にも負けない私のイギリス案内) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私の本学教員生活34年間はイギリス経済研究三昧の日々であった。その間、3年間もイギリスで研究生活を楽しんだ。専門書『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』はその成果である。
多くの時間とエネルギーをイギリスに投入した私は、イギリス社会をさまざまな角度から見る機会を得てきた。いわば研究余滴というべき「私だけのイギリス案内」を講義する。
また、留学生を良く連れていく門司港→渡船にて唐戸→唐戸の英国領事館→春帆楼→赤間神宮門→関門歩道トンネルは、「私のデートコース案内」としてイギリスを関門地域」に発見したコースである。
換言すると、イギリスを鏡として日本の姿を改めて見直す。これが講義の目的である。

教科書 /Textbooks

口述であるために教科書はなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』(ミネルヴァ書房、2008年)
M・サッチャー『回顧録』(上、下) (石塚雅彦訳、日本経済評論社、1993年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜイギリスを語るのか
- 第2回 明治維新を支えたスコットランド人
「蛍の光、窓の雪」のルーツを求めて—アダム・スミス「国富論」(1776年) を中心に—
- 第3回 湖水地方；自然保護は住民の運動によってのみ守られる
- 第4回 世界のケンブリッジ大学—ノーベル賞受賞者との日々
- 第5回 ケンブリッジ大学留学とインド人家族との交流
- 第6回 1929年世界恐慌を救ったM・ケインズ—ケインズ革命「雇用・利子および貨幣の一般理論」(1936) が語りかけるもの
- 第7回 ミュージカル鑑賞でロンドンの夜を楽しもう
- 第8回 ・大英博物館図書館案内—
- 第9回 世界最大の図書館案内—『資本論』がなぜいま人気があるのか—『資本論』の世界紹介
- 第10回 ダウニング街10番地
- 第11回 イギリスの2大政党政治と日本の政治
- 第12回 セイント・アイビス；バーナード・リーチと小鹿田焼き窯
- 第13回 南ウエールズの首都カーディフ市と北九州市との関係
- 第14回 花の都パリで乾杯
- 第15回 私のデートコース案内—イギリスから見た関門地域—

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

拙著『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』(ミネルヴァ書房、2008年)
M・サッチャー『回顧録』(上、下) (石塚雅彦訳、日本経済評論社、1993年)
を目に通しておけば、理解し易い。
また、新聞を毎日読んで、伊英関係の記事をを見つけてノートに要約しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ (報道・情報・営業、テレビはいま) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所, 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 本講義のタイトル > 「報道・情報・営業、テレビはいま (RKB寄付講座) 」

< 目的 >

RKB毎日放送株式会社の現場の第一線で活躍している社員に教壇に立って頂き、番組制作における基本的知識 (特に問題点) をご講演していただいたのち、社員の方から投げられた現場における困難な課題を、グループで取り組み、課題解決 (場合によっては制作および発表) を通して、パースペクティブな視野を持ったクリティカル・シンキングの獲得、および現実に即したメディアリテラシーの理解を目指します。そして、大学生活における学びや活動に対し、意欲を持って実行することに繋げていくことを目的とします。

< 進め方 >

毎回、現場における課題を提示し、グループワークを促し、一部グループに発表していただきます。

①テーマに基づく講演、ダイアログ、作品上映など

②グループワーク

③プレゼンテーション ※講演者が選出。数グループ。

④講評および来週の課題

※講演や上映部分を長くし、レポート提出する回もあり。

< 期待される効果 >

クリティカルシンキング、メディアリテラシー

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
 - 2回 総論
 - 3回 「報道の自由」「国民の知る権利」「人権」の狭間で揺れるテレビ報道
 - 4回 ドキュメンタリー総論
 - 5回 エンタメ・情報系ドキュメンタリー
 - 6回 ハードドキュメンタリー
 - 7回 群像ドキュメンタリー
 - 8回 死闘！情報ワイド戦争
 - 9回 情報からヒューマンへ
 - 10回 はいどうぞ、親切丁寧地上波テレビ。編成テクニク実戦編
 - 11回 営業第一線からの報告
 - 12回 めざせ放送人！優れた作り手よ来たれ！
 - 13回 まとめ
 - 15回 最終レポート
- (※期間中、最終レポートとは別にテレビ作品に対するホームワーク提出を持って、全15回となります)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80%、最終レポートおよび途中提出のホームワーク...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

原則、毎回グループワークとプレゼンテーションがありますので、授業で指示する事前準備を行ってください

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員までメールなどで連絡をしてください。
※「プロフェッショナルの仕事」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいたの講演です。よって、以下の5項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、実際の現場で起こっている課題に、社会人がどう取り組んでいるのかを体感することで、みなさんの大学での学びを仕事に試すチャンスです。さらにテレビ局はインターンシップに参加する数名のみしか体験できない現場です。この機会を活かして自分の力を試してみたい、そしてさらに高めたい意欲を持って参加してください。

キーワード /Keywords

マスメディア、メディアリテラシー、テレビ局、アナウンサー、ディレクター、営業、ドキュメンタリー

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世的日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 「外国」になった沖縄
- 第13回 「大帝国日本」の解体
- 第14回 「日本人」の戦後問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名
/Instructor

藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、更にはそれを通じて東アジア諸地域の今後の在り方を自らで模索することの出来る能力を養うことを目指す。なお一般的に中国の歴史というと、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収・同化しつつ変容を繰り返しているのである。また、近隣諸地域もその影響を受けつつオリジナルな国家形成を行ってきているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。よってここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐の世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく東アジアという包括的視座に置いて各時代の政治・思想・外交・文化等の多角的な面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%
(講義では毎回感想カードを配布回収する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては特になし。
復習としては講義中に適宜紹介するものを読んで理解を深めることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界史・東洋史に初めて触れる人にも理解しやすい講義を心がけたいと思います。
先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは
必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 : 集合意識と行為
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 : 『自殺論』
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1 : 理解社会学
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2 : 『プロテスタントイズムの倫理と資本主義の精神』
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシティ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシティ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では世界的視野で自然的要素の諸相を明らかにし、自然的条件が人間および人間社会に及ぼす影響を及ぼすかを世界の様々な地域を事例を挙げて検討する。さらに日本において生活の基礎的条件としての自然的条件が人間生活に影響を及ぼしている事例を検討する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
2. 世界の自然 - 気候、地形、地震
3. 世界の自然と農業 - 農業様式と景観
4. 未開発地域の人々の生活
5. 氷雪地域における人間の生活 - シベリア・オイミヤコン
6. 熱帯地域における人間の生活 - 酷暑地域
7. 乾燥地域における人間の生活 - アタカマ砂漠
8. 西ヨーロッパの気候と人間の生活 - イギリス、ドイツ、スペインなど
9. 世界最多雨地域における人間の生活 - マガラヤ
10. 日本の自然条件 - 気候、地形、陸水
11. 日本における気候と農業、生活
12. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 氷河性海面変動と沖積層
13. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と地盤沈下
14. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と工業立地
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

機構、地形、極寒地域、酷暑地域、温暖地域、氷河性海面変動、沖積層

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域を対象としてとりあげ、「社会的環境の変化と地域の変化」をテーマとする。産業構造の変化、交通の変化、自治体の再編成が地域にどのような変化をもたらすかを明らかにする。
 ビデオなども使い、具体的なイメージが湧くように努めたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)はじめに～地理学とは、地誌とは
- (2)産業構造の変化と地域① - 製鉄業の再編成と地域の変貌 (北九州、釜石、福山など)
- (3)産業構造の変化と地域② - 自動車産業の再編成と地域の変貌 (座間、豊田、刈田など)
- (4)産業構造の変化と地域③ - 造船業の再編成と地域の変貌 (下関、因島など)
- (5)産業構造の変化と地域④ - エネルギー革命と地域の変貌 (宇部)
- (6)産業構造の変化と地域⑤ - エネルギー革命と地域の変貌 (夕張)
- (7)交通の変化と地域の変貌① - 道路輸送、鉄道輸送の整備と地域の変貌 (農業地域、一戸、飯田など)
- (8)交通の変化と地域の変貌② - 高速交通網の整備と地域の変貌 (観光地、角館、小布施、湯布院など)
- (9)交通の変化と地域の変貌③ - 橋、トンネルの開通と地域の変貌 (下関、高松、函館、青森など)
- (10)交通の変化と地域の変貌④ - 空路輸送、海上輸送の整備と地域の変化 (ハブ港とフィーダー輸送)
- (11)自治体の再編成と地域の変貌① - 何のための自治体の再編成か
- (12)自治体の再編成と地域の変貌② - 山口県における自治体再編成と下関市の合併
- (13)自治体の再編成と地域の変貌③ - 合併しなかった自治体について (福島県矢祭町、長野県栄村など)
- (14)自治体の再編成と地域の変貌④ - 合併しなかった自治体について (山口県阿武町)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域、産業再編成、交通変化、自治体再編成、製鉄業、自動車産業、造船業、エネルギー革命、高速交通網

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第2版)』(青林書院・2011年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(人権享有主体)
- 第5回 人権各論②(幸福追求権)
- 第6回 人権各論③(平等原則)
- 第7回 人権各論④(信教の自由)
- 第8回 人権各論⑤(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権)
- 第10回 統治機構②(権力分立)
- 第11回 統治機構③(日本の政治制度)
- 第11回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第12回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第13回 平和主義③(憲法9条と裁判所)
- 第14回 日本憲法史
- 第15回 予備日程

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【概説】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 5回 哲学と倫理 (4) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 6回 哲学と倫理 (5) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ヘレニズム期】
- 7回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【古代イスラエルの宗教】
- 8回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 9回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 10回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理【キリスト教の発展】
- 11回 近代倫理学の誕生 (1) 【イギリス経験論】
- 12回 近代倫理学の誕生 (2) 【契約説】
- 13回 近代倫理学の発展 (1) 【カント】
- 14回 近代倫理学の発展 (2) 【功利主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 学期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比・再履人・群 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 人・再履比・群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - 1 . 再履人 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下の様な項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - 1 . 再履比

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、HTMLを使ったWebページ作成やプレゼンテーションなどに関する技術を学びます。その過程を通じて、情報収集の基本的な方法、情報の信頼性の吟味、著作権に関する事項、効果的な情報発信手法なども学ぶことができます。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- HTMLを用いた文書構造（タイトル、セクション、段落など）の指定や、CSSを利用した文字飾り、背景色などのWebデザイン、画像・ハイパーリンクなどを用いたWebページ作成の技術
- プレゼンテーションソフトを使った効果的なプレゼンテーション
- 発表のテーマ選定から情報収集、情報の信頼性の吟味、情報の加工から発信までの一連の流れ

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法
- 3回 Webページの構成
- 4回 Webページのデザイン
- 5回 デジタル時代の著作権
- 6回 Webページ作成実習1 (テーマ選定, 情報収集)
- 7回 Webページ作成実習2 (情報加工, 情報発信)
- 8回 プレゼンテーション作成技術
- 9回 プレゼンテーション作成演習
- 10回 グループによるスライド作成実習1 (発表のストーリー性)
- 11回 グループによるスライド作成実習2 (情報の共有化)
- 12回 発表の技術
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を受講していると、この授業の理解が深まります。また、コンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML, プレゼンテーション, マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、HTMLを使ったWebページ作成やプレゼンテーションなどに関する技術を学びます。その過程を通じて、情報収集の基本的な方法、情報の信頼性の吟味、著作権に関する事項、効果的な情報発信手法なども学ぶことができます。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- HTMLを用いた文書構造（タイトル、セクション、段落など）の指定や、CSSを利用した文字飾り、背景色などのWebデザイン、画像・ハイパーリンクなどを用いたWebページ作成の技術
- プレゼンテーションソフトを使った効果的なプレゼンテーション
- 発表のテーマ選定から情報収集、情報の信頼性の吟味、情報の加工から発信までの一連の流れ

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法
- 3回 Webページの構成
- 4回 Webページのデザイン
- 5回 デジタル時代の著作権
- 6回 Webページ作成実習1 (テーマ選定, 情報収集)
- 7回 Webページ作成実習2 (情報加工, 情報発信)
- 8回 プレゼンテーション作成技術
- 9回 プレゼンテーション作成演習
- 10回 グループによるスライド作成実習1 (発表のストーリー性)
- 11回 グループによるスライド作成実習2 (情報の共有化)
- 12回 発表の技術
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を受講していると、この授業の理解が深まります。また、コンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML, プレゼンテーション, マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート、GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート、GUI

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の基本的な読解力を養成することが目的です。日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりした際に、その内容を把握できるよう、ある状況下で用いられる表現や語彙をできる限り覚えていきます。読解力の度合いを測るためにTOEICでスコア400点を目指します。授業では、TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学びます。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 (1995円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 40%と期末試験 60%に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価します。(正当な理由無く4回欠席した場合は、期末試験を受験することはできません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に復習テストを実施するので、復習にも力を入れてください。
高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくこと役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC listening reading

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を利用して、身近で起きている事柄を英語で表現できるようにする。市販のテキストを主に利用するが、同時にインターネットで検索できるJapan TimesやDaily Yomiuriも副教材として授業中に配布する。

教科書 /Textbooks

News for You 2012/2013 (成美堂、2012)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは毎回Unitを一つずつ進めていく。同時にJapan Timesなどから、最初は短い記事を取り上げる。記事の内容は出来るだけ偏らないようにするつもりである。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習形式の授業であるので、予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の基本的な読解力を養成することが目的です。日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりした際に、その内容を把握できるように、ある状況下で用いられる表現や語彙をできる限り覚えていきます。読解力の度合いを測るためにTOEICでスコア500点を目指します。授業では、TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学びます。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 (1995円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 40% と期末試験 60% に、出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。(正当な理由無く4回欠席した場合は、期末試験を受験することはできません。) また、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくで役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC listening reading

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期同様、時事英語を用いて身近な問題を英語で表現できるようになることを目的とする。

教科書 /Textbooks

News for You 2012/2013 (成美堂、2012)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1学期に続き、Unitを一つずつ進めていく。同時にJapan Timesなどからとった記事を授業中に講読した後で、その中の英文を利用して、身近な問題を英語で表現できるようにする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習を十分に行ってから授業に臨むこと。単語を調べるだけでなく、テキストに掲載されている記事は必ず音読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 人1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 人 1 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speaking for Speed
Week 4	Repeating for Communication
Week 5	Conversation Style
Week 6	Expand and Recycle
Week 7	Speaking on Topics
Week 8	Workarounds
Week 9	Speaking on Topics
Week 10	Disagreement
Week 11	Reason Articulation
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four main language skills. The focus will be on hearing and speaking. They will progress through the chapters in the text as the teacher sees fit. Each unit will take approximately one class period. Dialog tests will be administered at the end of each unit, and cumulative dialog tests compiling materials from the previous three units and whatever else has been covered will be administered after every three chapters.

教科書 /Textbooks

Take It Easy by Herman Bartelen published by Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

During each semester approximately 1/2 of the text will be used. After each unit, a short dialog test will be given. Cumulative dialog tests will be administered after each three units. These are long dialogs using materials the class has covered so far in the text. Also, at the end of each three units there will be a written grammar test of material from the three units completed.

- 1回 Student Information Cards & Getting Acquainted
- 2回 Meeting & Greeting People
- 3回 Past Tense Q. & A.
- 4回 Expressing Frequency
- 5回 Written Grammar Test Units 1 ~ 3 and Cumulative Dialog Test
- 6回 Writing Assignment
- 7回 Speeches & Evaluation of Last Week's Writing Assignment
- 8回 Making Plans
- 9回 Expressing Likes and Dislikes
- 10回 Future Tense Q. & A.
- 11回 Written Grammar Test Units 4 ~ 6 and Cumulative Dialog Test
- 12回 Writing Assignment
- 13回 Speeches & Evaluation of Last Week's Writing Assignment
- 14回 Speeches Continued
- 15回 Wrap Up

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from bi-weekly dialog tests, larger tests, and writing assignments. Absence and lateness will definitely affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Original Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Family-Introductions
- 第3回 Family-Building Skills
- 第4回 Family-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Hobbies-Introduction
- 第7回 Hobbies-Building Skills
- 第8回 Hobbies-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Food-Introduction
- 第11回 Food-Building Skills
- 第12回 Food-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four main language skills. The focus will be on hearing and speaking. They will progress through the chapters in the text as the teacher sees fit. Each unit will take approximately one class period. Dialog tests will be administered at the end of each unit, and cumulative dialog tests compiling materials from the previous three units and whatever else has been covered will be administered after every three chapters.

教科書 /Textbooks

Take It Easy by Herman Bartelen published by Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

During each semester approximately 1/2 of the text will be used. After each unit, a short dialog test will be given. Cumulative dialog tests will be administered after each three units. These are long dialogs using materials the class has covered so far in the text. Also, at the end of each three units there will be a written grammar test of material from the three units completed.

- 1回 Student Information Cards & Getting Acquainted
- 2回 Meeting & Greeting People
- 3回 Past Tense Q. & A.
- 4回 Expressing Frequency
- 5回 Written Grammar Test Units 7 ~ 9 and Cumulative Dialog Test
- 6回 Writing Assignment
- 7回 Speeches & Evaluation of Last Week's Writing Assignment
- 8回 Making Plans
- 9回 Expressing Likes and Dislikes
- 10回 Future Tense Q. & A.
- 11回 Written Grammar Test Units 10 ~ 12 and Cumulative Dialog Test
- 12回 Writing Assignment
- 13回 Speeches & Evaluation of Last Week's Writing Assignment
- 14回 Speeches Continued
- 15回 Wrap Up

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from by-weekly dialog tests, larger tests, and writing assignments. Absence and lateness will definitely affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
 - ・ 時事英語を読むことで社会情勢を知りReading力を向上させる。
- TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Aim High for the TOEIC Test” 『TOEICテスト総合実践演習』（塩見佳代子共著）
成美堂 ￥2,000

“The Half-Edition of English through the News Media 2012” 『1/2版：ニュースメディアの英語』（高橋優身編著）朝日出版社 ￥1,100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test及び解説
- 2回 TOEIC: Unit 1 Listening, News Media: Unit 1
- 3回 TOEIC: Unit 1 Reading, News Media: Unit 1
- 4回 TOEIC: Unit 2 Listening, News Media: Unit 2
- 5回 TOEIC: Unit 2 Reading, News Media: Unit 2
- 6回 TOEIC: Unit 3 Listening, News Media: Unit 3
- 7回 TOEIC: Unit 3 Reading, News Media: Unit 3
- 8回 TOEIC: Unit 4 Listening, News Media: Unit 4
- 9回 TOEIC: Unit 4 Reading, News Media: Unit 4
- 10回 TOEIC: Review Test 1及び解説
- 11回 TOEIC: Unit 5 Listening, News Media: Unit 5
- 12回 TOEIC: Unit 5 Reading, News Media: Unit 5
- 13回 TOEIC: Unit 6 Listening, News Media: Unit 6
- 14回 TOEIC: Unit 6 Reading, News Media: Unit 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、Review Test（1回）：10%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：20%
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

TOEIC：Listening Sectionは毎回宿題として必ずやってくること。
単語小テストを実施するので勉強しておくこと。
News Media：各Unitの本文(Reading)を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際的な訓練を行う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習 by Satoru Huruya 三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト 2. 以下の問題を解く。Listening は、1文ずつリピートする。
3. 読解も丁寧に訳す。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 Lesson1
- 2回 lesson2
- 3回 Lesson3
- 4回 Lesson4
- 5回 Lesson5
- 6回 Lesson6
- 7回 Lesson7
- 8回 Lesson8
- 9回 Lesson9
- 10回 Lesson10
- 11回 Lesson11
- 12回 Lesson12
- 13回 Lesson13
- 14回 Lesson14
- 15回 Lesson15

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 30% 試験 ... 70%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて丁寧に予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
 - ・ 時事英語を読むことで社会情勢を知りReading力を向上させる。
- TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Aim High for the TOEIC Test” 『TOEICテスト総合実践演習』（塩見佳代子共著）
成美堂 ￥2,000

“The Half-Edition of English through the News Media 2012” 『1/2版：ニュースメディアの英語』（高橋優身編著）朝日出版社 ￥1,100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEIC: Unit 7 Listening, News Media: Unit 7
- 2回 TOEIC: Unit 7 Reading, News Media: Unit 7
- 3回 TOEIC: Unit 8 Listening, News Media: Unit 8
- 4回 TOEIC: Unit 8 Reading, News Media: Unit 8
- 5回 TOEIC: Review Test 2及び解説
- 6回 TOEIC: Unit 9 Listening, News Media: Unit 9
- 7回 TOEIC: Unit 9 Reading, News Media: Unit 9
- 8回 TOEIC: Unit 10 Listening, News Media: Unit 10
- 9回 TOEIC: Unit 10 Reading, News Media: Unit 10
- 10回 TOEIC: Unit 11 Listening, News Media: Unit 11
- 11回 TOEIC: Unit 11 Reading, News Media: Unit 11
- 12回 TOEIC: Unit 12 Listening, News Media: Unit 12
- 13回 TOEIC: Unit 12 Reading, News Media: Unit 12
- 14回 TOEIC: Review Test 3及び解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：60%、Review Test（2回）：20%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：20%
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

TOEIC：Listening Sectionは毎回宿題として必ずやってくることを。
単語小テストを実施するので勉強しておくこと。
News Media：各Unitの本文(Reading)を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Achieve Your Best on the ToEIC Test by 鶴岡公幸、Matthew Wilson 松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト 2. 以下の問題を解く。Listening は、1文ずつリピートする。
3. 読解も丁寧に訳す。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 Unit1 旅行1
- 2回 Unit2 オフィス1
- 3回 Unit3 レストラン
- 4回 Unit4 新聞・雑誌
- 5回 Unit5 広告
- 6回 Unit6 就職活動
- 7回 Unit7 休暇
- 8回 Unit8 オフィス2
- 9回 Unit9 ショッピング
- 10回 Unit10 旅行2
- 11回 Unit11 娯楽
- 12回 Unit12 マーケティング
- 13回 Unit13 オフィス3
- 14回 Unit14 金融
- 15回 Unit15 不動産

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 30% 試験 ... 70%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて丁寧に予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Human Relations majors in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman - Third Edition (the student will also need a memory stick) (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message - Looking Them in the Eye
- 第3回 Delivering Your Message - Effective Use of Notes
- 第4回 Putting Your Speech Together
- 第5回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第6回 Delivery-Group 1 - A Personal Experience Speech
- 第7回 Delivery-Group 2 - A Personal Experience Speech
- 第8回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第9回 Delivery-Group 1 - A Meaningful Object Speech
- 第10回 Delivery-Group 2 - A Meaningful Object Speech
- 第11回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第12回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech 1
- 第13回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech 1
- 第14回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech 2
- 第15回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech 2

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students will write, practice, and memorize each of their speeches.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course practices the four English skills using communicative tasks while studying about the world. At the end of the course, students should come away with an enriched ability to express themselves by doing pair work practice, role plays and short presentations. This is done in the context of learning about issues and cultures around the world.

教科書 /Textbooks

Milner, Martin. World English I. Heinle Cengage Learning. 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction
- Week 2: People and Occupations
- Week 3: People from Around the World
- Week 4: Work, Rest and Play
- Week 5: Talking About Daily Schedules
- Week 6: Ask for and give personal travel information
- Week 7: Conversations at Travel Destinations
- Week 8: Discussing unusual and favorite foods
- Week 9: In a restaurant
- Week 10: Favorite Sports and Adventure Holidays
- Week 11: Every day activities vs today's activities
- Week 12: Discoveries from the past
- Week 13: Describing personal experiences
- Week 14: Review
- Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Written assignments and oral class participation: 70% Exam 30 %
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text material ahead of class, watch video and do accompanying online quiz.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed every week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak as much as possible in class. You will be graded every week on how much you speak and how active you are in class.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Human Relations majors in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman- Third Edition (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary (the student will also need a memory stick)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Preparing for the Persuasive Speech - Choosing Your Topic
- 第3回 Determining Your Specific Purpose - Analyzing Your Audience
- 第4回 Gathering Information - Preparing Visual Aids
- 第5回 Organizing Your Speech
- 第6回 Outlining and Writing Your Persuasive Speech
- 第7回 Persuasive Speeches by Group 1 (The Japanese Government Should...)
- 第8回 Persuasive Speeches by Group 2 (The Japanese Government Should...)
- 第9回 Persuasive Speeches by Group 1 (Students' Choice)
- 第10回 Persuasive Speeches by Group 2 (Students' Choice)
- 第11回 Persuasive Speeches by Group 1 (Energy Sources)
- 第12回 Persuasive Speeches by Group 2 (Energy Sources)
- 第13回 Participating in Group Discussions - Brainstorming
- 第14回 Effective Group Leader - Responsible Group Member
- 第15回 Group Discussions

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students will write, practice and memorize their speeches.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course continues from the first semester. It practices the four English skills using communicative tasks while studying about the world. At the end of the course, students should come away with an enriched ability to express themselves by doing pair work practice, role plays and short presentations. This is done in the context of learning about issues and cultures around the world.

教科書 /Textbooks

Milner, Martin. World English I. Heinle Cengage Learning. 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Talk about personal communication.
- Week 2: Compare different types of communication.
- Week 3: Talk about plans
- Week 4: Discuss the future
- Week 5: Male comparisons
- Week 6: Understand and describe a process
- Week 7: Give Advice on healthy habits
- Week 8: Evaluate your lifestyle
- Week 9: Talk about today's chores
- Week 10: Discuss scientific achievements
- Week 11: Talk about how our actions can have positive consequences
- Week 12: Talk about managing money
- Week 13: Discuss ways to prevent habitat destruction
- Week 14: Review
- Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Written assignments and oral participation : 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text material ahead of class, watch video and accompanying online quiz.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks
WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method
Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
Homework assignments will be required for each class.

履修上の注意 /Remarks
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英辞郎(アルク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政治
- 3回 ビジネス
- 4回 外交
- 5回 司法
- 6回 災害
- 7回 スポーツ
- 8回 まとめ(1)
- 9回 海外事情
- 10回 科学
- 11回 文化(1)
- 12回 文化(2)
- 13回 環境(1)
- 14回 環境(2)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...35% 課題・小テスト ... 35% 期末試験 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅹ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Pragmatic Stylistics (by Elizabeth Black: Edinburgh Textbooks in Applied Linguistics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 35% 課題・小テスト ... 35% 期末試験 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

WORLD ENGLISH 2 by Kristin L.Johannsen/Rebecca Tarver Chase Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Greetings - World Greetings, Adverbs of Frequency
2. Explorers - Geography & Occupations, Past Tense
3. Inventions - Machines etc., Past Continuous Tense
4. Weather - Lightening, Will & Going to
5. Transportation - Can & Could
6. Describing places - Superlatives
7. Review Grammar Test & Speeches & Questions
8. Sports - Must, Must not, Have to, etc., Injuries
9. Health - Food & Drink, Should & Shouldn't
10. Entertainment - Oscars, Present Perfect Tense
11. Desire for Chocolate, food, Verb+Gerund or Infinitive
12. Animal Communication - Conditional if ... & if...will,
13. Fashion - Clothes, Hair, Bald, Passive Voice
14. Speeches & Questions
15. Speeches & Questions

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be an average of assignments and speeches. Absence and lateness may affect the marks.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Purchase of textbook only.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Love-Introductions
- 第3回 Love-Building Skills
- 第4回 Love-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Justice-Introduction
- 第7回 Justice-Building Skills
- 第8回 Justice-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』<試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして(会話文)
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国(会話文)
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて(会話文)
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通(会話文)
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光(会話文)
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物(会話文)
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて(会話文)
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて(会話文)
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話(会話文)
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味(会話文)
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い(会話文)
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて(会話文)
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) ポイント説明
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 ポイント説明
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 ポイント説明
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 ポイント説明
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 ポイント説明
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 ポイント説明
- 12回 第七課 奈良(本文)
- 13回 第七課 ポイント説明
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 ポイント説明

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (本文)
- 2回 第九課 ポイント説明
- 3回 第十課 九州 (本文)
- 4回 第十課 ポイント説明
- 5回 第十一課 福岡 (本文)
- 6回 第十一課 ポイント説明
- 7回 第十二課 佐賀 (本文)
- 8回 第十二課 ポイント説明
- 9回 第十三課 長崎 (本文)
- 10回 第一三課 ポイント説明
- 11回 第十四課 四国 (本文)
- 12回 第十四課 ポイント説明
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (本文)
- 14回 第十五課 ポイント説明
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中日・日中電子辞書(CASIO等)
2. 『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政群 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中日・日中電子辞書 (CASIO等)
2. 『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第一三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

中国語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおわり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 吉祥紅I
- 第2回 吉祥紅II
- 第3回 作文練習
- 第4回 淮揚菜I
- 第5回 淮揚菜II
- 第6回 作文練習
- 第7回 紹興与酒I
- 第8回 紹興与酒II
- 第9回 作文練習
- 第10回 高密剪纸I
- 第11回 高密剪纸II
- 第12回 作文練習
- 第13回 潮州工夫茶I
- 第14回 潮州工夫茶II
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み15% 作文などの練習35% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発想力

上級中国語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおわり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は前期に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、ビジネス作文力を身につけることを目標とする。
テキスト、プリントを中心に翻訳し、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にプリント、ビデオなどを通して中国の文化やビジネス慣習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂、プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
第1回 オリエンテーション
第2回 八達嶺I
第3回 八達嶺II
第4回 作文練習
第5回 天壇説九I
第6回 天壇説九II
第7回 作文練習
第8回 ビジネス作文練習I
第9回 ビジネス作文練習II
第10回 ビジネス作文練習III
第11回 ビジネス作文練習IV
第12回 ビジネス作文練習V
第13回 ビジネス作文練習VI
第14回 ビジネス作文練習VII
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み15% 作文練習35% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語作文、ビジネス中国語

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』[改訂版]王占華・劉慶 駿河台出版社
(3回めまではプリントを配布し、授業を実施し、その後相談で決める。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版)王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 ホテルの予約【起点、終点】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音 (1)
3. 子音 (1)
4. 子音 (2)
5. 子音 (3)
6. 子音 (4)
7. 子音 (5)
8. 母音 (2)
9. 終声 (1)
10. 発音の変化
 11. 日本語のハングル表記方法
 12. ~は~ですか？【指定詞の丁寧形・疑問①】
 13. ~は~です。【指定詞の丁寧形】
 14. ~は~ではありませんか？【指定詞の丁寧形・疑問②】
 15. ~は~ではありません。【指定詞の丁寧形・否定】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』(叢基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社) 定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ、
2. 【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 【漢数詞】
4. 【固有数詞】
5. ～ですか?～ますか?【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
6. ～です、～ます。【動詞と形容詞の丁寧形】
7. ～ません、～くありません。【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
8. ～ですか?【指定詞の打ちとけた丁寧形】～ではありません。【指定詞の打ちとけた丁寧形・否定】
9. ～です、～ます。【動詞と形容詞の打ちとけた丁寧形】
10. 【尊敬表現】
11. 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
12. 【動詞と形容詞の打ちとけた丁寧形・過去】
13. 【意思・推量・婉曲表現】
14. 【願望表現～したい】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

韓国語の文字である「ハングル」を習得し、基礎韓国語及び韓国文化への理解を高めることを目標とする。

〈到達目標〉

- (1) ハングル文字を習得する。
- (2) 簡単な自己紹介ができる。
- (3) 日常生活で使われる身近な挨拶表現ができる。
- (4) 韓国の日常生活文化への理解ができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千律子著、『新チャレンジ！ 韓国語』、白水社、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊谷明泰編集、『パスポート朝鮮語小辞典(朝和+和朝)』、白帝社、2012年
- ・ 小学館・韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	講義案内及び第1課基本母音字母と合成母音字母
第2回	第2課基本子音字母(平音・激音)
第3回	第2課: 双子音字母(濃音)
第4回	第3課: 合成母音字及び日本語のハングル表記
第5回	第4課: 一文字パッチム
第6回	第4課: 二文字パッチム及び辞書の引き方
第7回	第5課: 「私は～です」丁寧形の学習(名詞+です)
第8回	丁寧形の練習(動詞・形容詞+ます)
第9回	第6課: 「時間ありますか」存在詞の疑問形
第10回	存在詞の学習(位置を表すことば)
第11回	第7課: 「それは何ですか」指示代名詞を使った疑問文の学習
第12回	尊敬形の作り方・助詞と疑問視のまとめ
第13回	第8課: 「日曜日に何をしますか?」打ち解けたです・ます体の作り方
第14回	漢数詞と固有数詞を使ったもの数え方
第15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業参加度(日常授業への取り組み・小テスト) 50%
- ・ 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 毎回ペア練習後、口頭発表をする予定なので、授業に積極的に取り組んでもらいたいです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

〈教育目標〉
韓国語の文字である「ハングル」を習得し、基礎韓国語及び韓国文化への理解を高めることを目標とする。

〈到達目標〉
(1) ハングル文字の読み・書きを習得する。
(2) 簡単な自己紹介や自己PRができる。
(3) 日常生活で使われる身近な会話表現ができる。
(4) 韓国の日常生活文化への理解度をより深める。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千律子著、『新チャレンジ! 韓国語』、白水社、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・熊谷明泰編集、『パスポート朝鮮語小辞典(朝和+和朝)』、白帝社、2012年
- ・小学館・韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義案内及前期の復習
- 第2回 第9課「何か好きですか?」否定形・目的を表す助詞・感情表現を使った助詞表現練習
- 第3回 変則用言練習
- 第4回 場所を用い疑問形の練習
- 第5回 第10課「週末は何をしましたか?」過去形の学習
- 第6回 希望・進行形の表現
- 第7回 覚えて便利な動詞: 一日の日課に必要な単語
- 第8回 第11課「明日は何をするつもりですか?」未来形の学習
- 第9回 買い物の際に使う会話練習(1)
- 第10回 買い物の際に使う会話練習(2)
- 第11回 第12課「スープが冷たくておいしいです」形容詞を用いた表現学習
- 第12回 ペアで使える形容詞を用いた会話表現
- 第13回 第13課「一度遊びに来てください」勧誘形・自分の意思を表す表現学習
- 第14回 可能形・丁寧な命令形・理由・原因を表す表現学習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・授業参加度(日常授業への取り組み・小テスト): 50%
- ・定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回ペア練習後、口頭発表を行う予定なので、授業に積極的に取り組んでもらいたいです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

楽しくできる韓国語初級II、李志暎外 1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 動詞の現在連体形
- 3回 第1課 動詞の現在連体形
- 4回 第2課 動詞の過去連体形
- 5回 第2課 動詞の過去連体形
- 6回 第3課 動詞の未来連体形
- 7回 第3課 動詞の未来連体形
- 8回 第4課 形容詞の現在連体形
- 9回 第5課 接続語尾 -는데
- 10回 第5課 接続語尾 -는데
- 11回 第6課 ㄷ不規則活用
- 12回 第7課 ㄹ不規則活用
- 13回 第8課 ㄴ不規則活用
- 14回 第8課 ㄴ不規則活用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈『ウリマル』、白帝社(2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 (小学館) など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
 「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
 (欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 つづりと発音 読んでみよう！ 挨拶をしてみよう！
- 2回 動詞の形（人称変化）、語順
- 3回 自己紹介をしてみよう！
- 4回 名詞の形1（1格）
- 5回 数字を使ってみよう！
- 6回 名詞の形2（4格）
- 7回 注文をしてみよう！
- 8回 名詞に付けて用いる語（所有冠詞など）
- 9回 趣味を尋ねてみよう！
- 10回 ニつ以上のものを表す表現（複数形）
- 11回 「いくつ？」と尋ねてみよう！
- 12回 名詞の形3（2格と3格）、人称代名詞
- 13回 感想を尋ねてみよう！
- 14回 名詞と一緒に用いる語（前置詞）
- 15回 時刻を尋ねてみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を話すことを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識及び理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会や文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 二つの部分に分かれる動詞（分離動詞）
- 2回 週末の予定を尋ねてみよう！
- 3回 動詞を従える動詞（話法の助動詞）/（未来形）
- 4回 電話をかけてみよう！
- 5回 過去のことを表す動詞の形（現在完了形）
- 6回 休暇に何をしたら尋ねてみよう！
- 7回 形容詞の形（形容詞の格変化）
- 8回 誕生日や日付を尋ねてみよう！
- 9回 人や事物を比べる表現（比較級、最高級）
- 10回 何が一番好きか尋ねてみよう！
- 11回 「・・・される」ことを表す動詞の形（受動態）
- 12回 副文を作る接続詞（従属接続詞）
- 13回 話されている言語について尋ねてみよう！
- 14回 非現実的なことを表す動詞の形（接続法第2式）
- 15回 丁寧に頼んでみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くととき
- 8回 綴りを聞くととき、英語の分る人を探すととき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くととき、道順・方向を聞くととき、距離を聞くととき
- 11回 時刻を聞くととき、時間を聞くととき、曜日を聞くととき、日付を聞くととき
- 12回 値段を聞くととき、数量を聞くととき、方法を聞くととき、理由を聞くととき
- 13回 目的を聞くととき、住所を聞くととき、出身地を聞くととき、生年月日を聞くととき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにしたいと考えています。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく過程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればと思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

新・東京ーパリ、初飛行 (CD付き新装改訂版)、藤田裕二 他著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 フランス語の挨拶
- 3回 名前、国籍、職業 (主語人称代名詞、動詞être、形容詞〈1〉)
- 4回 年齢、家族 (名詞の性と数、不定冠詞、動詞avoir、否定文)
- 5回 好きなもの (定冠詞、第一郡規則動詞、疑問文)
- 6回 所有 (指示形容詞、所有形容詞、人称代名詞強勢形)
- 7回 友達 (形容詞〈2〉)
- 8回 復習と確認 (フランス映画鑑賞)
- 9回 質問〈1〉 (疑問代名詞)
- 10回 質問〈2〉 (疑問副詞、第二群規則動詞、動詞faire)
- 11回 近い未来と近い過去〈1〉 (近接未来、近接過去)
- 12回 近い未来と近い過去〈2〉 (前置詞と定冠詞の縮約、中性代名詞〈1〉)
- 13回 時間と天候 (疑問形容詞、非人称構文)
- 14回 数量 (部分冠詞、数量表現、中性代名詞〈2〉)
- 15回 復習と確認 (フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題 (50%)、学期末試験の結果 (50%) を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また6月のフランス語検定5級以上の合格者には、最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期よりも高いレベルで基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を1学期にまして正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、それまでの学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

新・東京一パリ，初飛行（CD付新装改訂版）、藤田裕二 他 著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 紹介（補語人称代名詞）
- 第2回 ある日曜日（代名動詞）
- 第3回 依頼と命令（命令法と義務を表す表現）
- 第4回 復習と確認（フランス映画鑑賞）
- 第5回 未来（直接法単純未来）
- 第6回 過去1（直接法複合過去〈1〉）
- 第7回 過去2（直接法複合過去〈2〉）
- 第8回 過去3（直接法半過去と大過去）
- 第9回 復習と確認（フランス映画鑑賞）
- 第10回 映画（関係代名詞と指示代名詞）
- 第11回 比較（比較級と最上級）
- 第12回 事故（受動態と現在分詞）
- 第13回 仮定（条件法現在と過去）
- 第14回 感情表現（接続法現在と過去）
- 第15回 復習と確認（フランス映画鑑賞）

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題（50%）、学期末試験の結果を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、は別途考慮します。また11月のフランス語検定4級以上の合格者には、最低点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2500)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！2 -フランス美味探訪の旅-』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

Eメールの文章を中心に、文法、練習問題、聞き取りなどを通して、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」といった総合的な語学能力の習得を目指す。

- 1回 アルザス地方への旅
- 2回 複合過去を使った表現
- 3回 半過去と大過去を使った表現
- 4回 ブルゴーニュ地方への旅
- 5回 関係代名詞を使った表現
- 6回 現在分詞・ジェロンディフを使った表現
- 7回 ローヌ・アルプ地方への旅
- 8回 受動態の表現
- 9回 強調構文
- 10回 プロヴァンス地方への旅
- 11回 条件法を使った表現
- 12回 接続法の表現
- 13回 ブルターニュ地方への旅
- 14回 間接話法と時制の一致について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランスの地方料理を巡る旅、フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年時に習得した基礎文法事項を復習しながら、さらにフランス語表現力アップを目標とします。同時にフランス社会の多様性や、奥深い文化に対する知見を広げます。

教科書 /Textbooks

澤田直之 他著 『アミカルマンーフランス語、フランス文化への誘いー』 (駿河台出版社) 2625円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プリント1 作文1 <avoir> <etre> を使って"自己紹介文"を作る
- 2回 同上
- 3回 テキスト1課 読解1 "La France"
- 4回 テキスト2課 読解2 "Paris"
- 5回 プリント2 作文2 前置詞の縮約 代名動詞を使って"自分の住む街の紹介文"を作る
- 6回 同上
- 7回 テキスト3課 読解3 "les cafes"
- 8回 同上
- 9回 テキスト4課 読解4 "la vie des etudiants"
- 10回 同上
- 11回 プリント3 作文3 比較級・最上級を使って"大学の課外活動について"を作文する
- 12回 テキスト5課 人称代名詞の復習
- 13回 テキスト5課 読解5 "le pain, le vin et le fromage"
- 14回 同上
- 15回 1学期のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストと同時にプリント学習をする。テキストは必ず購入すること。プリントは受講者人数分しか用意しないので、なくさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語による表現力アップと、フランス社会の多様性や、奥深い文化に対する知見を広げることを目標とします。

教科書 /Textbooks

澤田直之 他著 『アミカルマンーフランス語、フランス文化への誘い』 (駿河台出版社) 2625円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト6課 読解6 "La Bretagne"
- 2回 同上
- 3回 テキスト7課 読解7 "La Provence"
- 4回 同上
- 5回 プリント4 作文4 "過去の出来事を語る"手紙文を書く
- 6回 同上
- 7回 テキスト8課 関係代名詞復習 接続詞queを使った表現
- 8回 テキスト8課 読解8 "L'Alsace"
- 9回 同上
- 10回 プリント5 中性代名詞復習
- 11回 プリント5 観光案内文を読む
- 12回 プリント5 作文5 日本の観光案内文を書く
- 13回 テキスト9課 読解9 "Le systeme politique"
- 14回 テキスト10課 条件法と接続法について
- 15回 テキスト10課 読解10 "Le francais dans le monde"

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストとプリントを使用する。テキストは必ず購入すること。プリントは受講者人数分しか用意しないのでなくさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストには仏検4級対策問題集を使用するが、授業内容は決して仏検対策ではない。良質の問題集であるため、上記の目的を達成するのに好適だからである。

特につぎの3点を重要視する。

1. 基礎文法事項を徹底的に復習する。
2. 問題を解き理解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。
3. 時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

4級の問題集ではあるが、真摯に取り組めば3級程度の実力をつけることができる。
6月に行われる検定試験3級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

富田正二『ニヴオー・カトル』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、発音の復習
- 2回 冠詞 1
- 3回 冠詞 2
- 4回 動詞の活用 1
- 5回 動詞の活用 2
- 6回 動詞の活用 3
- 7回 代名詞 1
- 8回 代名詞 2
- 9回 代名詞 3
- 10回 単語配列 1
- 11回 単語配列 2
- 12回 単語配列 3
- 13回 前置詞 1
- 14回 前置詞 2
- 15回 前置詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、 日常の授業への取り組み 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

仏検 文法 発音 文化

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のフランス語VIIに引き続き、現在までに習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストには仏検 4 級対策問題集を使用するが、授業内容は決して仏検対策ではない。良質の問題集であるため、上記の目的を達成するのに好適だからである。

特につぎの 3 点を重要視する。

1. 基礎文法事項を徹底的に復習する。
2. 問題を解き理解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。
3. 時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

4 級の問題集ではあるが、真摯に取り組めば準 2 級程度の実力を目指すことができる。
6 月に行われる検定試験準 2 級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

富田正二『ニヴオー・カトル』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 応用問題 1
- 2 回 応用問題 2
- 3 回 応用問題 3
- 4 回 応用問題 4
- 5 回 応用問題 5
- 6 回 短文聞き取り 1
- 7 回 短文聞き取り 2
- 8 回 会話文 1
- 9 回 会話文 2
- 10 回 会話文 3
- 11 回 会話文聞き取り 1
- 12 回 会話文聞き取り 2
- 13 回 会話文聞き取り 3
- 14 回 長文読解 1
- 15 回 長文読解 2

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、 日常の授業への取り組み 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1 年次のフランス語および前期のフランス語VIIを受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

仏検 文法 発音 文化

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第一言語・母語として、中国語に次ぎ世界第2の話者人口を持つスペイン語を初歩から学習します。と同時に、その文化(圏)を少しなりとも理解し身に付けます。*我が国ではスペイン語は普通、西語、と表記されます。

教科書 /Textbooks

青木・辻・マリア J. H. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のアルファベット・発音
- 2回 発音・アクセント
- 3回 名詞の性と数・冠詞
- 4回 主格人称代名詞・動詞について
- 5回 直説法現在規則活用
- 6回 基本的な文章(肯定文・否定文・疑問文)
- 7回 疑問詞(QUE・QUIEN・DONDE)
- 8回 国名とその言語
- 9回 不規則活用(主要三動詞、SER・ESTAR・HABER)
- 10回 形容詞の性・数
- 11回 主要三動詞例文
- 12回 疑問詞(COMO)・指示詞・所有形容詞
- 13回 他の不規則動詞
- 14回 不規則動詞例文
- 15回 不定詞の用法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初めての外国語を学ぶには、興味を持つことが第一条件です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

西語の発音は、日本語を母語とする者にとっては、非常に容易です。逆に、文法や動詞の活用は、難解で複雑です。特に、初歩段階が肝腎です。欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語の世界的位置 スペイン語圏

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

西語 I を継続し、ほぼ初級の文法を終えます。

教科書 /Textbooks

西語 I と同じ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 代名詞(与格・対格)
- 2回 G U S T A R 類の動詞
- 3回 代名詞(前置詞格)
- 4回 日付・曜日・時刻
- 5回 数詞(序数の使用)
- 6回 不定過去・不完了過去・現在完了(規則活用)
- 7回 動詞の種類
- 8回 不定語と例文
- 9回 天候・季節の表現と例文
- 10回 不定過去・不完了過去(不規則活用)
- 11回 現在分詞とその用法・例文
- 12回 名詞節・副詞節・形容詞節と例文
- 13回 未来・条件未来・過去完了の活用と用法
- 14回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 15回 再帰動詞と用法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Iをよく理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語の世界的位置 スペイン語圏

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 人称代名詞、名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 規則動詞(1)、基本的表現
- 5回 動詞estar, ir を用いた表現
- 6回 動詞ser、形容詞・指示形容詞を用いた表現
- 7回 規則動詞(2) 基本的表現
- 8回 規則動詞(3) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 動詞(estar, hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(~が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを使用。初回には、前年度スペイン語Ⅲ、Ⅳのテキスト『オラ!』(粕谷てる子著、2010、第三書房)を持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(スペイン語聞き取り)
- 2回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(スペイン語会話練習)
- 3回 「ロラへの手紙」
- 4回 「電話口にて」再帰動詞
- 5回 「モニカの友人が到着した」現在完了、過去形について
- 6回 「サラマンカへの行き方」命令形、接続法について
- 7回 「セビーリャへの電車は何時ですか」
- 8回 「旅行の計画」
- 9回 「買い物：プレゼント用に包んでほしいのですが」
- 10回 「レストランにて：パエーリャは時間かかるんですか」
- 11回 「住居探し：家賃は月にいくら」比較表現
- 12回 「面接：昨日の人物よりよさそうだ」
- 13回 「人物について：新しい恋人」
- 14回 「好きな有名人」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書についてはスペイン語VIIに同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	スペイン語VIIの復習
2回	「待ち時間：今週はもう5回目だよ」
3回	「面接：こういった企業で働いたことはありますか」点過去
4回	「そのとき～の部署で働いていました」線過去
5回	過去形のまとめ
6回	「夜8時の船にしよう」直説法未来
7回	「お釣りはありますか」接続法
8回	「私だっ行ってきたいけれど・・・」直説法過去未来
9回	短編教材と聞き取り
10回	短編教材と会話練習
11回	「一番○○なこと」
11回	「都市に住むか、田舎に住むか」
13回	スペイン語でDVDなどを見る(1)
14回	スペイン語でDVDなどを見る(2)
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語(I・II・III・IV・V・VII)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 中山担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 大学・学部・学科について学ぶ	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 大学生生活のデザイン	7回 定義をする
8回 講義の上手な受け方	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 演習に参加するコツ	9回 時間軸に沿って考える
10回 チュートリアル(1)【学習計画】	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 チュートリアル(2)【振り返り】	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 チュートリアル(3)【修正】	12回 総合的に表現する
13回 チュートリアル(4)【評価】	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学の定期試験	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aは、ペア科目です。週2回同じクラスで受講しなければなりません。
日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期(ペア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 中山担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 大学・学部・学科について学ぶ	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 大学生生活のデザイン	7回 定義をする
8回 講義の上手な受け方	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 演習に参加するコツ	9回 時間軸に沿って考える
10回 チュートリアル(1)【学習計画】	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 チュートリアル(2)【振り返り】	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 チュートリアル(3)【修正】	12回 総合的に表現する
13回 チュートリアル(4)【評価】	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学の定期試験	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aは、ペア科目です。週2回同じクラスで受講しなければなりません。
日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生活日本語 大学日本語(アカデミック・ ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる文章を書けるようになることをめざし、その基礎となる日本語表現を学ぶ。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。また、講義を聞き取るための聴解スキルやノートテイキング、批判的思考力を養うためのディベート活動も行う。

教科書 /Textbooks

得丸さと子『TAEによる文章表現ワークブック』図書文化

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
福嶋健伸編著『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
- 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- 5回 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- 6回 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- 7回 「食料自給率」【データ比較】
- 8回 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- 9回 ディベート「ディベートにふさわしいテーマ」
- 10回 「ディベートの流れ」
- 11回 「実践①」【立論】【反論】
- 12回 「実践②」【最終弁論】
- 13回 「実践③」【判定】
- 14回 TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 15回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 16回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 17回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 18回 「初級編」【マイセンテンス】
- 19回 「中級編」【パターンを見つける】
- 20回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 21回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 22回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 23回 「中級編」【経験から論じよう】
- 24回 「中級編」【感想文を書こう】
- 25回 「上級編」【理論】
- 26回 「上級編」【～は...である】
- 27回 「上級編」【性質を考えて思考を深めよう】
- 28回 「上級編」【概念を組み込んで理論を作ろう】
- 29回 「上級編」【理論を精緻化しよう】
- 30回 「上級編」【フェルトセンスから理論を作る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング ディベート TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる文章を書けるようになることをめざし、その基礎となる日本語表現を学ぶ。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。また、講義を聞き取るための聴解スキルやノートテイキング、批判的思考力を養うためのディベート活動も行う。

教科書 /Textbooks

得丸さと子『TAEによる文章表現ワークブック』図書文化

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
福嶋健伸編著『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
- 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- 5回 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- 6回 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- 7回 「食料自給率」【データ比較】
- 8回 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- 9回 ディベート「ディベートにふさわしいテーマ」
- 10回 「ディベートの流れ」
- 11回 「実践①」【立論】【反論】
- 12回 「実践②」【最終弁論】
- 13回 「実践③」【判定】
- 14回 TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 15回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 16回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 17回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 18回 「初級編」【マイセンテンス】
- 19回 「中級編」【パターンを見つける】
- 20回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 21回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 22回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 23回 「中級編」【経験から論じよう】
- 24回 「中級編」【感想文を書こう】
- 25回 「上級編」【理論】
- 26回 「上級編」【～は...である】
- 27回 「上級編」【性質を考えて思考を深めよう】
- 28回 「上級編」【概念を組み込んで理論を作ろう】
- 29回 「上級編」【理論を精緻化しよう】
- 30回 「上級編」【フェルトセンスから理論を作る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

日本語 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング デイベート TAE 身体を感じ

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Aに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 中山担当分 >	< 小林担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 小論文と学術的文章の違い
3回 自己評価	3回 小論文を書く(1)
4回 絵やイラストを読む	4回 小論文を書く(2)
5回 文章を読んで図や表にする	5回 テーマを決める
6回 表やグラフを読み取る	6回 資料を探す(スキミングとスキミング)
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 資料を読む(批判的な読み方)
8回 マッピングしながら読む	8回 図解で考える
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 表やグラフを描く
10回 どちらがいいかを考えながら読む	10回 レポートの特徴
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的に読む・聞く
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 レジюмеを作成する
13回 総合的に読む	13回 パソコンを使ったプレゼン
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 ポスターを使ったプレゼン
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Aに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 中山担当分 >	< 小林担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 小論文と学術的文章の違い
3回 自己評価	3回 小論文を書く(1)
4回 絵やイラストを読む	4回 小論文を書く(2)
5回 文章を読んで図や表にする	5回 テーマを決める
6回 表やグラフを読み取る	6回 資料を探す(スキミングとスキミング)
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 資料を読む(批判的な読み方)
8回 マッピングしながら読む	8回 図解で考える
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 表やグラフを描く
10回 どちらがいいかを考えながら読む	10回 レポートの特徴
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的に読む・聞く
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 レジюмеを作成する
13回 総合的に読む	13回 パソコンを使ったプレゼン
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 ポスターを使ったプレゼン
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

日本語D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

日本語D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The major object of this course is to learn basic knowledge of contemporary Japanese culture and society. For the purpose, this course deals with a wide range of the latest topics in Japanese society as shown below. Through the course, students are encouraged to grow their own critical perspective to examine those topics. While this course emphasizes the unique characteristics of contemporary Japanese culture and society, it also discusses some common in our society in the age of globalization.

教科書 /Textbooks

Sugimoto, Y. (2010) An Introduction to Japanese Society. 3rd. edition. Cambridge: Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Sugimoto, Y. ed. (2009) The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture. Cambridge: Cambridge University Press.
Hendry, J. (2000) The Empire Strikes Back: A Global View of Cultural Display. Oxford: Berg.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week01: Contemporary Japanese society : an introduction
Week02: The Japanese: class/stratification, and generational variations
Week03: Work and education in Japan
Week04: Tutorial (Japanese society today)
Week05: Japan's establishment: politics, business, and labor
Week06: Family and sexuality in Japan
Week07: Multiethnic Japan: minorities in society
Week08: Tutorial (social issues in contemporary Japan)
Week09: Leisure and tourism in Japan
Week10: Popular culture in Japan
Week11: Visual culture in Japan
Week12: Tutorial (Reading popular culture)
Week13: Japanese popular culture in the world
Week14: Cultural nationalism in the age of globalization
Week15: Japanese culture and society: a summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 30%
Mid-term essay 30%
Final essay 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Basic knowledge of Japanese culture and society

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese society, Japanese culture, sociology, cultural studies, social change, globalization

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to read 'Otaku: Japan's Database Animals', one of the most controversial critiques of contemporary Japanese culture and society in the last decade. In the discussion of the nature of contemporary 'Otaku' culture in Japan, by using a wide range of sociological, cultural and philosophical terms, the author attempts to create a social theory to characterize contemporary Japanese society. Through reading and discussing this exciting text in the course, it expects students to develop the ways in which they consider contemporary Japanese society, after the rise of hyper consumer society in advanced media technologies.

教科書 /Textbooks

Azuma, H. (2009) Otaku: Japan's Database Animals. Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week01: What is the 'Database Animals'? : an introduction
 Week02: The Otaku's pseudo-Japan (1): What is Otaku culture?
 Week03: The Otaku's pseudo-Japan (2): The postmodernism fad and the expansion of Otaku culture
 Week04: Tutorial
 Week05: Database animals (1): Otaku and postmodernity
 Week06: Database animals (2): The grand nonnarrative
 Week07: Database animals (3): Moe-elements
 Week08: Tutorial
 Week09: Database animals (4): Database consumption
 Week10: Database animals (5): The simulacra and the database
 Week11: Database animals (6): The animal age
 Week12: Tutorial
 Week13: Hyperflatness and multiple personality (1): Hyperflatness and hypervisuality
 Week14: Hyperflatness and multiple personality (2): Multiple personality
 Week15: Summary and conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 30%
 Mid-term essay 30%
 Final essay 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Basic knowledge of Japanese culture and society

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese culture, Japanese society, consumer society, subculture, sociology, media studies, cultural studies, postmodernity

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題を取りあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本事情 (社会) A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

そこで、日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国の公的医療制度を比較検討したい。具体的には留学生の出身国である、イギリス、韓国、中国、オーストラリアの公的医療制度を詳細に検討していく。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とベバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリ-労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

認知心理学【昼】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

われわれが生きていくためには、外界から情報を取り入れなければならない。さらにその情報を取り入れて保存し、必要に応じていつでも取り出せるようにしておき、必要な情報だけを取り出して問題を解決する必要がある。このような一連の流れを認知と言う。このように認知機能がどのような過程を経て行われているかを調べるのにさまざまな手法が用いられている。このように、ヒトの認知機能に迫ることは、注意や問題解決など人間のさまざまな側面からの理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。

認知心理学では、認知のしくみ（注意、記憶、理解など）および認知過程を明らかにする方法論（再生・再認率、反応時間、脳波・眼球運動測定など）について話していき、われわれが情報を処理するときの不思議なメカニズムについて体験的に理解を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（2010）「認知心理学 (New Liberal Arts Selection)」 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. ルース キャンベル (編), 本田 仁視 (訳) (1995) 「認知障害者の心の風景」 福村出版
2. 福田恭介 (編) (2011) 「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」 あいり出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 心理学における「認知心理学」の学問的位置づけと定義
2. 認知心理学の歴史
3. 注意の仕組み
4. 注意についての理論
5. 注意障害を持った人々 1 (半側空間無視, 相貌失認)
6. 注意障害を持った人々 2 (自閉症, AD/HD, LD)
7. 記憶の仕組み 1 (感覚記憶, 短期記憶, ワーキングメモリー)
8. 記憶の仕組み 2 (長期記憶, プライミング)
9. 理解
10. 脳波と覚醒水準
11. 事象関連電位と認知過程
12. 眼球運動と認知過程
13. 瞳孔運動と認知過程
14. まばたきと心理過程
15. 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業へのコメント20%、宿題30% (遅れて提出した場合は評価点が下がる)、試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中におけるコメントカードを利用して質問を受け付ける。
教科書のいくつかの章をレポートにまとめることで、理解が深まるようにする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会心理学における幅広い分野の研究を紹介していく予定である。基礎的な知識を学んでもらうと同時に、より深い社会心理学的な問題に興味をもってもらいたい。

教科書 /Textbooks

現在調整中である。遅れた場合には、初回の講義で書名等を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的推論
- 第3回 対人距離と他者の存在意義
- 第4回 対人葛藤と共感
- 第5回 自己意識, 自己概念
- 第6回 自己評価, 自尊心
- 第7回 集団の定義, 集団力学
- 第8回 自己と集団の関わり
- 第9回 集団間関係
- 第10回 個人的アイデンティティと社会的アイデンティティ
- 第11回 偏見, 同調, 服従
- 第12回 自己に関する矛盾と統合
- 第13回 現代社会における自己, 大衆社会化, 都市化
- 第14回 進化心理学と社会心理学
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 小テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

現在調整中である。遅くなった場合には、初回の講義で書名等を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 小テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テスト含む) ... 20% 試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理アセスメントと心理療法に関する基礎的知識の習得を目指す。心理アセスメントでは、初回面接のあり方や心理アセスメントの諸技法について概観する。心理療法では、三大心理療法の精神分析、行動療法、クライアント中心療法について概観する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理療法とは何か
- 第2回 心理アセスメント(1)：初回面接と見立て【初回面接】
- 第3回 心理アセスメント(2)：精神医学的診断【病理水準】
- 第4回 心理アセスメント(3)：テストバッテリー【構造化面接法】
- 第5回 精神分析の理論と実践(1)【無意識】
- 第6回 精神分析の理論と実践(2)【メタ心理学】
- 第7回 精神分析の理論と実践(3)【自由連想法】
- 第8回 行動療法の理論と実践(1)【学習理論】
- 第9回 行動療法の理論と実践(2)【認知行動療法】
- 第10回 クライアント中心療法の理論と実践【受容】【共感】
- 第11回 三大心理療法の共通点と相違点
- 第12回 学校カウンセリングの実際：事例編
- 第13回 心理療法の実際（ビデオ学習等）
- 第14回 心理療法の実際（グループワーク）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 ... 20% 試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論【昼】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合，メディアを介したコミュニケーション，機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え，メディアによるコミュニケーション，機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

1. 松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」の理解。
2. 実験心理学の枠組みと、統計基礎の理解。
3. 基礎から臨床まで、心理学が分断されたものではなく、一続きだというイメージを持つ。
4. 心理学が生活や社会問題に活用できることの理解。

教科書 /Textbooks

松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西林克彦『わかつたつもり』光文社
- 吉井博明『情報化と現代社会（改訂版）』北樹出版
- 加藤隆『認知インタフェース』オーム社
- 海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 コミュニケーションとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 わかりやすい文章
- 5回 実験計画の理解と表やグラフの読み方
- 6回 スキーマによる対人認知
- 7回 ノンバーバルコミュニケーション
- 8回 対人距離
- 9回 メディアコミュニケーション
- 10回 Computer Mediated Communication
- 11回 ヒューマンインタフェース
- 12回 人と機械とのコミュニケーション
- 13回 医療事事故を心理学の視点から紐解く
- 14回 言いたいことをうまく伝えるコミュニケーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。

評価は、試験の結果のみで行います。

試験は、全て持ち込み可とします。

講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。（含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります）

欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。

その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。

「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの人は絶対に受講しない方が良い」

「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」

「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般の人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」

「心理学が生活に関連していることがわかる」

「心理学が役に立つものだとわかる」

「就活に使えるネタが集まる」

「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」

「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」

「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけないので覚悟すべし」

「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」

「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」

「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

学習心理学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学習(learning)に関する心理学的アプローチについて概説する。特に、学習意欲、学習行動の基礎理論、知識と問題解決、教育との関連、学習の評価といった問題について、具体例を交えながら講義する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 授業のすすめ方について、意欲の問題 【意欲】
- 2回 内発的動機づけと外発的動機づけ 【動機づけ】
- 3回 行動主義 【行動】
- 4回 認知主義 【認知】
- 5回 状況主義 【状況】
- 6回 知識と表象 【知識】
- 7回 問題解決と学習 【問題解決】
- 8回 教育との関連 【教育】
- 9回 学習における個人差 【個人差】
- 10回 記憶と学習 【記憶】
- 11回 知能と学習 【知能】
- 12回 発見学習と仮説実験授業 【仮説】
- 13回 学習と評価 【評価】
- 14回 自己学習 【セルフ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 30% 授業中の小テスト... 30% テスト... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業毎に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。
本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。
講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション
- 第2回教育心理学の理論と方法 【行動主義・認知主義】、【社会文化理論】
- 第3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲 【自己効力】、【学習性無力感】
- 第4回子どもの「学力」(2)：知識・理解 【知識の種類・体制化】、【学力低下論争】
- 第5回子どもの「学力」(3)：思考・判断 【問題解決】、【転移と領域固有性】
- 第6回子どもの「学力」(4)：表現・技能 【リテラシー】、【プロジェクト学習】
- 第7回教育測定・評価(1) 【測定学力】、【目標学力】
- 第8回教育測定・評価(2) 【評価基準】、【テスト作成】
- 第9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式】、【教師の信念体系】
- 第10回教師と授業づくり(2) 【学級経営】、【グラウンド・ルール】
- 第11回教師と授業づくり(3) 【学びの共同体】、【教師の同僚性】
- 第12回カリキュラムと学習材 【課題分析】、【目標分類】
- 第13回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成】、【集団力学】
- 第14回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習】、【協働学習理論】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回講義中に情報提供する参考書を読んでもらうと、理解がより深まると思われる（可能な限り、図書館利用可能な書籍を提示する）。
自らの教授学習経験と重ね合わせながら、「自分だったらどうするだろうか」「どうしてほしいだろうか」という当事者意識を持って、積極的に受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達【愛着の個人差、世代間伝達】
- 第8回 共同注意と言語発達
- 第9回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第10回 児童期における社会性の発達
- 第11回 青年期における論理的思考の発達
- 第12回 アイデンティティの模索【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期・老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霧山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法」 岩井寛 著 講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」 森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を困む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 ヒューマニスティック・セラピー他 【全体観】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 【とらわれ】
- 14回 認知行動療法について 【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」についてもゲストスピーカーを招いて学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理統計【昼】

担当者名 /Instructor 原口 雅浩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学では、実験や検査を行ったら、その結果をレポート（論文）にまとめて報告することになる。このレポートは、問題と目的、方法、結果、考察という章立てとなる。本講義は、結果の段階に関連するものである。

そこで本講義では、心理学の実験や検査（調査）等から得られたデータの特徴を記述し（記述統計）、そのデータに基づいて行う母集団に関する一般的な推論の仕方（推測統計）について理解すること、および結果の記述の仕方（文章化）についても理解することを目標とする。あわせて、表計算ソフト（EXCEL）と統計ソフト（javascript star）の使い方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 田中敏・山際勇一郎 教育出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 心理統計とは【母集団】【標本】
- 2回 代表値【平均】
- 3回 散布度【標準偏差】
- 4回 区間推定【不偏推定値】
- 5回 相関【相関係数】
- 6回 回帰直線【決定係数】
- 7回 検定のしくみ【有意水準】
- 8回 t検定【自由度】
- 9回 t検定【t検定】
- 10回 カイ二乗検定【期待度数】
- 11回 一要因分散分析【主効果】【平方和】
- 12回 多重比較【LSD】【HSD】
- 13回 二要因分散分析【交互作用】
- 14回 交互作用【単純主効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に行う小課題：60%
学期末に行うレポート：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

USBメモリーを必ず準備しておいてください。
心理学実験、心理学研究法、心理学実習とあわせて受講すると理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主として老年期の知能、記憶・学習・情報処理、パーソナリティと社会的適応について、老年期特有の変化の有無とその要因及び社会関係を視野に入れて説明する。また、精神疾患や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期のとらえ方】
- 第2回 老年期の理論1【生涯発達心理学】
- 第3回 老年期の理論2【活動理論、離脱理論、継続性理論】
- 第4回 老年期の知能1【横断的方法、縦断的方法、系列法】
- 第5回 老年期の知能2【言語性能力、動作性能力】
- 第6回 老年期の知能3【変化に影響する要因】
- 第7回 老年期の記憶・学習・情報処理1【記憶のモデル】
- 第8回 老年期の記憶・学習・情報処理2【再認と再生】
- 第9回 老年期の記憶・学習・情報処理3【日常生活における記憶、記憶能力変化の要因】
- 第10回 老年期のパーソナリティと適応1【社会環境・社会適応・時代背景】
- 第11回 老年期のパーソナリティと適応2【OldestOld】
- 第12回 老年期のパーソナリティと適応3【成熟した人格、パーソナリティ変容の要因】
- 第13回 老年期の精神疾患【うつ、認知症】
- 第14回 適応と生きがい【個人と社会】
- 第15回 まとめとして - 社会問題としての扱われ方

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生理心理学【昼】

担当者名 麦島 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学が研究対象とする知覚・認知・学習・情動・こころの不調などを理解するには、脳を中心とする身体のはたらきとの関係を検討することも意義深い。この授業ではまず神経科学の基本的知識を講義し、次にこころと脳(身体)との関係を解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

例えば良書としては 岡田隆他 (2005) 生理心理学 サイエンス社 など。
その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生理心理学とは。
- 第2回～第4回 神経細胞の構造と機能。【活動電位】【シナプス】【神経伝達物質】
- 第5回～第8回 脳の構造と機能。【脳幹・間脳】【大脳基底核】【大脳辺縁系】【大脳新皮質】
- 第9回 感覚・知覚。
- 第10回 意識・覚醒・睡眠。
- 第11回 学習・記憶。
- 第12回 情動・動機。
- 第13～14回 こころの不調。【統合失調症・抑うつ】【ADHD・臨床神経心理学】
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校や教養教育科目などでの生物学・化学の履修状況にかかわらず、分かりやすく解説します。
脳とこころの関係について知りたい人は臆せず受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生理心理学を含む神経科学は進展が目覚ましい。授業期間中に重要な発見があれば適宜紹介する。
また、この分野は「総合知」の側面も持っているため、幅広い知識と興味を養っていただきたい。

キーワード /Keywords

脳とこころ

家族社会学【昼】

担当者名 鈴木 健之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとは家族において生まれ、家族において死んでゆく。しかし実際には、多くのひとは病院で生まれ、病院で死んでゆく。少子高齢化が進む日本では、現在、人口が増えずに、高齢者が増えるという人口学的問題に直面しており、人口学的な問題はさまざまな社会問題を引き起こしている。

この授業では、こうした人口学的問題を考慮に入れながら、家族社会学の入門的な授業を行う。「生・老・病・死を社会学する」をメインテーマに、現代の重大な社会問題を取り上げ、「ジェンダー（男と女）」、「セクシュアリティ（ヘテロセクシュアルとホモセクシュアル）」、「エイジング（老い）」、「デス&ダイニング（死とその過程）」という切り口から社会学的な分析を試みる。家族・パートナーシップを切り口として、社会学の基礎を学ぶ。これがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。講義開始時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、授業において、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：生の社会学①（事例研究①『男と女の社会学』）【核家族】【ジェンダー】
- 第3回：生の社会学②（分析編）【二つの核を持った家族】
- 第4回：生の社会学③（事例研究②『男と女の境界線』）【セクシュアリティ】【トランスセクシュアル】
- 第5回：生の社会学④（分析編+ゲストスピーカーをお招きして）【トランスセクシュアル】【GID】
- 第6回：生の社会学⑤（家族：変わるもの・変わらないもの）
- 第7回：死の社会学①（事例研究③『がん死』）【死の受容】
- 第8回：死の社会学②（分析編）
- 第9回：死の社会学③（事例研究④『自死』）【自死】【自死遺児】
- 第10回：死の社会学④（分析編）
- 第11回：老いと病の社会学①（事例研究⑤『あるトランスセクシュアルの死』）【ヘイトクライム】
- 第12回：老いと病の社会学②（分析編）
- 第13回：老いと病の社会学③（事例研究⑥『ある社会学者の死』）【エイジング】【エイジズム】
- 第14回：老いと病の社会学④（分析編）
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート60%、授業内小テスト30%、出席状況10%により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中講義なので、授業への出席が必須であることは言うまでもない。授業中に課題を与えるので、それらの課題を終えてから、レポートを提出すること。

履修上の注意 /Remarks

積極的な参加を期待する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 明間 肇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ポスト近代（情報社会・高度消費社会）が大きな近代化の流れの中でいかに成立してきたのか、また、社会意識がいかに変容してきたのかを考えていきます。近代化と近代的主体の構築過程を追いながら、現代における主体の変容の必然とその先に予想される新たな連帯の可能性について考えてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）、田中義久編『関係の社会学』弘文堂（1996年2月）、宇野常寛『リトル・ピープルの時代』幻冬舎（2011年7月）、村上春樹の小説『1Q84』など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】 : Keywords

- 1回 講義概要の説明：問題提起および問題意識の所在
- 2回 【市民社会】における【情報社会】の位置づけ：市民社会の歴史的な規定性の貫徹
- 3回 【脱魔術化】の過程としての【近代化】：【近代市民社会】の意識のあり方および【高度消費社会・情報社会】の位置づけ
- 4回 社会学の成立と近代の関係および補足：【資本制社会】の成立過程における個人と社会のあり方の変容
- 5回 補足・討論
- 6回 【メディア】について：【身体-主体】の変容をもたらすものとしての【メディア】
- 7回 【身体-主体】の基本的構制：【近代的主体】と【メディア】との関係性
- 8回 【メディア】からみた現代：社会意識の変容
- 9回 【ポスト近代】について：【多様化】する【身体】と【メディア】
- 10回 補足・討論
- 11回 近代権力とは何か：近代化と【生-権力】の成立の関係
- 12回 【ポスト近代】における権力と主体
- 13回 現代社会の諸相を考える + 補足：新たな【連帯】のエートスへ向けて
- 14回 補足・討論
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況...40% レポート...20% 試験...40%
出欠は毎回確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記予定は、講義日程や講義の理解度に応じて適宜順序を変更する可能性があります。また、補足として映画等を観て、あるいは一定の課題のもとでレポートを書いていただく予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に質問していただける姿勢で授業に参加してください。

キーワード /Keywords

消費社会論 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「消費社会」のあり方をおして、現代の資本主義社会の特徴を分析することが目的である。「消費化」が進展した社会においては、モノよりもむしろ、文化や人間関係が消費の対象となる。人々の欲望が文化や人間関係の消費へと向かったときに、どのような事態がおこるのかについて主に議論する。

また、この講義では、主に現代人の消費のなかでも最も特徴的であると思われる観光消費について追いながら（半分程度）、現代の資本主義社会がどこに向かっているのかを考える。したがって、観光化の意味について興味を持っている学生の参加を歓迎する。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版、2008年、2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店
小川伸彦、山泰幸【『現代文化の社会学入門』ミネルヴァ書房
- G・リッツァー『マクドナルド化の世界』早稲田大学出版部
- J・アーリ『場所を消費する』法政大学出版局

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 【消費社会】とは何か(消費社会のなかの行為論)
 - 2回 ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店を読む
 - 3回 【記号の消費】・【人間関係の消費】と現代人のアイデンティティ
 - 4回 映画「下妻物語」と消費の美学
 - 5回 【お客様社会】と【感情労働の社会学】
 - 6回 消費の美学と労働(ジグムント・バウマン論)
 - 7回 観光の歴史から見る現代観光文化の特徴(労働の贈与交換と市場交換)
 - 8回 観光と「見せ物化」(観光の産業化)(少数民族の観光化)
 - 9回 「見せ物」を組織化する観光 テーマパーク論
 - 10回 【地域の観光化】の諸矛盾(観光と「場所」について)
 - 11回 「地域活動」を消費する・「環境保護」を消費する・「ボランティア」を消費することについて(オルタナティブ・ツーリズム論)
 - 12回 【バックパッカー】論・観光移住論(消費社会のなかの行為論として)
 - 13回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(観光)
 - 14回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(現代消費文化一般)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「文化社会学」「比較文化社会」の講義とセットで受講すると分かりやすいかも知れない。

履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要になる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 藪田 慎司 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを行う学問分野は幅広い。この講義では特に科学的方法の一つとしてフィールドワークを論じる。従って、科学とは何かも考えることになる。具体例を多くあげて講義をする。具体例は、人類学、霊長類学、博物学などからとる。講師が専門とするのは動物行動学であるが、この分野もまたフィールドワークを重要な方法論としている。この分野からも実例をあげながら講義を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1)機能人類学とフィールドワーク
- 2)博物学とフィールドワーク
- 3)科学的方法論としてのフィールドワーク
- 4)科学的方法論としてのフィールドワーク
- 5) フィールドワークと理論
- 6) フィールドワークと問い
- 7)観察という方法論
- 8)アンケートについて考える
- 9)フィールドを開く、フィールドに入る
- 10)フィールドワーク小実習
- 11) フィールドワーク小実習
- 12)フィールドワーカーと精神の不安
- 13) フィールドワークの実例から考える
- 14) フィールドワークの実例から考える
- 15) 人間の一生と「フィールドワーク」：フィールドワークの普遍性

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分がフィールドワークをすとしたら、どのようにするか。自分の専門分野や関心領域に引き寄せて考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境社会学【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自然と人間社会との複雑で深い相互関係を考えることが目的です。とくに森林と人間との関係性をとりあげますが、日本文化としての自然環境と社会の関係や、都市と農山村の関係性をもたらし環境文化の視点を含めていきます。具体的にフィールドの事例を示しながら解説します。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しませんが、適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○飯島伸子編『環境社会学』有斐閣、○嘉田由紀子『環境社会学』岩波書店
○片桐新自『歴史的環境の社会学』新曜社、○鳥越皓之『環境社会学』東京大学出版会
毎回のテーマに即して、そのつど参考文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 環境社会学という分野の説明
- 2回 山の利用と村落社会の歴史
- 3回 森林管理政策史
- 4回 都市緑地の保全と都市社会
- 5回 木の文化と日本文化
- 6回 森林資源と木材貿易
- 7回 森林文明と森林文化
- 8回 行楽と森林レクリエーション
- 9回 山村の伝統的景観の保存
- 10回 村落社会の組織構造
- 11回 山村文化と日本の国土
- 12回 農山村の観光化の仕組み
- 13回 現代社会にみられる田舎暮らし
- 14回 北九州の里山の豊かさと問題
- 15回 まとめと質疑応答

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポート含む) ...60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備はとくにありませんが、授業期間中は関連する文献を読む時間が必要になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、豊かで穏やかな自然の中にいる時には、自然を安息と感じ、荒れ狂う自然の中では、自然を猛威と感じる。しかし、穏やかな自然も、荒れ狂う自然も共に自然の規則正しい営みであり、私たちは、そのような自然の営みの中で生活している。また、気候変動のように、気付かぬうちに忍び寄ってくる猛威もある。しかしながら、このような認識は、当たり前のように、実感として理解するまでには至らないことが多い。この科目では、私たちの生活の場を地球規模で考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし (授業時にプリントを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「自然災害を読む」 (小島圭二著 岩波書店)
- 「気候が文明を変える」 (安田喜憲著 岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自然の猛威が私たちの住む場所を作っている。【自然の猛威】
- 2回 自然の猛威とはなにか。
- 3回 自然の猛威には、どのようなものがあるか。
- 4回 地球上の自然の猛威の分布 1。【変動帯】【安定帯】
- 5回 地球上の自然の猛威の分布 2。【地震】【火山噴火】
- 6回 気象に由来する自然の猛威。【干ばつ】【砂漠化】
- 7回 日本は、災害の国。【島原大変】
- 8回 火山の巨大噴火。
- 9回 火山の噴火と気候変動。【小氷期】
- 10回 巨大地震と津波。
- 11回 豪雨と治水の歴史。
- 12回 最近の治水についての考え方。【ハザードマップ】
- 13回 環境と文明 気候の変動は文明に大きな影響を与えた。
- 14回 自然の猛威とのつきあいかた。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小レポートまたは小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に配布する資料、授業内容に関連する新聞記事などを読む、またテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生態人類学【昼】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の多様性について幅広く考えることで、他者の価値観を理解しよう。キーワードは差異と共感。

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人間の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

フィールドワークの感覚を身につけるために、ドキュメンタリー映像をみて、そこから問題提起をします。次にその問題について資料を集めてきてもらいます。これらの資料をもとにディスカッションを行います。

教科書 /Textbooks

「講座 生態人類学」京都大学出版会
講義中にみるドキュメンタリー映像

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 以下はほんの一部である
- 「生態人類学を学ぶ人のために」
 - 「イブの7人の娘たち」
 - 「人はなにを食べて生きてきたかDVD」
 - 「人間らしさとはなにか? 人間のユニ - クスを明かす科学の最前線」
 - 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」
 - 「人類大図鑑」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

人類学に関係のふかい人間の営みに関する研究について、受講者の興味に応じて「食」「性」「死」「遊び」「宗教」のような感じで、おおよそ3回くらいひとつの単元にして討論をおこなう。討論の深度によって、日程は柔軟に変更する。

- 第1講 課題のテーマと講義の概要。受講者の分担決め
- 第2講 課題1の問題提起
- 第3講 課題1のプレゼンテーション
- 第4講 課題1のディスカッション
- 第5講 課題2の問題提起
- 第6講 課題2のプレゼンテーション
- 第7講 課題2のディスカッション
- 第8講 課題3の問題提起
- 第9講 課題3のプレゼンテーション
- 第10講 課題3のディスカッション
- 第11講 課題4の問題提起
- 第12講 課題4のプレゼンテーション
- 第13講 課題4のディスカッション
- 第14講 総論
- 第15講 最終討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表とディスカッションをもとにした自己採点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生態人類学 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

提示されたテーマに関して資料をあたりまとめてくる。
自分なりに毎回講義の前にイメージトレーニングし議論にすぐに参加できるように準備する。

履修上の注意 /Remarks

ディベートとディスカッションが主体の講義なので、ほかの人の意見をきき、理解し、自分の意見を意見を発言できることが、最低限の履修の要件である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな意見を交わすことは楽しい。その過程を通して人間とは何かを考え、他者の価値観の多様性を理解することも人間関係学科でこの講義をおこなう重要な理由です。

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学
環境
他者理解

比較表象文化 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、わたしたちの「身体」を中心的なテーマとして取り上げ、考察します。この考察を通して、わたしたちの「意識」「感覚」「考え方」がどのように物事を成立させているのか、また今のわれわれの「意識」「感覚」「考え方」がどのような物事の影響により形作られているのかについて考えていきます。

さらに、この講義では、自らが生きる社会について関心を持ち、その関心に基づいて調べ考えようとする姿勢を育てることも目標とします。自らが生きる社会について知り、関心を持つことを目指します。また自らが生きる社会について、自分の力で調べ考える力を習得します。そのうえで、当たり前になっていることを、別の異なる視点から見ていく姿勢を身につけることを目標にします。

なお、「授業計画・内容」については、適宜、講義時点でのトピックを盛り込むことがあるため、順序の変更をすることがあります。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：異文化として「過去」を見ること
- 第3回：モノによる「意識」や「感覚」の変容について
- 第4回：「身体を語る言葉」としての衣服
- 第5回：「既製服」という衣服(1)～レディメイド確立以前～
- 第6回：「既製服」という衣服(2)～レディメイドの確立～
- 第7回：「既製服」という衣服(3)～レディメイドの影響により変化した生活スタイル～
- 第8回：「既製服」が身体に及ぼした影響 ～理想の身体の登場～
- 第9回：ファッション誌に見る身体イメージの変遷
- 第10回：身体を変えることによる「意識」や「感覚」の変容について
- 第11回：「健康」について考える
- 第12回：「整形」について考える
- 第13回：「化粧」について考える
- 第14回：「考える」ための書き方・読み方・調べ方 ～図書館・インターネットの利用法～
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、日常の授業への取り組み)…約20% 学期末レポート約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線として形成されて流通してきた文化を指している。本講義では大衆文化史を、大衆芸能のジャンル生成を焦点としながら他分野にも目配せをして概観していく。なお授業では、メディア環境の転換点を見極めつつ、日常生活の変容、思想の変容を関係させながら、日本の大衆文化史を概観をする。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 講義のデザイン
- 第2回 近世 近世都市の大衆①【印刷文化】
- 第3回 近世 近世都市の大衆②【劇場】【寄席】
- 第4回 近代 幕末・文明開化【芸能統制】【改良言説】【新聞錦絵】
- 第5回 世紀転換期①【言文一致】【活動写真】
- 第6回 世紀転換期②【国家戦争】【レコード】
- 第7回 両大戦間期【民衆娯楽】【モダニズム】【労働問題】【大衆文学】
- 第8回 近代～現代 メディアの浸透①【電気吹き込み】【トーキー】
- 第9回 メディアの浸透②【ラジオ】
- 第10回 新しい喜劇の台頭【劇場】【トーキー】
- 第11回 総力戦・戦後占領【国家総動員】【GHQ】【軍国主義から民主主義へ】
- 第12回 現代 民主主義の胎動【民間放送】【グラビア雑誌】【視聴者参加】
- 第13回 高度経済成長①【ナショナルメディアとしてのテレビ】【映画における英雄像】
- 第14回 高度経済成長②【大衆文化論の系譜】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、課題など)...25%
学期末レポート...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備は特に必要ないが、各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直していく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしなければよいか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】 内はキーワード)	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】 【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】 【教育】 【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】 【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】 【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】 【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】 【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】 【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】 【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】 【食教育】 【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】 【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】 【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】 【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第4回社会教育施設と生涯学習施設 -管理運営と連携-
- 第5回生涯学習関連施策の動向 -社会教育の歴史と発展-
- 第6回学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービスの提供
- 第7回社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 第9回社会教育施設-公民館
- 第10回社会教育施設-博物館
- 第11回社会教育施設-図書館
- 第12回大都市における公民館-北九州市 -自治体行財政制度と施策立案・推進-
- 第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第14回成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第15回住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

主体形成論【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

急速な社会変化、そして生涯学習社会への移行は私たち自身にも、これまで経験してきた知識中心の学習とは、まったく異なった学ぶ能力が必要になっていることを示しています。

本講義では、人間が主体的力量を形成していく（主体形成）とはどういうことか、その課題やプロセス、そして支援について、様々な領域の学習実践を取り上げながら考えていきます。

こうした検討を踏まえて、学習要求・ニーズと、学習必要・学習課題との区別と関連や、人間が主体的力量を形成していく意義、そして、それを支える専門性の重要な役割について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1~4巻、山田定市監修、北樹出版
- 末本誠他編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

生涯学習・社会教育の多様な活動、分野を取り上げながら、主体形成について考えます。

- 1回 生涯学習・生涯発達をとらえる枠組み
- 2回 生涯学習・生涯発達のプロセス-自己形成史を通して考える
- 3回 消費者学習と主体形成
- 4回 自然環境と主体形成
- 5回 環境問題と社会教育-北九州市の公害学習
- 6回 持続可能な社会と主体形成
- 7回 ジェンダーと主体形成
- 8回 男女共同参画と男女平等
- 9回 人権と主体形成
- 10回 平和と主体形成
- 11回 子どもと主体形成
- 12回 子育てと主体形成
- 13回 NPOと主体形成
- 14回 地域づくりと主体形成
- 15回 エンパワーメントの支援

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート... 80% 課題レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期科目の生涯学習学とあわせて受講すると内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【昼】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に關する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 進路指導の場面を想定してのロールプレイ実習
- 14回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、進路指導

次世代育成論 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、子どもに対する教育活動を中心に、次の2つのことを柱にして授業を進めます。

①少子化社会や次世代育成について

②それぞれの発達段階における子どもたちの自立のプロセスを支援する地域活動、地域教育のあり方について実践報告を手がかりにしながら検討する。

こうしたことを踏まえて、子ども自身の活動や、子どもに関わる大人や地域・社会の課題や可能性について考えます。学外講師を招いて、実際の活動の状況や課題について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 少子化の現状と次世代育成の課題
- 2回 小学校に見る子どもの現状と課題
- 3回 中学校に見る子どもの現状と課題
- 4回 今日の子育ての危機と子育て支援、子育て共同、子育てネットワークの課題
- 5回 諸外国における少子化対策
- 6回 共同保育所にみる子どもの成長と関わり
- 7回 障がいを持つ親子の居場所づくりの実践
- 8回 プレーパーク(冒険遊び場)
- 9回 子ども劇場、親子劇場
- 10回 子育て支援の現状と課題
- 11回 地域と子ども・子育て-NPO活動
- 12回 子ども会やPTA
- 13回 メディアと子ども
- 14回 諸外国の子ども活動の取り組み
- 15回 子ども活動と子どもの権利の保障

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート... 80% 課題レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回取り上げるテーマが異なるので、子どもや子育ての実情について理解を深めながら、関連する情報の整理を行い授業時のレポートに反映させて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会教育計画論【昼】

担当者名 /Instructor 相戸 晴子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の課題解決に向けて、市民の主体的な学習活動が実践されている。そこには、一人一人が学習主体として学ぶ環境が醸成されていることによって、個々人の課題からの解放、地域や社会を創る学びへの展開がなされている。それら、各々の課題に向き合う学習主体の形成を引き出していくのは、社会教育関係者の学習支援によるものが大きい。

さらに、昨今の急激な社会の変化は、学習者の課題、社会教育・生涯学習を巡る法制度の改変、社会教育行政の縮小化（行政と民間の協働や社会教育施設への指定管理の導入、行政中心から民間の役割重視）等、社会教育の枠組みのとらえなおしを余儀なくされている。そこでは、現代の状況をとらえ、過去の歴史を学び、今後の方向性を見通し学びを組み立てていく社会教育関係者の計画化の資質が求められているのである。

そこで、本講義では、人が学ぶということ、社会教育を巡る歴史や法制度の基礎理解を踏まえながら、課題にアプローチする多様な学習実践を見つめ、「学習主体の形成」を支える社会教育の計画化とはどのような視点と実践が求められているのかについて探っていくこととする。

教科書 /Textbooks

- ・ なし
- ・ 適宜レジュメを配布する。
- ・ 必要な際は、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤田秀雄『ユネスコ学習権宣言と基本的人権』教育史料出版会、2001年、2,500円。
- 上田幸夫、辻浩編『現代の貧困と社会教育』国土社、2009年、2,000円。
- 末本誠・松田武雄編『生涯学習と地域社会教育』春風社、2004年、2,476円。
- 南里悦史編『教育と生活の論理』光生館、2008年、2,200円。
- 正平辰男、永田誠、相戸晴子『子どもの育ちと生活体験の輝き』、あいり出版、2010年、2,500円。
- 山本恒夫他『社会教育計画』文憲堂、2007年、1,800円。
- 南里悦史・松田武雄編『校区公民館の再構築-福岡の校区公民館の歴史と実践-』北樹出版、2005年、2,730円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：人が学ぶということ～ユネスコ「学習権宣言」～
- 第2回社会教育の基礎理解1 法体系にみる社会教育を巡る変容
- 第3回社会教育の基礎理解2 公民館・社会教育施設を巡る変容
- 第4回社会教育計画の基本的考え方・社会教育調査とデータの活用
- 第5回現代社会の課題認識と社会教育事業の計画立案
- 第6回社会教育の対象理解と組織化1【事例】子ども主体の学び
- 第7回 " 2【事例】子育て主体の学び
- 第8回 " 3【事例】女性問題主体の学び
- 第9回 " 4【事例】地域福祉主体の学び
- 第10回 " 5【事例】識字学習主体の学び
- 第11回 " 6【事例】環境問題主体の学び
- 第12回学習情報の収集整理と学習相談の方法
- 第13回社会教育の広報・広聴
- 第14回社会教育施設の経営と社会教育評価
- 第15回総括～社会教育の計画化～

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70%、日常の授業の取組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業を受講する場合には、「社会教育」「生涯学習」の関連授業を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

資料の管理やノート整理の徹底（持込試験のため）。議論は大いに私語は厳禁。授業への積極的参加。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多様な実践事例に触れながら、社会教育の担い手に求められる社会教育計画の資質を主体的に学びましょう。

社会教育計画論 【昼】

キーワード /Keywords

学習主体、地域参加、社会教育実践、学習支援、社会教育計画。

生涯学習編成論【昼】

担当者名 /Instructor 山下 厚生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習時代といわれ、生涯にわたって学ぶことのできるようになった今日、生涯学習の意義や役割について具体的事例や学習集団による実践を示しながら授業を進めます。
併せて、新しい時代に対応した行政施策、運営のあり方、住民や学習者が求めている多様な要求・課題への取り組み等について考えながら、学校教育・社会教育・家庭教育との関連についても考察し、理解を深めます。

教科書 /Textbooks

とくに教科書は指定しません。毎回レジュメ・資料を配布します。また、授業の中で参考文献の紹介もその都度していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「社会教育・生涯学習ハンドブック」第8版 社会教育推進全国協議会編 エイデル研究所
- 「岐路にたつ大都市生涯学習」上野景三・恒吉紀寿編著 北樹出版
- 「多文化共生のまちづくり」青春学校事務局編 明石書店
- 「現代社会教育の課題と可能性」松田武雄著 九州大学出版会
- 「現代の貧困と社会教育」上田幸夫・辻浩編著 国土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、概論
 - 第 1 回 社会教育・生涯学習の歴史と現在(いま)・・・全国・福岡県・北九州市
- 2、課題と実践
 - 第 2 回 子どもを取り巻く問題・・・子育て・子育て・親育ち、「あそびの学校」の実践を通して
 - 第 3 回 学習支援の形態と実践・・・識字と交流の自主教室『青春学校』を通して
 - 第 4 回 生涯学習時代の学習権を考える・・・～学ぶことは生きること～
 - 第 5 回 生涯学習とボランティア、少子高齢社会とボランティア活動
 - 第 6 回 生涯学習現場の実際活動から・・・講座・クラブ・サークル活動、郷土の歴史の掘り起こしと伝承 など
 - 第 7 回 地域づくり・まちづくりと生涯学習・・・「地域自治」と新しいコミュニティ
 - 第 8 回 学校教育と社会教育の連携・融合・・・北九州市で展開されている学社連携・融合事業
 - 第 9 回 生涯学習の現代的課題・・・少子高齢化、人権、男女共同参画、健康問題、地球環境、貧困と社会的排除 など
 - 第 10 回 女性と社会教育・生涯学習・・・社会教育からみた近代女性史、公民館等が取り組む女性の学習活動
 - 第 11 回 「青年教育」「青年問題」の歴史と課題・・・青年教育の流れと、現代の若者の課題
- 3、論者とディスカッション
 - 第 12 回 NPO、指定管理者制度等と社会教育・生涯学習
 - 第 13 回 「教育」と「福祉」の連携(関係)について考察
 - 第 14 回 北九州市の生涯学習、今後の課題と展望
- 4、「生涯学習編成論」のまとめ・レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50%
まとめのレポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会教育・生涯学習の基本法令(憲法・教育基本法・社会教育法)を入手(コピー等)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するレジュメ・資料は、必ずファイルして毎回持参してください。

生涯学習編成論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1、時間厳守、遅刻は成績評価に反映させます。
- 2、授業中の私語は、他人の「学習権」を侵害することになります。他人の迷惑になる行為は絶対に慎んでください。
- 3、参加型の授業も取り入れていきたいと思います。積極的に発言・参画してください。

キーワード /Keywords

生涯学習 社会教育 公民館 市民センター 社会教育施設 地域課題 生活課題 自立 協働・共同
遊びと体験 学習権 学び 条件整備 高齢社会 生きがい 主権者 ボランティア 貧困

現代社会と社会教育 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 保夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会には、少子高齢化、経済格差の拡大、非正規雇用の増大、社会保障費の急増、グローバル化、教育、人権、環境、原子力発電、自然エネルギー、国際貢献をはじめとする、さまざまな課題が山積している。

これらの課題を克服し、暮らしやすく生甲斐のある社会を永続的に構築していくために、社会教育はどのように関わり、いかなる役割を担うべきかについて学習し、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『市民政治再考』(高島通敏著 岩波ブックレット ¥480)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- I. 現代社会の現状と課題 (1回～5回)
 - 1回 少子高齢化 (人口、少子化、高齢化～社会構造の変化)
 - 2回 格差社会 (経済・社会・教育～格差の拡大再生産)
 - 3回 社会保障費 (年金・生活保護・医療費の急増～財源問題)
 - 4回 男女共同参画 (ジェンダー・労働格差・子育て～役割分担)
 - 5回 国際貢献 (環境・原子力発電・自然エネルギー・国連・テロ対策・国防～平和憲法)
- II. 市民(個人)の主体性の確立 (6回～10回)
 - 6回 基本的人権
 - 7回 市民社会論
 - 8回 討議デモクラシー
 - 9回 市民政治
 - 10回 市民力の養成 (知識・判断力・実践力……自己実現派市民の育成)
- III. 社会教育の役割 (11回～15回)
 - 11回 公民館・市民センターの活動
 - 12回 図書館の役割
 - 13回 地域・コミュニティの活動
 - 14回 生涯学習の重要性
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% 小テスト・・・20% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常の新聞等をよく読んで、現代社会の問題点を認識すること。
授業にあたって、各回授業で配布するレジュメをよく読み込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 少子高齢化 人口減少 格差社会 社会保障 男女共同参画 原子力発電 自然エネルギー 国際貢献 市民の主体性 地域コミュニティ活動 生涯学習

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法等を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】 【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】 【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】 【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】 【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】 【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】 【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】 【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】 【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】 【学習活動】 【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】 【説明】 【指示】 【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】 【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】 【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案の作成
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 学校行事の指導計画案の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

博物館概論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでの日本の博物館の建設事情と経緯、種別・変遷を分析し、「博物館法」に定義された公立博物館を取り巻く諸環境を検証しながら、博物館の事業の在り方と課題を考える。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『博物館関係法令集』(日本博物館協会)
網野善教編『博物館学概論』(関西大学出版)
『博物館学講座』全10巻(雄山閣)
『月刊 博物館研究』(日本博物館協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「博物館法」の理念を理解する①<法律の意図>
- 2回 「博物館法」の理念を理解する②<社会教育>
- 3回 日本の博物館の種別と建設事情
- 4回 博物館と学芸員資格
- 5回 博物館の運営基準
- 6回 博物館が抱える諸問題、特に経費と利用者数
- 7回 博物館を取り巻く自然環境と地域性
- 8回 博物館内部の環境と施設の配置
- 9回 博物館の事業①<普及活動>
- 10回 博物館の事業②<資料の保存と活用>
- 11回 市民との連携、特にボランティア・友の会活動
- 12回 学校教育の支援
- 13回 博物館と関連の法律<文化財保護法・文書館法>
- 14回 博物館の将来を考える
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験90%、レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞などに取り上げられる博物館関連情報に気を配るとともに、1~2の博物館を観覧しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の要点は、聞き流さずに、必ずをメモすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学芸員資格を取得するという強い意志を持って授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

【授業のねらい】

我が国のスポーツ振興にとって、学校と企業が支えてきた20世紀に打って変わり、今世紀は地域へのシフトが期待されている。それは単に人口減少や経済的な状況によってのみではなく、スポーツの高度化・専門化に加え、スポーツが持つ文化的な価値の受け皿が地域社会に適合してきたともいえる。しかしながら、地域スポーツにはこれまで、マネジメントという概念がなかったために行行政色が強く、市民がスポーツに主体的に参加するという意識がなかった。本授業では、地域コミュニティにおけるスポーツのあり方を組織論も含めて学習する。

【主要な学習内容】

本授業では、スポーツ振興による「新しい公共」の形成を担う総合型地域スポーツクラブの現代的意味・必要性、及びその創設方法やクラブマネジメント方法などについて理解することが主な学習内容である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

P.F.ドラッカー著「非営利組織の経営 - 原理と実践 -」(ダイヤモンド社 1991)
川北秀人著「市民組織運営の基礎」(IIHOE 2002)
加藤哲夫「NPOのつくり方」(主婦の友社 2004)
細内信孝「コミュニティ・ビジネス」(中央大学出版部 1999)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：学習の目的，内容，方法（授業方法や成績評価方法など）
- 第2回 スポーツの概念とスポーツ振興の歴史【スポーツ基本法】【スポーツ振興基本計画】
- 第3回 地域スポーツ振興方策【行政セクターと市民セクター】
- 第4回 総合型地域スポーツクラブの役割と機能【総合型地域スポーツクラブ】
- 第5回 組織論とNPO【営利と非営利組織の違い】
- 第6回 地域スポーツの振興と社会資源【人材、施設、情報、予算】
- 第7回 社会におけるスポーツの役割【スポーツプロダクト】
- 第8回 スポーツ行政【スポーツ推進委員】【資格制度】
- 第9回 スポーツとコミュニケーション【コーチング】【ファシリテーション】【ワークショップ】
- 第10回 地域スポーツ支援組織の役割【インターメディアリー】
- 第11回 地域スポーツクラブ組織の設立①【規約と予算】
- 第12回 地域スポーツクラブ組織の設立②【事業計画①】
- 第13回 地域スポーツクラブ組織の設立③【事業計画②】
- 第14回 地域スポーツクラブ組織の設立④【設立総会】
- 第15回 地域スポーツクラブ組織設立のプレゼンテーション【プレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：20%、平素の学習状況・授業態度：50%、課題レポート：30%の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツを通じて、コミュニケーションを学ぶ授業です。人とのコミュニケーションを積極的にとって下さい。

キーワード /Keywords

生涯スポーツ スポーツ基本法 スポーツ振興基本計画 総合型地域スポーツクラブ スポーツNPO
新しい公共 まちづくり ワークショップ 行政セクターと市民セクター

スポーツ産業論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

【授業のねらい】

スポーツ産業は1984年のロサンゼルスオリンピック以降、大きな変化を見せている。アマチュアリズムよりも、産業として確立されつつあるのである。この流れは単にオリンピックといった国際的な大会やプロフェッショナルスポーツだけでなく、シティアマラソンやウォーキングイベントといった市民大会では、スポーツツーリズムといった観光資源の活用にも役割を担っていたり、また市民組織である地域スポーツにおいてもコミュニティビジネスとしてマネジメントの理論を活用することが求められている。

そこで本授業ではスポーツプロダクトという概念のもとに、スポーツ産業を説明する。

【主要な学習内容】

スポーツプロダクトという概念をまずは理解し、その上で、身近なスポーツシーンがどういったカテゴリーに分類できるかを整理する。そして、スポーツイベントの事業企画を立案できるよう、知識と実践を学習する。

教科書 /Textbooks

特になし

※必要な資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田宗彦・小笠原悦子著「スポーツマネジメント」(大修館書店, 2008)

川西正己著「事業計画書の作り方」(明日香出版社 2004)

細内信孝著「コミュニティ・ビジネス」(中央大学出版部 1999)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：学習の目的、内容、方法（授業方法や成績評価方法など）
- 第2回 スポーツとは何か？スポーツ産業とは何か？【スポーツの歴史】
- 第3回 スポーツ組織論【営利と非営利】【オリンピックムーブメント】
- 第4回 スポーツ産業の分類【スポーツプロダクト】
- 第5回 スポーツ組織の仕事【仕事と労働】
- 第6回 スポーツ産業のアプローチ【広報・営業・販売】
- 第7回 スポーツ事業計画書の作り方【事業計画】
- 第8回 チームビルディング【ワークショップとファシリテーション】
- 第9回 コミュニケーションとミーティング手法【企画会議】
- 第10回 プレゼンテーション手法【プロモーション】
- 第11回 事業計画①【理念と目的】
- 第12回 事業計画②【マネジメントの4Pと4C】
- 第13回 事業計画③【予算編成】
- 第14回 事業計画④【プロモーション計画】
- 第15回 スポーツ企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：20%、平素の学習状況・授業態度：50%、課題レポート：30%の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツを通じて産業・労働・経済など社会的なことを身につけてもらいます。授業については卒業後を見越して、社会人としての言動を心がけて下さい。

スポーツ産業論 【昼】

キーワード /Keywords

スポーツ産業 スポーツマネジメント スポーツプロダクト 営利と非営利
マーケティング 事業計画

健康科学【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 健康指標
- 4回 健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 休養・こころの健康づくりと健康
- 9回 睡眠
- 10回 タバコ・アルコールと健康
- 11回 ヘルスプロモーション
- 12回 産業保健(1) VDT作業
- 13回 産業保健(2) 腰痛予防
- 14回 産業保健(3) メンタルヘルス
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

スポーツ心理学【昼】

担当者名 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

さまざまなスポーツ活動について、心理学的な観点から理解を深めることを目的とする。スポーツ場面でのやる気、チームワーク、運動スキルの向上、メンタルトレーニング、スポーツと心の健康などについて説明する。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉原隆他編著『スポーツ心理学の世界』福村出版
調枝孝治監訳『運動学習とパフォーマンス』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ心理学とは
- 2回 スポーツのスキルの定義と分類
- 3回 スポーツスキルの獲得1【反応時間】【情報処理】
- 4回 スポーツスキルの獲得2【注意集中】【運動の記憶】
- 5回 合理的な練習【学習の過程】【練習の多様性】【集中練習・分散練習】
- 6回 メンタルトレーニング1【イメージトレーニング】【リラクゼーション】
- 7回 メンタルトレーニング2【集中力】【目標設定】
- 8回 スポーツと攻撃性【攻撃理論】【スポーツの攻撃性への影響】
- 9回 スポーツの楽しさ【楽しさの構造】【コミットメント】【バーンアウト】
- 10回 スポーツの動機づけ【原因帰属】【内発的動機づけ】【運動嫌い】
- 11回 スポーツにおける目標設定【目標の効果】【目標設定の理論と方法】【目標志向性】
- 12回 スポーツ集団とリーダーシップ【集団の機能】【チームワーク】【リーダーの役割】
- 13回 スポーツと性格【性格の分類】【スポーツの性格への影響】【競技者の心理的適性】
- 14回 スポーツとメンタルヘルス【心の健康と運動】【運動の心理的効果】【ストレス】
- 15回 まとめ(スポーツ心理学の応用)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学修状況 ... 30 % 授業中の課題 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

心理学関係の授業や、スポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 運動と肥満
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 バイオメカニクス
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と神経系
- 7回 運動と呼吸
- 8回 運動と血圧
- 9回 運動と骨粗鬆症
- 10回 運動と疲労
- 11回 疲労と休養
- 12回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 13回 運動への行動変容(1)
- 14回 運動への行動変容(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】、【運動の必要性】
 - 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動
 - 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
 - 5回 運動神経について【運動センス】
 - 6回 " 【遺伝】
 - 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
 - 8回 " 【運動軸】、【調整能力】
 - 9回 " 【思春期】、【成熟期】
 - 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】
 - 11回 筋線維の種類と特性
 - 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
 - 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
 - 14回 スポーツ指導【コーチング】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。
現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つかれば嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード
【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】
【アスリート】、【競技スポーツ】

トレーニング論【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「体力を向上させたい、パワーをつけたい」などという言葉をよく耳にする。しかし、体力という言葉には多くの要素が含まれ、病気に耐えることや冷静に行動することなども広い意味での体力である。
この講義は、特に「筋力・持久力・瞬発力・柔軟性・調整力」の5つの要素をバランスよくレベルを高めていくことを目的としている。今や健康を月謝を払って買う時代になり、ジムに通う学生も多く、健康への関心が高まっている中で、週に1回では十分とは言えない頻度ではあるが、各自にあわせた授業を楽しく行う。尚、遅刻は認めないので自信のない人は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 クールダウン
- 3回 形態測定・各種測定
- 4回 柔軟性・立位体前屈
- 5回 筋力・ベンチプレス
- 6回 パワー・垂直跳び
- 7回 スピード・10mダッシュ
- 8回 敏捷性・Tテスト
- 9回 体重とウォーキング1
- 10回 体重とウォーキング2
- 11回 体重とジョギング
- 12回 脈拍とランニング
- 13回 体幹のトレーニングとは
- 14回 トレーニングと栄養
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※主に実技を体育館2階、トレーニング場で行う。
トレーニングウェア、室内シューズ、ノート筆記用具は毎回持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学研究法 【昼】

担当者名 /Instructor 原口 雅浩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学が実験科学として確立するためには科学的方法論を獲得する必要がある。
本講義では人間のこころを科学的に研究するさまざまな心理学領域における方法論を学び、心理学的な知識について理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

高野 陽太郎・岡隆 (編) 『心理学研究法-心を見つめる科学のまなざし』 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西口利文・松浦 均 (編) 『心理学実験法・レポートの書き方』 ナカニシヤ出版
小塩真司・西口利文 (編) 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版
松浦 均・西口利文 (編) 『観察法・調査的面接法の進め方』 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 心理学研究法とはなにか。【心理学研究法】
- 2回 実験と観察 【実験】，【観察】
- 3回 実証の手続き 【実証】
- 4回 独立変数の操作 1 【独立変数】
- 5回 独立変数の操作 2
- 6回 従属変数の測定 1 【従属変数】
- 7回 剰余変数の統制 1 【剰余変数】
- 8回 剰余変数の統制 2
- 9回 その他の実験法 【準実験】
- 10回 統計【分散分析】
- 11回 調査法【抽出】
- 12回 観察法【時間見本法】，【事象見本法】
- 13回 検査法【信頼性】，【妥当性】
- 14回 面接法【調査的面接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の小課題：60%
学期末のレポート：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

心理学実験および心理統計を受講しておくことと理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学実験実習II 【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実験・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学の研究法である実験・調査・観察の具体的方法を学ぶ。
心理学の研究法である心理査定、面接法等の具体的方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(実験実習の進め方、認定心理士について)
- 2回 対人認知 - 性格特性リストから判断される他者の特性【t検定】
- 3回 自己意識 - 20 答法の分類【 χ^2 検定】
- 4回 同調行動 - 他者の判断が錯視図形の知覚に与える影響【相関係数】
- 5回 集団間行動 - 内集団バイアスの実験【t検定】【分散分析】
- 6回 質問紙法の実践(1) - 質問項目の選定【妥当性】
- 7回 質問紙法の実践(2) - データの集計と分析【信頼性】【 α 係数】
- 8回 質問紙法による心理査定。【YG性格検査】【STAI】
- 9回 投影法による心理査定。【P-Fスタディ】
- 10回 知能検査による心理査定。【知能指数】【知能偏差値】
- 11回 箱庭療法による心理面接。【ラポール】【クライエント】【カウンセラー】
- 12回 催眠法による心理面接。【後倒法】【変性意識状態】
- 13回 心理面接における行動観察。【ノンバーバル行動】【行動評定】
- 14回～15回 まとめ(実験実習を体験しての集団討論)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって「心理学実験実習I」並びに「心理学研究法」を受講しておくことが望ましいです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目標は、様々な環境問題について理解すること、またそれらの問題について経済学の視点から分析し、解決策を検討することです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・藪田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンス】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネッツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育、学校体系等
- 4回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8回 教育課程の意義と編成 (1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9回 教育課程の意義と編成 (2) 学校の教育課程編成
- 10回 学校における教育課程経営
- 11回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12回 教育課程の評価
- 13回 教育課程の開発
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と教育指導
- 4回 組織としての学校における教員
- 5回 教員の指導力と研修
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教育活動と著作権
- 8回 教育情報の取り扱い
- 9回 教育情報の発信
- 10回 子どもの健康と学校の安全
- 11回 中央教育行政と地方教育行政
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等も含む参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 二六一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人体の構造と生理についての理解、臨床医学の概要。医療と介護、福祉の連携。医事法制と保険医療などの理解

教科書 /Textbooks

人体の構造と機能及び疾病 黒田研二・住居広工 ミネルヴァ書房 ¥2,600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 医学のあゆみ・概説
- 2回 人体構造と機能(細胞・血液)
- 3回 人体構造と機能(呼吸器・消化器)
- 4回 人体構造と機能(消化器・物質代謝・泌尿器)
- 5回 人体構造と機能(循環器・支持器官)
- 6回 人体構造と機能(内分泌・支持器官)
- 7回 人体構造と機能(神経・感覚器)
- 8回 先天性疾病(ヒトの体ができるまで)
- 9回 感染症1
- 10回 感染症2
- 11回 神経疾患
- 12回 その他の疾患1
- 13回 その他の疾患2
- 14回 その他の疾患3
- 15回 まとめ

* 各授業において適当にビデオも取り入れる。

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 平素の授業態度(全欠席して試験のみは認めない)
2. 期末試験(持ち込みなし)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

適切な方法論にそった社会調査とその分析結果は、社会に生きる人々の全体的な意識や問題意識を把握することができる。本講義では、社会調査の基礎について学ぶことを目的とする。社会調査についての基礎的な概念の理解や、調査にあたって適切な方法論を選択するための問題設定について学びながら、実際の資料を用いての分析も試みる。

教科書 /Textbooks

大谷信介(共編),1999,『社会調査へのアプローチ：論理と方法』 ミネルヴァ書房
佐藤郁也,2002,『フィールドワークの技法』 新曜社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安田三郎,1960,『社会調査ハンドブック』 有斐閣
Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (共編),2006,『質的研究ハンドブック第1巻・第2巻』 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 社会調査とは何か
- 02回 量的調査—アンケート調査の実際 【アンケート調査】
- 03回 量的調査—アンケート調査の実際 【測定尺度】
- 04回 量的調査—アンケート調査の実際 【調査統計】
- 05回 度数分布【階級】【相対度数分布】
- 06回 分散と標準偏差【平均】【分散】
- 07回 分散と標準偏差【標準偏差】
- 08回 分散と標準偏差【信頼区間】
- 09回 分散と標準偏差のまとめ・小テスト
- 10回 相関関係【単相関係数の推定・検定】 t 検定【母平均の検定】【対応あり・なし】
- 11回 カイ2乗検定【帰無仮説】【有意水準】
- 12回 分散分析【分散分析表】【F分布】【主効果】【交互作用】
- 13回 質的調査—フィールドワークとは何か【フィールドワーク】
- 14回 フィールドワークの方法論【参与観察】【インタビュー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20% 小テスト・・・30% 期末試験・・・50%
5回以上の欠席があった場合は、課題提出及び期末試験の受験資格を失うものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

耳慣れない言葉が毎回出てきますので、都度習熟の上で次の講義に望んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程I2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程I3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程I4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

相談援助の理論と方法 1 【昼】

担当者名 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。

そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。

しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。

そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6 ケースワークの諸過程01
- 7 ケースワークの諸過程02
- 8 ケースワークの諸過程03
- 9 面接技法01
- 10 面接技法02
- 11 事例演習01
- 12 事例演習02
- 13 事例演習03
- 14 事例演習04
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【昼】

担当者名 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソーシャルグループワークは、ソーシャルワーカーが、グループメンバーの相互作用やプログラム活動を意図的に活用することによって、グループの発達ひいてはメンバー1人ひとりの成長や問題解決を援助する技術である。ソーシャルグループワークの歴史の変遷、原則、展開方法について概観すると共に、演習によって集団の力動を体験することによって、グループワークを展開するために必要となる実践的な援助技術の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません(適宜レジュメを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」 中央法規出版 2730円
- ・「グループワーク論」 ミネルヴァ書房 大塚達雄・硯川真旬・黒木保博 2310円
- ・「グループワーク」 勁草書房 大利一雄 2400円
- ・「グループワークの専門技術」 中央法規出版 黒木保博、横山穰、水野良也、岩間伸之 2625円
- ・「セルフヘルプ運動と新しいソーシャルワーク実践」 中央法規出版 岩田泰夫 3570円
- ・「セルフヘルプグループ」 星和書店 岡 知史 1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ソーシャルグループワークを学ぶために
- 2回 人と人が関わることの意義とかわりがもたらすもの
- 3回 人間の発達に果たす集団の役割
- 4回 「集団という場」で働く不思議な力
- 5回 リーダーシップの構造と機能【ソーシャルワーカーに求められるリーダーシップ】
- 6回 グループワークの歴史、定義、原則
- 7回 ソーシャルワーカーの自己覚知
- 8回 グループワークの構成要素
- 9回 グループワークの展開過程1 【準備期におけるワーカーの役割と技術】
- 10回 グループワークの展開過程2 【開始期におけるワーカーの役割と技術】
- 11回 グループワークの展開過程3 【作業期におけるワーカーの役割と技術】
- 12回 グループワークの展開過程4 【終結・移行期におけるワーカーの役割と技術】
- 13回 セルフヘルプグループのもつ力とその活用方法
- 14回 ソーシャルワーカーの自己活用のために 【ソーシャルワーカー自身のエンパワメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・30% 課題・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中央法規出版の「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」の集団援助技術の章をあらかじめ読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、様々なワークやディスカッションを用いて参加体験型で行う予定です。受講者の授業への積極的参加を希望します。

キーワード /Keywords

グループダイナミクス、シェアードリーダーシップ、相互援助システム、自己覚知、エンパワメント

相談援助の理論と方法3 【昼】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - (1) 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - (2) 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - (3) 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - (4) 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
2. 次の6つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。
 - (1) 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - (2) 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革を軸とする関連政策動向(大状況)の分析を行い、地域福祉実践の今日的立場・役割や課題についての認識を深める。
 - (3) 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - (4) コミュニティワーク(コミュニティ・オーガニゼーション)の全体像について理解を深める。
 - (5) 調査と組織化に係る技術と事例について学ぶ。
 - (6) オルグ、情報操作、傾聴といった地域福祉実践関連の技術について知る。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けてレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。
参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書等の抜粋資料を必要に応じて配布・紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(1)【地方自治】
 - 2回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(2)【社会関係資本】
 - 3回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(3)【自治基本条例】【地域分権】
 - 4回 地域福祉の援助技術に関する用語の整理(1)【人権と社会正義】
 - 5回 地域福祉の援助技術に関する用語の整理(2)【コミュニティ・ソーシャルワーク】
 - 6回 コミュニティ・ソーシャルワーク実践としての権利擁護【地域後見】
 - 7回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(1)【概念】【原理】【理論の問題点】
 - 8回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(2)【過程】
 - 9回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(3)【組織化に関する原則】【専門職の役割】
 - 10回 地域福祉の調査(1)【アクションリサーチの設計】
 - 11回 地域福祉の調査(2)【集計結果の分析手法】
 - 12回 社会運動(当事者運動)を進める手法【セルフヘルプグループ】
 - 13回 社会運動(社会保障闘争)の古典としての朝日訴訟【平和的生存権】
 - 14回 社会的孤立とこの課題への取組み(1)【無縁社会】【共助】
 - 15回 社会的孤立とこの課題への取組み(2)【地域包括ケアシステム】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジユメを事前を読むこと(全体像を把握することが重要)。
講義のメモを丹念にとること。
毎回、講義の始めに前回の講義のポイントについて説明するので、重点的な学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中の私語は禁止します。
講義の途中で構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

相談援助の理論と方法3 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育担当者からの一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、注文をつけてください。努力します。

キーワード /Keywords

- 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動、住民自治、地域分権、主体形成
- 援助技術の核心は・・・コミュニティ・ソーシャルワーク、ソーシャルアクション、エンパワーメント
- 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーキング、権利擁護

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編(2010)『地域福祉の理論と方法』中央法規
牧里毎治(2007)『改訂版地域福祉論-住民自治と地域ケア・サービスのシステム化』日本放送出版協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セトルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 行政と民間の協働2【ボランティア活動、民生委員、保護司、福祉ビジネス】
- 12回 ゲストスピーカー
- 13回 課題発表会
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題50% 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定する参考文献の講読。
課題に向けた作業。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

担当者名 渡辺 良司 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会保障や社会福祉の制度変革が進む中で、地域福祉の推進は、重要な課題となっている。
授業では、地域福祉の実践現場での動向をもとに、推進に関わる機関、団体、人材の状況を把握し、福祉コミュニティ創造に向けて、住民や専門職が実際にどのような役割を果たしているのかを理解する。また、今後どのような関わりが必要かを考察する。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法-地域福祉論』 中央法規出版、2009年3月、
2,730円(出版当時)
(必要に応じてプリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する』ミネルヴァ書房
『北九州市発21世紀の地域づくり』中央法規出版
『岐路にたつ大都市生涯学習』北樹出版
『地域を拓いた人たち』北九州市社会福祉協議会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 第 1 回 社会福祉協議会活動の実際【社会福祉協議会】【地域福祉活動】
 - 第 2 回 社会福祉協議会の果たす役割【社会福祉法】【社会福祉法人】
 - 第 3 回 地域福祉の推進方法【ネットワーク】【住民参加】【地域組織】
 - 第 4 回 地域福祉活動事例【福祉協力員】【ニーズ対応チーム】
 - 第 5 回 都市における孤立死防止対策【マンション】【管理組合】
 - 第 6 回 地域福祉の人材 1【ボランティア】【民生委員】【保護司】
 - 第 7 回 地域福祉の人材 2【住民参加型サービス】【NPO】【コーディネーター】
 - 第 8 回 ニーズ把握とコミュニティワーク【ニーズ】【コミュニティワーク】
 - 第 9 回 コミュニティソーシャルワークの方法【相談援助】【日常生活自立支援事業】
 - 第 10 回 サービスの質の確保【苦情解決】【第三者評価】
 - 第 11 回 当事者の組織化と自立生活支援【介護予防】【ホームレス支援】
 - 第 12 回 地域福祉計画の実際【地域福祉活動計画】【地域福祉計画】
 - 第 13 回 福祉教育の考え方と推進方法【社会福祉協力校】【体験学習】
 - 第 14 回 地域福祉の財源【共同基金】【地域福祉基金】
 - 第 15 回 事例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・平常点... 30%、 課題... 20%、 期末試験(レポート)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講にあたっては、自分の暮らしてきた町や北九州市の地域福祉の状況について、できるだけ情報収集して授業にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

難波利光・田中裕美子著『福祉財政と労働(仮題)』ふくろう出版 2012年3月 予価2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆつくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地の小さな運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換する時代となった。本科目では公的介護保険の動向も視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学習する。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第2版」 ISBN974-4-8058-3258-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営のベースである理念・使命を理解しながら、福祉ニーズとサービスの提供、そしてそれを支える具体的な福祉施設の経営を理解する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【昼】

担当者名
/Instructor

坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。

国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の小レポート(30点)+課題(20点)+期末試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者に対する支援と介護保険制度1では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、高齢者福祉の対象及び理念、制度・政策及び介護保険法成立のまで歴史的経緯の理解を目的とする。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2011年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、人口構成高齢化の現状
- 第2回 現代社会と人口減少、少子・高齢化問題
- 第3回 高齢者の生活と社会
- 第4回 高齢者福祉の歴史的経緯 1【福祉六法成立まで】
- 第5回 高齢者福祉の歴史的経緯 2【ノーマリゼーション】
- 第6回 高齢者福祉の歴史的経緯 3【ゴールドプラン】
- 第7回 介護保険制度の経緯【措置から契約へ】
- 第8回 高齢者の生活実態二一ズ
- 第9回 介護の概念と介護予防 1【理念】
- 第10回 介護の概念と介護予防 2【ケアマネジメント】
- 第11回 高齢者ケアの実際 1【認知症】
- 第12回 高齢者ケアの実際 2【終末期ケア】
- 第13回 高齢者福祉関係の法制度 1【老人福祉法】
- 第14回 高齢者福祉関係の法制度 2【医療関係の法制度】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% 授業態度 20% 授業への参加(レポートなど) 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 では、各論として介護保険制度及び関連する法制度、介護予防やケアマネジメントの理解をねらいとする。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2012年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険制度の仕組み 1 【対象】
- 第3回 介護保険制度の仕組み 2 【介護保険法】
- 第4回 介護保険制度の仕組み 3 【財政、動向と課題】
- 第5回 介護保険制度の運営 1 【組織及び団体の役割】
- 第6回 介護保険制度の運営 2 【組織及び団体の役割】
- 第7回 介護保険制度の運営 3 【組織及び団体の役割】
- 第8回 地域包括支援センターの役割 1 【介護予防、ケアマネジメント】
- 第9回 地域包括支援センターの役割 2 【地域支援事業】
- 第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法【介護予防プラン】
- 第11回 高齢者福祉制度と関連法 1 【老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律】
- 第12回 高齢者福祉制度と関連法 2 【高齢者虐待防止法、権利擁護】
- 第13回 高齢者の生活と地域福祉
- 第14回 高齢者福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% 授業態度 20% 課題の提出 (レポートなど) 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。

- ①障害者自立支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
- ②障害者の権利保障とは何かについての検討する。
- ③また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
- ④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない性と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久「障がいのある人の地域福祉政策と自立支援」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【就労支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【恋愛・性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【昼】

専門教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、主な児童福祉施設の活動については視聴覚機材などを用いることで、その実際が理解できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉法】【母子及び寡婦福祉法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害】【発達障害】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度【昼】

担当者名 /Instructor 藤敷 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 1) 「ネットカフェ難民」「派遣切り」「年越し派遣村」など、現代日本では「貧困」が大きな社会問題となっている。しかし「貧困」問題は、近年発生したものではなく、昔から日本社会に存在していた。「貧困」は見ようとしなければ「見えない」のである。
本講義ではまず、「貧困」とは何か。「貧困」の実態を見つめ、その原因を探ることから始める。
- 2) 日本において、人々を「貧困」から救うのは各低所得者に対する支援制度と生活保護法である。
特に生活保護法は社会保障、社会福祉の最後のセーフティネットである以上、福祉事務所のケースワーカーのみならず、福祉施設職員や、病院ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど社会福祉に携わるすべての職種が理解すべき重要な法である。
本講義では、「貧困」の実態を受けて、各低所得者に対する支援制度と生活保護法の仕組みを具体的なケースを通じて学ぶ。その際には、「生活保護運用の矛盾」も検討し、「貧困」問題を解決する責任はだれにあるのかを考えていく。

教科書 /Textbooks

低所得者に対する支援と生活保護制度 (久美出版) を予定していますが、初回の授業で正式に伝達します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉六法、格差・貧困と生活保護 (明石書店)、よくわかる公的扶助 (ミネルバ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 貧困・低所得者問題とは
- 2 見えない貧困を見る
- 3 現代貧困の諸相
- 4 福祉国家と公的扶助
- 5 公的扶助の歴史 (イギリス)
- 6 公的扶助の歴史 (日本)
- 7 生活保護制度の原理と種類
- 8 生活保護基準
- 9 保護の機関と費用、被保護者の権利義務、不服申し立てと行政訴訟
- 10 生活保護の実施体制
- 11 生活保護における援助活動
- 12 被保護者の動向と課題
- 13 低所得・貧困層への他の政策
- 14 自立支援プログラム他
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他詳しい日程は講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【昼】

担当者名
/Instructor

来田 時子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 大塚 文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

保健医療サービスの現状・変遷・課題を学習する。またこれらのサービスを社会資源として活用しながらクライアントの生活再構築を支援する、医療ソーシャルワーカーの役割を理解する。さらにクライアントの支援に欠かせない「患者の権利とその擁護」や「各専門職との連携」についても学ぶ。

これらの授業を通じて、保健医療サービスへの疑問や課題、医療ソーシャルワーカーのジレンマに言及することで、各々の学生が「クライアント支援はどうあるべきか」という視点で、保健医療サービスを理解できることを目指す。そのためにも、学生自らが「患者」または「患者の家族」という立場になったら、ということを想像しながらこの授業に臨んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に定めない。必要に応じて参考書や資料を提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央法規およびミネルバ書房などの社会福祉士養成のためのテキストを適宜参考にする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

医療ソーシャルワーカーの2名の講師が分担して担当する。

- 第1回 保健医療サービスとは
- 第2回 保健医療サービスの課題
- 第3回 保健医療サービスと社会福祉士
- 第4回 医療施設の機能・類型(1)
- 第5回 医療施設の機能・類型(2)
- 第6回 医療保険制度
- 第7回 介護保険制度
- 第8回 自立支援医療・公費負担医療
- 第9回 保健医療サービスの専門職
- 第10回 患者の権利とその擁護
- 第11回 医療ソーシャルワーカーの歴史・現状・展開
- 第12回 医療ソーシャルワーカーの役割(1)
- 第13回 医療ソーシャルワーカーの役割(2)
- 第14回 保健医療サービスにおける連携
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習した内容を通じて、自らが感じたこと、理解したことをまとめたレポートを提出する。提出時期やテーマは、レポートを求める際に指示する。また日常の授業への取り組みを重視する。小テストは必要に応じて行うことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方的な講義ではなく、意見に耳を傾け、また発言しあって授業をともに作っていきましょう。

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しないので、講義資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と関係諸法（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
日常生活自立支援事業（旧・地域福祉権利擁護事業）と社会福祉協議会（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割と権利擁護（社会福祉士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人①）（弁護士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人②）（社会福祉士）
- 第13回目
事例（日常生活自立支援事業①）（社協職員）
- 第14回目
事例（日常生活自立支援事業②）（社協職員）
- 第15回目
講義のまとめ（小賀）

権利擁護と成年後見制度 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート(30%)および筆記試験(70%)を実施する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 1 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し体系立てていくことができる能力を涵養する。
特に相談援助の対象となる人々への接近方法について、体験的に考察を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 相談援助の仕事に求められる生活問題認識 - その重層性と社会性について
- 3回 対象者理解の方法について
- 4回 自己覚知方法と心理検査
- 5回 基本的なコミュニケーション技術の習得
- 6回 基本的な面接技術の習得
- 7回 ソーシャルケースワークとカウンセリング
- 8回 カウンセリングマインドとは何か
- 9回 障害の状態像と社会的要因の関連
- 10回 ハンディキャップオリエンテーリングによる擬似的障害体験と障害理解への接近
- 11回 高齢者体験
- 12回 食事介助
- 13回 ブラインドウォークと車椅子での移動に関する援助
- 14回 実技的取り組みを理論化するための討議
- 15回 まとめの講義

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・態度 ... 30%、 レポート ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉に関する新聞やテレビなどでの報道にも留意して、現状を知るための努力をしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 社会的排除とは何か
- 2 虐待の個性性と社会性
- 3 児童の虐待事例
- 4 高齢者の虐待事例
- 5 障害者の虐待事例
- 6 家庭内暴力 (D.V) の事例
- 7 低所得者と生活の貧困
- 8 ホームレスと支援法制
- 9 民法の改正と成年後見制度の登場
- 10 権利擁護システム [成年後見制度]
- 11 権利擁護システム [地域福祉権利擁護]
- 12 権利擁護システム [苦情解決の仕組み]
- 13 権利擁護システムと相談援助事例① 社会福祉士と成年後見人
- 14 権利擁護システムと相談援助事例② 弁護士と社会福祉士の連携
- 15 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...50% レポート ... 30% 参加意欲・態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習での体験を次の授業で理論的に整理して参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 3 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

[授業の目的・ねらい]
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れた社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

[授業全体の内容の概要]
個別指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（面接の技法やロールプレイング等）を中心として取り組む。特に、多様な面接の技法や相談援助の方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
対象者の生活困難場面に遭遇する相談援助実習では、社会福祉士である相談支援者が行なう様々な援助を目の当たりにする。援助の技法や意味、有効性などを事前に知ることで、専門的知識と技術を統一的に把握することを課題とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 面接相談の技法とインテーク面接
- 2 アセスメント、プランニングと支援の実施
- 3 モニタリングと効果測定
- 4 終結とアフターケア
- 5 ワーカー・クライアント関係
- 6 専門職の倫理と倫理綱領
- 7 ゲーム理論
- 8 電話相談の技法
- 9 社会資源とは何か
- 10 社会資源の活用方法
- 11 ロールプレイ① アルコール依存症患者とMSW
- 12 ロールプレイ② 生活保護申請者と生活保護担当ケースワーカー
- 13 ロールプレイ③ 虐待加害者（母親）と児童相談所ケースワーカー
- 14 ロールプレイ④ 障害のある人とピアカウンセラー
- 15 援助技法に関する講評と授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容、参加意欲・態度、レポート提出を総合的に勘案する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前の学習に重点を置いて取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 4 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士の相談援助に係る知識や技術を実践的に習得する。児童虐待や家庭内暴力や危機的状況にある相談事例などを活用する。個人や家族への介入、集団や地域への介入方法など具体的な援助場面を想定した実技指導によって、総合的・包括的な援助方法を習得する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

保田井進他編著『福祉グループワークの理論と実際』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
グループ・プロジェクトの進め方と編成
- 2回 問題プロフィールにもとづく問題の明確化とアセスメント、介入の場、次元の選択【システムアプローチ】
- 3回 ①援助過程-インテークとケースの課題【生活モデル】
- 4回～12回 ②援助過程、実践の段階
個人への介入【ケースワーク】【ケースワークの原則】
ライフヒストリーと危機への対応【コンピテンス】【ナラティブアプローチ】【危機理論】
家族への介入【ファミリーケースワーク】【家族療法】【エコマップ】
集団への介入【グループワーク】【グループワークの原則】
当事者グループへの支援【セルフヘルプ】【エンパワメント】【アドボカシー】
地域への介入【コミュニティワーク】【ネットワーク】
- 13回～14回 ③援助過程、終結の段階【ソーシャルワポートネットワーク】
グループレポート提出と発表の準備
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、授業への参加度50%、提出課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

限定された時間内でのグループ学習になるので、授業中にまとめられない場合は、グループメンバーと自主学習において補っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 5 【昼】

担当者名 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術について、専門的援助技術として概念化し、理論化して体系だてていくことができる能力を涵養する。相談援助実習を通じた個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように指導する。

教科書 /Textbooks

特になし
レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
グループ・プロジェクトの進め方と編成
- 2回 問題プロフィールにもとづく問題の明確化とアセスメント、介入の場、次元の選択【システムアプローチ】
- 3回 ①援助過程-インテークとケースの課題【生活モデル】
- 4回～12回 ②援助過程、実践の段階
個人への介入【ケースワーク】【ケースワークの原則】
ライフヒストリーと危機への対応【コンピテンス】【ナラティブアプローチ】【危機理論】
家族への介入【ファミリーケースワーク】【家族療法】【エコマップ】
集団への介入【グループワーク】【グループワークの原則】
当事者グループへの支援【セルフヘルプ】【エンパワメント】【アドボカシー】
地域への介入【コミュニティワーク】【ネットワーク】
- 13回～14回 ③援助過程、終結の段階【ソーシャルワポートネットワーク】
グループレポート提出と発表の準備
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、授業への参加度50%、提出課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

限定された時間内でのグループ学習になるので、授業中にまとめられない場合は、グループメンバーと自主学習において補っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科で学んだことが実践の場における実践技法や援助業務として統合されていくかを課題とし、①事前学習や見学実習を通して、社会福祉士として仕事をやるうえで必要な専門知識、専門技術及び関連知識の内容の理解を深める。②専門知識や専門技術を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する「相談援助業務」に必要な資質・能力・技術を習得できるようにする。③職業倫理を身につけ、専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。④具体的な体験や援助活動を専門的技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を函養する。⑤関連分野の専門職との連携の在り方及び具体的内容を理解する。

教科書 /Textbooks

「社会福祉実習の手引き」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、2回 オリエンテーション
 - 3、4回 実習前の準備・計画
 - 5、6回 実習対象となる社会福祉施設に関する学習
 - 7、8回 実習(学習)課題の設定
 - 9、10回 見学実習(1日・8時間)
 - 11、12回 見学実習(1日・8時間)
 - 13、14回 日誌の綴り方 - 実習(学習)課題に沿った記述方法、視点①
 - 15、16回 日誌の綴り方 - 実習(学習)課題に沿った記述方法、視点②
 - 17、18回 調書の作成①
 - 19、20回 調書の作成②
 - 21、22回 実習計画の作成①
 - 23、24回 実習計画の作成②
 - 25、26回 見学実習報告
 - 27、28回 実習課題の明確化
 - 29、30回 実習書類整備、確認
- および社会福祉施設・機関での現場実習

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 現場実習 ... 60% 参加意欲・態度 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「社会福祉実習の手引き」の精読と理解

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 2 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉援助技術現場実習 2 は、社会福祉行政機関や社会福祉施設等で行う実習である。
実習の目的は社会福祉行政機関や社会福祉施設における全般的な業務を理解することである。
配属実習の振り返りを通して、相談援助に関する知識と技術について習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理など、総合的に対応できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会 『2012 社会福祉士国家試験問題過去問、専門科目編』中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士関連科目のテキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション、実習施設の種類に応じたグループ分け
- 2 回 社会福祉士の活動と社会福祉士の活動分野
- 3 回 社会福祉士の倫理綱領
- 4 回 社会福祉士国家試験問題
- 5 回～ 11 回 実習の振り返りと発表
- 12 回 実習の評価と全体の総括
- 13 回～ 14 回 社会福祉士の仕事と専門性 (外部講師)
- 15 回 社会福祉士国家試験申し込み手続き、受験対策等

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% レポート... 20% 発表... 20% 実習日誌及び配属実習の評価... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

福祉専門職としての資質や実習の心構えを確認するという意味で、出席状況や授業中の態度を重視します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士

相談援助実習【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 6単位 学期 集中 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

[相談援助実習の目的・ねらい]

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[相談援助実習全体の内容の概要]

①利用者、援助者、関係者間の基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係およびに援助関係を学ぶ。また、②権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価方法を会得する。

[相談援助修了時の達成課題(到達目標)]

社会福祉現場での実習は、理論と思考を現実的に吟味できる唯一の機会である。社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解。組織の一員としての役割と責任への理解。そして何よりも対象者への責務を実感として肌身に感じ、これまでの学習の到達度と、今後の学習課題を確認することを課題とする。

教科書 /Textbooks

「実習の手引き」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

[実習における学習視点と目標]

- 1 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2 利用者理解と福祉的ニーズの把握及び支援計画の作成
- 3 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成
- 4 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価
- 5 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践
- 6 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践
- 8 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
- 9 問題解決や疾病・障害の受容などによって利用者が変わりうるという発達の理解
- 10 記録や書類の作成・整理などの土台の上に素晴らしい相談援助が築かれるという認識の確立

成績評価の方法 /Assessment Method

実習意欲・態度、遅刻・欠席の有無、日誌の記述内容、実習評価、その他提出物の状況などを総合して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉施設・機関や社会福祉サービスの利用者に関する情報を集めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。
児童福祉の理念としての子どもの権利条約について学ぶ。

教科書 /Textbooks

- 「子どもたちは今」北九州版・子どもの人権レポート編集委員会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 子どものニーズと社会システム 【ヒューマンニーズの階層】
- 3回 子どもの成長・発達 【発達課題】 【発達観】 【ソーシャルスキル】
- 4回 子どもを理解する視点
- 5回 関係性に生きる存在、主体的存在としての子どもの事例
- 6回 歴史的、社会的存在としての子どもの事例
- 7回 子どもの歴史 【児童観の変遷】 【近代家族と子育て】 【母性神話】
- 8回 児童福祉の理念と子どもの権利 【能動的権利】 【受動的権利】 【子どもの意見表明権】
- 9回 子どもの権利条約 【子どもオンブズパーソン】 【地方自治体子どもの権利条例】
- 10回 子どもの権利をめぐる状況
- 11回 子どもの権利をめぐる状況
- 12回 子どもの権利をめぐる状況と課題 【国連子どもの権利委員会最終所見】
- 13回 児童虐待 【マルトリートメント】 【親権】 【パターナリズム】
- 14回 児童虐待防止対策 【児童虐待防止法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10%、提出課題30%、期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布するレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。
单元ごとに配布する復習のプリントで自己学習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士関連科目「児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」と合わせて学習すると総合的理解が得られる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障害をもつ人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の注意と講義の総論
- 2回 障害概念と障害者①【ICF】
- 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害】
- 4回 障害概念と障害者③【精神障害、内部障害等】
- 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション、インテグレーション】
- 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
- 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
- 8回 障害者福祉の法制度【障害者基本法と障害者計画】
- 9回 障がいのある人と虐待①【虐待調査から見る現状】
- 10回 障がいのある人と虐待②【虐待と親密圏】
- 11回 障害者福祉のサービス体系① - 児童福祉法、身体障害者福祉法
- 12回 障害者福祉のサービス体系② - 知的障害者福祉法、精神保健福祉法
- 13回 北欧の障害者の地域生活支援から学ぶ①
- 14回 北欧の障害者の地域生活支援から学ぶ②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず最初に、社会心理学の古典的文献を含めて基礎的なくつかの論文を講読する。それらの演習を進める中で、理論研究と現実社会における様々な問題との関連を理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの決定
- 2回 先行研究を読む (日本語)
- 3回 先行研究を読む (日本語)
- 4回 先行研究を読む (日本語)
- 5回 先行研究を読む (日本語)
- 6回 先行研究を読む (英語)
- 7回 先行研究を読む (英語)
- 8回 先行研究を読む (英語)
- 9回 先行研究を読む (英語)
- 10回 現実社会の問題との関連を議論
- 11回 現実社会の問題との関連を議論
- 12回 資料収集と経過発表
- 13回 資料収集と経過発表
- 14回 データ分析の練習
- 15回 データ分析の練習

合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておく和良好的。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主として青年期の心理的特徴や人間関係に関する心理学的研究の文献を講読しながら臨床心理学の理論や知識に関する理解を深めるとともに、心理学的研究の進め方を学ぶ。その後、小グループに分かれてグループ研究（研究テーマの設定、先行研究の購読、研究計画の立案）を進める。また、本演習に所属する学生は、臨床実践感覚を養うために学内外での臨床活動に参加することが求められる。なお、2学期開始直前の4年生と合同のゼミ合宿で、グループ研究のデザイン検討会を行う予定である。

教科書 /Textbooks

心理学研究、心理臨床学研究、青年心理学研究、教育心理学研究、発達心理学研究等の学会誌から各自が興味を持った論文を選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（演習の進め方、発表の順番決め）
- 2回～8回 文献購読1（毎回一人が論文をまとめてレジュメを作成・発表）
- 9回～14回 文研講読2（各グループで論文をまとめてレジュメを作成・発表）
- 15回 グループ研究検討会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は自分が選んだ論文に関してB4サイズ2枚程度でレジュメを作成し発表する。
それ以外の者も事前に論文を読んで疑問点や批判点を明確にし、「論文メモ」を作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、相手（人や機械）の意図をいかに「わかる」ということである。この演習では、「わかる」という問題について、様々な側面からアプローチする。それを心理学的にアプローチし、「わかりやすい」ようにするには、どうしたらよいかを考える。日本語の文献講読及び実験または調査を行う。文献は教員が与える。実験または調査では、計画、刺激・装置の準備、調査用紙の準備、実験や調査の実施、結果の整理、レポート作成まですべてを自分達で考えて行う。講読する文献と実験・調査の内容は年によって異なる。

教科書 /Textbooks

使わない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松尾太加志『コミュニケーションの心理学』ナカニシヤ出版
- 利島保ほか『心理学のための実験マニュアル』北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 文献発表のやり方の説明
- 3回 受講生による文献の発表
- 4回 受講生による文献の発表
- 5回 受講生による文献の発表
- 6回 受講生による文献の発表
- 7回 受講生による文献の発表
- 8回 受講生による文献の発表
- 9回 受講生による文献の発表
- 10回 ゼミ実験または調査の内容の検討
- 11回 ゼミ実験または調査の内容の検討
- 12回 ゼミ実験または調査の準備
- 13回 ゼミ実験または調査の準備
- 14回 ゼミ実験または調査の準備
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...60% 課題...40%
(平素の演習での出席・発表・討論及び課題の内容を総合的に判断する。この割合はおよその目安)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、「わかりにくい」という問題意識を持っていることが大切。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習（人間環境学演習）では、主に、環境とその変動、および人間との関わりについて学び、研究します。環境とその変動についての研究は「環境変遷学」、環境（変動）と文明との関わりは「環境考古学」あるいは「環境歴史学」とよばれます。

環境は、いつも同じではなく変動しています。その変動の中で人類の祖先は誕生し進化して、文明を持つに至りました。そのため、文明は発達過程において環境（変動）の影響を受けていると考えられています。人間環境学演習は、過去において、環境がどのように変化してきたか（環境変遷）、それが人間にどのように影響を与えたかを深く学び、研究することを目的としています。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。使用する文献等は授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「気候が文明を変える」(安田喜憲著 岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生がテーマ設定して調査・研究し、その内容をゼミで発表して討論します。

- 1回 研究テーマの設定 1 上で述べたこの演習のテーマの中からトピックを探索する。
- 2回 文献検索方法の学習
- 3回 研究テーマの設定 2 テーマを決める。
- 4回 先行研究の学習 1 文献を読んで討論する
- 5回 先行研究の学習 2
- 6回 先行研究の学習 3
- 7回 先行研究の学習 4
- 8回 先行研究の学習 5
- 9回 先行研究の学習 6
- 10回 研究テーマの設定 3 研究テーマを再考し、より具体的にする。
- 11回 研究テーマの設定 4
- 12回 先行研究の学習 7 具体化したテーマについてより深く討論する
- 13回 先行研究の学習 8
- 14回 先行研究の学習 9
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% 発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表にあたっては、十分な学習と効率的なプレゼンテーションの準備が必要です。また、討論に積極的に参加してください。自由で活発な討論が演習を充実させます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行うが、学期内に何度か学外にて社会調査を行い、データの処理、報告書の作成等も課す。

教科書 /Textbooks
参加学生と話し合った後に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
参加学生と話し合った後に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回～15回 論文を読み(又は社会調査を行い)参加学生がレジユメにて報告
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method
授業態度 20% レジユメ 50% 発表 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
文化社会学の領域に興味がありかつ知識があることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験とおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人がかわいそうでしょう?ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんをデビューさせます。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

児童福祉施設等の見学を行う。座学では、学べない体験学習によって、児童福祉問題についての認識を深めることをねらいとする。事前に児童福祉施設の目的、機能・役割などについて学習をした上で、実践現場を訪問する。福祉従事者や利用者との意見交流を図る。事前学習、施設への連絡、質問事項の作成などは、学生が分担によって行う。施設等の訪問後は、各自のレポートをもとに討議をおこなう。訪問施設については、受講生の希望をもとに決定する。遠隔地の施設見学の場合においてはゼミ合宿を行うこともある。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 施設見学の計画
- 3回～12回 事前学習
施設見学
振り返り
- 児童養護施設、養育里親、児童自立支援施設、母子生活支援施設、情緒障害児短期治療施設、児童家庭支援センター、フリースクールなどから2～3箇所ぐらい訪問
- 13回～15回 振り返りとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題 40...% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生が主体に施設見学等の計画をたて、施設への依頼や日程調整などを行う。
見学希望施設について考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉の援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観と科学的人間観を身につけていくことを授業のねらいとする。
3年1学期は社会福祉の基本的な文献を学習する。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献学習
- 3回 文献学習
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 文献学習
- 14回 文献学習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず無遅刻で出席し、担当部分のレポートをとること

履修上の注意 /Remarks

夏季休暇中(9月下旬)に合宿を行い、卒業論文に接近するための文献・資料について討議する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育の内外の環境の中で、他者及び社会的諸関係との交流等によって、人間は、どのようにして、その人間性と人格を形成していくのかと
いうことを探求する。「基礎研究」「課題研究」「自由研究」の形態で実施する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 第1回 人間教育についての「基礎研究」【人間性】
- 第2回 人間教育についての「基礎研究」【人間形成】
- 第3回 人間教育についての「基礎研究」【論理】
- 第4回 人間教育についての「基礎研究」【感情】
- 第5回 人間教育についての「基礎研究」【身体】
- 第6回 人間教育についての「課題研究」【経験】
- 第7回 人間教育についての「課題研究」【社会】
- 第8回 人間教育についての「課題研究」【文化】
- 第9回 人間教育についての「課題研究」【交流】
- 第10回 人間教育についての「課題研究」【対話】
- 第11回 人間教育についての「自由研究」【資料収集】
- 第12回 人間教育についての「自由研究」【研究方法】
- 第13回 人間教育についての「自由研究」【集団討議】
- 第14回 人間教育についての「自由研究」【シェアリング】
- 第15回 人間教育についての「自由研究」【研究発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

臨床教育学に関する諸問題について、参加者の興味・関心に合わせてテキストを選んで考えていきたい。主要なテーマとしては、DV（ドメスティックバイオレンス）、少年非行・少年犯罪、児童虐待、不登校などの問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題について、具体的な事例も踏まえて考察していきたい。
また、参加者の希望があれば、認知行動療法、対人関係療法などの心理療法の理論や技法についても実践的に学習する予定である。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の興味・関心に合わせて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 カウンセリングの基礎的な実習 その1
- 3回 カウンセリングの基礎的な実習 その2
- 4回 カウンセリングの基礎的な実習 その3
- 5回 文献購読 その1
- 6回 文献購読 その2
- 7回 文献購読 その3
- 8回 文献購読 その4
- 9回 文献購読 その5
- 10回 文献購読 その6
- 11回 文献購読 その7
- 12回 ビデオを使つての討論 その1
- 13回 ビデオを使つての討論 その2
- 14回 ビデオを使つての討論 その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで授業に参加し、自分の意見を言えるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

第1回～第5回	「自分づくりの危機」の時代といわれる今日の課題について教育的検討を行うを解明し、克服していこうとする実践について理解を深めていきます。	い、そのメカニズム
第6回～第10回	子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う	う。
第11回～第15回	生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明	する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育や子ども・若者に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション
 - 2回 テーマ学習(1)【子ども・若者】
 - 3回 文献検討(1)【子ども・若者】
 - 4回 文献検討(2)【子ども・若者と教育】
 - 5回 文献検討(3)【教育問題】
 - 6回 文献検討(4)【学校問題】
 - 7回 デイベート(1)【子ども・若者問題】
 - 8回 フィールドワーク(1)【事前学習】
 - 9回 フィールドワーク(2)【視点をもった観察】
 - 10回 フィールドワーク(3)【観察したデータの分析・考察】
 - 11回 テーマ学習(2)【教育に関する現代的テーマ】
 - 12回 面接調査(1)【質問事項の精査】
 - 13回 面接調査(2)【聴き取りの手法】
 - 14回 デイベート(2)【教育に関する時事的テーマ】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生の皆さん自身が積極的に関わることで更に豊かな学びとなります。
共に学びあいましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今やスポーツはプレイする人だけのものではなく、大会やイベントを支える側、観る側などあらゆる人たちのものである。様々な角度からスポーツを捉え、スポーツに関わる諸問題や影響などについて討論し、より理解を深める。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域にあわせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、連絡網の作成
- 2回 遊び・体育・スポーツ・競技などについて検討する①
- 3回 遊び・体育・スポーツ・競技などについて検討する②
- 4回 文献購読①
- 5回 文献購読②
- 6回 4年生のプロポーザル発表へ参加
- 7回 文献購読③
- 8回 文献購読④
- 9回 グループ研究のテーマと研究内容①
- 10回 グループ研究のテーマと研究内容②
- 11回 グループ研究のテーマと研究内容③
- 12回 グループ研究発表①
- 13回 グループ研究発表②
- 14回 グループ研究発表③
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からスポーツや身体活動に関心を持ち、新聞・情報誌などに載っている興味のある記事・写真などを切りとったりコピーしたりしておくことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ受講生の興味・関心を加味しながら、進めていく予定である。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康に関する諸問題について(1)
- 3回 健康に関する諸問題について(2)
- 4回 健康に関する諸問題について(3)
- 5回 スポーツ実施者の直面する諸問題について(1)
- 6回 スポーツ実施者の直面する諸問題について(2)
- 7回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(1)
- 8回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(2)
- 9回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(3)
- 10回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(4)
- 11回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(5)
- 12回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(6)
- 13回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(7)
- 14回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。発表者以外も疑問点などをしっかり質問をする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 研究分野と研究史
- 2回 文献講読の分担発表と討論
- 3回 文献講読の分担発表と討論
- 4回 文献講読の分担発表と討論
- 5回 文献講読の分担発表と討論
- 6回 文献講読の分担発表と討論
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 論文講読の分担発表と討論
- 9回 論文講読の分担発表と討論
- 10回 論文講読の分担発表と討論
- 11回 論文講読の分担発表と討論
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する文献購読を通して、コミュニケーション能力や社会性、母子関係や仲間づくりなど、ひとの発達現象について心理学の視点から理解を深める。同時に、研究論文の書き方、データの収集の方法、統計的分析についても学習を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献講読を中心に行う。文献は発達心理学に関連するものを受講者自身が探し発表してもらう。

また、文献講読を踏まえ、グループ研究のテーマ検討を行う。

第1回 オリエンテーション

○文献を探す際のキーワード例

母子関係、愛着、共同注意、心の理論、言語発達、育児ストレス、発達障害(自閉性障害、学習障害、精神遅滞、ADHD...)、発達援助、など

第2回 文献講読1

第3回 文献講読2

第4回 文献講読3

第5回 文献講読4

第6回 文献講読5

第7回 文献講読6

第8回 文献講読7

第9回 文献講読8

第10回 文献講読9

第11回 文献講読10

第12回 文献講読11

第13回 グループ研究1(研究テーマの検討)

第14回 グループ研究2(研究テーマの検討)

第15回 グループ研究3(研究テーマの検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各グループで社会心理学的問題の一つずつとりあげ、仮説構成、実験や調査の計画、データ分析、結果と考察の発表、討議を行う予定である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ分けと研究テーマの決定
- 2回 先行研究を読む(日本語)
- 3回 先行研究を読む(日本語)
- 4回 先行研究を読む(日本語)
- 5回 先行研究を読む(英語)
- 6回 先行研究を読む(英語)
- 7回 先行研究を読む(英語)
- 8回 先行研究を読む(英語)
- 9回 実験・調査の計画・実施
- 10回 実験・調査の計画・実施
- 11回 実験・調査の計画・実施
- 12回 データ分析
- 13回 データ分析
- 14回 データ分析
- 15回 発表

合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておく和良好的。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前半は、臨床心理学の実践について理解を深めるために、専門書購読を行う。後半は、1学期からのグループ研究を進めていく。具体的には、収集されたデータの分析、研究発表資料の作成・発表を行い、心理学研究の進め方を体験的に学び、卒業論文作成のための基礎力をつける。なお、グループ研究の成果は、4年生の卒業論文と合同で1月末頃に開催される発表会の場で公開される。また、本演習に所属する学生は、臨床実践感覚を養うために学内外での臨床活動に参加することが求められる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『カウンセリングの実践問題』誠信書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (演習の進め方、発表の順番決め)
- 2回 ~ 10回 専門書購読
- 11回 ~ 14回 グループ研究の検討
- 15回 グループ研究発表 (卒業論文発表との合同による)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表・討論への参加度 ... 30% グループ研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門書購読の際には、発表者はレジユメを作成すること。
また、それ以外の者も事前に読んでおいて疑問点や批判点を明確にし、「輪読メモ」を作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、相手（人や機械）の意図をいかに「わかる」ということである。この演習では、「わかる」という問題について、様々な側面からアプローチする。それを心理学的にアプローチし、「わかりやすい」ようにするには、どうしたらよいかを考える。英語の文献講読と1学期に行った実験・調査のデータ処理及び発表を行う。さらに、卒論のテーマについての予備的検討を行う。講読する文献と実験・調査の内容は年によって異なる。

教科書 /Textbooks

使わない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松尾太加志『コミュニケーションの心理学』ナカニシヤ出版
- 利島保ほか『心理学のための実験マニュアル』北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 受講生による英語文献の発表
- 3回 受講生による英語文献の発表
- 4回 受講生による英語文献の発表
- 5回 受講生による英語文献の発表
- 6回 受講生による英語文献の発表
- 7回 卒論中間発表会への参加（4年生と合同）
- 8回 受講生による英語文献の発表
- 9回 受講生による英語文献の発表
- 10回 ゼミ実験または調査のデータ分析
- 11回 ゼミ実験または調査のデータ分析
- 12回 ゼミ実験または調査の考察の検討
- 13回 ゼミ実験または調査の考察の検討
- 14回 ゼミ実験または調査の結果発表
- 15回 まとめと卒論テーマについての決め方の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...60% 課題...40%
(平素の演習での出席・発表・討論及び課題の内容を総合的に判断する。この割合はおよその目安)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、「わかりにくい」という問題意識を持っていることが大切。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学の学習の中で、最もおもしろくクリエイティブなものは、「研究」です。この演習では、演習A - 1に引き続いて人間環境学にかかわる研究テーマを探す方法を学び、研究のおもしろさを知る糸口をつかむことを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献を探す技術を身につけることも演習の目的の一つです。文献の検索法などを演習の中で指導するので、受講生は必要な文献を自ら探せるようになってほしいと思います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生が選んだテーマについて、自らが探した文献などを基に理解を深めます。さらにそのテーマに関連する身近なフィールドの調査・観察などによって得られたデータとその考察を発表し討論します。演習A - 1より深く、オリジナリティーの高い発表が期待されます。

- 1回 研究テーマの設定1 テーマを考える。
- 2回 研究テーマの設定2 テーマを決める。
- 3回 先行研究の研究1 論文を読んで討論する。
- 4回 先行研究の研究2
- 5回 先行研究の研究3
- 6回 先行研究の研究4
- 7回 フィールドの設定1 テーマに合致した身近なフィールドを探す
- 8回 フィールドの設定2 フィールドの決定
- 9回 フィールドの設定3 フィールドワークの方法と目的を考える
- 10回 フィールドワーク1 フィールドワークの結果の発表討論
- 11回 フィールドワーク2
- 12回 フィールドワーク3
- 13回 考察1 フィールドワークの成果を考察する
- 14回 考察2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマを見つけるためには、その領域についての深い知識とともに、何が問題であるのか、また、解決すべき点は何なのかを自ら見いだす力が必要です。そのような力を身につけるためには、日常的に色々な事象に目を向け、それらを自分の頭で考えて、疑問点を整理してみるとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行うが、学期内に何度か学外にて社会調査を行い、データの処理、報告書の作成等も課す。

教科書 /Textbooks

学生と話し合った後に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生と話し合った後に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 論文を読み(又は社会調査を行い)参加学生がレジユメにて報告
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% レジユメ50% 発表30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化社会学の領域に興味がありかつ知識があることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人がかわいそうでしょう?ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんをデビューさせます。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学問のプロセスとしての論文の研究方法や書き方を学ぶことで、物事を科学的に捉えたり、筋道たてて考えるプロセスや思考や物事を深く追求する姿勢を身につけてほしい。グループ討議や発表、論文作成などを通じて、一般論としての社会福祉理論ではなく、社会福祉に対して、自分なりの考えや理解がもてることを期待している。

教科書 /Textbooks

○河嶋静代『ベビーホテルと児童家庭問題』京都・法政出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生たちが卒業論文を書くために必要な基礎知識、論文作成の方法の学習(テーマの選択、研究方法、論文の構成、文献の入手の方法、関連文献、概念やキーワードの整理、出典の表示など)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文の書き方 (ビデオ)
- 3回～5回 テーマの選択、文献・資料などについての検討と収集
- 6回～13回 文献の輪読、発表
- 14回～15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題 40...% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常的に見る福祉問題等への関心を持ち、新聞記事など資料収集をしながら、卒業論文のテーマの選定に備えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉の援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観および科学的人間観と、援助の際に必要な発達観を身につけていくことを授業のねらいとする。

3年2学期より社会福祉の援助のあり方を中心として、現在の社会福祉問題を研究する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献学習
- 3回 文献学習
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 個別研究テーマの設定
- 14回 個別研究テーマの設定
- 15回 個別研究テーマの設定

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉の諸問題に関して総論的に学習を進め、4年生からの卒業研究に関するテーマ設定の準備を行う。2学期が終了する春休みには合宿を行い、卒業論文のためのテーマ設定を行う。社会福祉の現場などにもでかけ、フィールドワークをおこないたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育の内外の環境の中で、他者及び社会的諸関係との交流等によって、人間は、どのようにして、その人間性と人格を形成していくのかということを検討する。「基礎研究」「課題研究」「自由研究」の形態で実施する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 第1回 人間教育についての「基礎研究」【人間性】
- 第2回 人間教育についての「基礎研究」【人間形成】
- 第3回 人間教育についての「基礎研究」【論理】
- 第4回 人間教育についての「基礎研究」【感情】
- 第5回 人間教育についての「基礎研究」【身体】
- 第6回 人間教育についての「課題研究」【経験】
- 第7回 人間教育についての「課題研究」【社会】
- 第8回 人間教育についての「課題研究」【文化】
- 第9回 人間教育についての「課題研究」【交流】
- 第10回 人間教育についての「課題研究」【対話】
- 第11回 人間教育についての「自由研究」【資料収集】
- 第12回 人間教育についての「自由研究」【研究方法】
- 第13回 人間教育についての「自由研究」【集団討議】
- 第14回 人間教育についての「自由研究」【シェアリング】
- 第15回 人間教育についての「自由研究」【研究発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

臨床教育学に関する諸問題について、参加者の興味・関心に合わせてテキストを選んで考えていきたい。
 現段階では発達障害の問題、学校ソーシャルワークの問題についてもできれば取り上げていきたいと考えている。
 また、参加者の希望を踏まえて、心理療法に関する学習も引き続き進めていきたい。
 また、後半では来年度の卒業論文執筆に向けての論文構想の発表と指導を行う予定である。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の興味・関心に合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読 その1
- 3回 文献購読 その2
- 4回 文献購読 その3
- 5回 文献購読 その4
- 6回 文献購読 その5
- 7回 文献購読 その6
- 8回 文献購読 その7
- 9回 卒業論文構想発表 1
- 10回 卒業論文構想発表 2
- 11回 卒業論文構想発表 3
- 12回 卒業論文構想発表 4
- 13回 卒業論文構想発表 5
- 14回 卒業論文構想発表 6
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで参加し、自分の意見を言えるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を捉えた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

第1回～第5回 地域における教育の構造や、その連関について理解を深めます。

第6回～第10回 NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について

検討を行います。

第11回～第15回 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生
・制度と、その連携・ネットワークについて検討します。

生涯学習関連の諸活動

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習A-1での成果や課題をふまえ、教育や子ども・青年に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
 - 2回 テーマ学習(1)【子ども・若者】
 - 3回 文献検討(1)【子ども・若者】
 - 4回 文献検討(2)【子ども・若者と教育】
 - 5回 フィールドワーク(1)【事前学習】
 - 6回 フィールドワーク(2)【視点をしぼった観察】
 - 7回 フィールドワーク(3)【観察したデータの分析・考察】
 - 8回 卒論中間発表【研究目的・方法の学習】
 - 9回 文献検討(3)【教育問題(諸外国)】
 - 10回 文献検討(4)【学校問題(諸外国)】
 - 11回 テーマ学習(2)【教育に関する現代的テーマ】
 - 12回 ディベート【教育に関する現代的テーマ】
 - 13回 課題意識検討会【研究テーマへの接近】
 - 14回 卒論発表会【研究成果のわかちあい】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
「自分のテーマ」を見つけ、そのテーマに関する資料等をもとにプレゼンテーションを行うので、それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身が深めたい研究テーマは何か、じっくりと考えていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今やスポーツはプレイする人だけのものではなく、大会やイベントを支える側、観る側などあらゆる人たちのものである。様々な角度からスポーツを捉え、スポーツに関わる諸問題や影響などについて討論し、より理解を深める。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 各自で関心のある領域・テーマを見つける①
- 2回 各自で関心のある領域・テーマを見つける②
- 3回 先行研究の購読①
- 4回 先行研究の購読②
- 5回 先行研究の購読③
- 6回 先行研究の購読④
- 7回 4年生の合同中間発表資料を検討
- 8回 4年生の合同中間発表会に参加
- 9回 幼稚園児への運動プログラム計画・立案①
- 10回 幼稚園児への運動プログラム計画・立案②
- 11回 準備・作業
- 12回 (実践) 幼稚園児への運動プログラム提供
- 13回 反省会
- 14回 合同の卒業論文発表会の参加
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論の領域やテーマを意識しながら、4年生の中間発表や卒論発表に参加して意識を高める。
資料収集に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 科学研究の方法論(1)
- 3回 科学研究の方法論(2)
- 4回 文献の探し方(1)
- 5回 文献の探し方(2)
- 6回 生涯スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(1)
- 7回 生涯スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(2)
- 8回 生涯スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(3)
- 9回 生涯スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(4)
- 10回 生涯スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(5)
- 11回 生涯スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(6)
- 12回 生涯スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(7)
- 13回 卒業論文のテーマ選定
- 14回 卒業論文の方法論の決定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。ディスカッションを通して、卒業論文のテーマ選定を考えていく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 調査研究方法
- 2回 研究計画・準備
- 3回 研究計画・準備
- 4回 現地調査・分析と討論
- 5回 現地調査・分析と討論
- 6回 現地調査・分析と討論
- 7回 現地調査・分析と討論
- 8回 現地調査・分析と討論
- 9回 研究計画・準備
- 10回 研究計画・準備
- 11回 現地調査・分析と討論
- 12回 現地調査・分析と討論
- 13回 現地調査・分析と討論
- 14回 現地調査・分析と討論
- 15回 夏休みの調査計画

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する研究テーマに従い、グループ演習を行う。コミュニケーション発達、母子関係など各グループでテーマを設定し、研究計画作成、データ収集・分析、研究レポート作成と研究実施における一連の手続きの学習を目的とする。また、学期最後には研究成果について発表会を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー1
- 第3回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー2
- 第4回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー3
- 第5回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー4
- 第6回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー5
- 第7回 グループ研究：データ収集・分析1
- 第8回 グループ研究：データ収集・分析2
- 第9回 グループ研究：データ収集・分析3
- 第10回 グループ研究：データ収集・分析4
- 第11回 グループ研究：研究レポート作成1
- 第12回 グループ研究：研究レポート作成2
- 第13回 グループ研究：研究レポート作成3
- 第14回 研究発表会1
- 第15回 研究発表会2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の基礎
- 2回 研究の基礎
- 3回 各自の研究テーマ発表、議論
- 4回 各自の研究テーマ発表、議論
- 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 14回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 15回 各自の研究進捗状況発表、議論

合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究に向けて、各自が興味・関心あるテーマを選び、そのテーマに関する国内外の文献研究を進め、討議を通じて問題・仮説の設定を行う。さらに、心理学研究方法を用いてデータの収集、分析を行い、論文にまとめる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 進め方は以下の通り
 研究テーマの選定
 関連する文献の購読、討議
 研究計画の立案
 研究の実施
 研究結果の分析、検討
 卒業論文の作成、提出
 * 夏休み期間にゼミ合宿を行う。その際、各自の卒論研究について発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表の際には、レジュメを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に必要な方法論を学ぶ。卒論テーマの決め方，文献収集の仕方，実験や調査の準備・実施，データの分析方法について，個別の卒論テーマに沿って学習をする。授業時間以外で個別指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は，各自の卒論テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 3回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 4回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 5回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 6回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 7回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 8回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 9回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 10回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 11回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 12回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 13回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 14回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 15回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

3年の2学期までに卒論のテーマを決めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習A-2で設定したテーマについて専門的に研究し、最終的に成果を卒業論文としてまとめます。自らが研究テーマを発見し、その研究方法を開発したのちデータを収集し成果をまとめるという一連の作業のなかで、受講者には問題の発見と解決を自ら行う能力が身に付くことが期待できます。このような能力は、大学での学習だけでなく、社会においても広く応用が可能な能力であり、是非とも身につけておくべきものであると思います。この点に、本演習の重点を置きたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「大学生のための論理的に書きプレゼンする技術」(菊田千春ほか著 東洋経済新報社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文をまとめるまでの過程はおおむね以下のようになります。

(1)問題発見期(テーマを設定する)(2)解決方法開発期(研究方法を開発する)(3)データ収集期(研究方法に従ってデータを収集する)(4)データ解析期(考察を行う)(5)総括期(設定した問題について論文としてまとめる)。この演習は、上記の過程の(2)から(3)の段階にあたります。

- 1回 解決方法の開発1 演習A-2で設定した研究テーマの研究方法を開発する。
- 2回 解決方法の開発2
- 3回 解決方法の開発3
- 4回 解決方法の開発4
- 5回 テータを収集し討論する1 フィールドワーク・実験・観察を行う
- 6回 テータを収集し討論する2
- 7回 テータを収集し討論する3
- 8回 テータを収集し討論する4
- 9回 テータを収集し討論する5
- 10回 テータを収集し討論する6
- 11回 テータを収集し討論する7
- 12回 中間のまとめ1 得られたデータを整理する
- 13回 中間のまとめ2
- 14回 中間のまとめ3
- 15回 今後の方針の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究への積極的な意欲を持つことが最大の準備です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行うが、年間に何度か学外にて社会調査を行い、データの処理、報告書の作成等も課す。しっかりとした(単なる作文ではない)卒論を仕上げるのが目標である。

教科書 /Textbooks

学生と話し合ってから指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生と話し合った後に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回 レジユメ担当を決めテキストを読む
5月、7月に学外にて調査を行う予定である

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% レジユメ50% 発表30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査や発表等、授業時間外の準備時間が十分必要となるので注意。

履修上の注意 /Remarks

調査や発表等、授業時間外の準備時間が十分必要となるので注意。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人がかわいそうでしょう?ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学問のプロセスとしての論文の研究方法や書き方を学ぶことで、物事を科学的に捉えたり、筋道たてて考えるプロセスや思考や物事を深く追求する姿勢を身につけてほしい。グループ討議や発表、論文作成などを通じて、一般論としての社会福祉理論ではなく、社会福祉に対して、自分なりの考えや理解がもてることを期待している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

4年次は卒業論文について、各自、テーマを決定し、研究にとりくむ。研究計画を提出し、手順を踏まえながら研究を進め、卒論を完成できるように指導する。1学期は、テーマの選定、題目の決定、論文の構成まで進むように集団指導、個別指導を行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～8回 テーマの選定と題目の決定
- 9回～12回 論文の構成、キーワード
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題 40...% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論テーマの決めるにあたって、日常的に自分の関心ある事柄について新聞記事などをスクラップするなど、資料を収集するようしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年生1学期より社会福祉援助のあり方を中心とした現在の社会福祉問題を、具体的テーマの下、研究する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障害者、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求を学び取っていくことが求められる。そのことが、“書かなければならない”卒論から、“自己実現のための”研究の転換へと私たちを導いてくれることと思う。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究対象の検討
- 3回 研究対象の検討
- 4回 研究方法の検討
- 5回 研究方法の検討
- 6回 研究内容の検討
- 7回 研究内容の検討
- 8回 フィールドの検討
- 9回 フィールドの検討
- 10回 フィールドワーク
- 11回 フィールドワーク
- 12回 フィールドワーク
- 13回 フィールドワーク
- 14回 フィールドワーク
- 15回 個別報告

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年生前期は卒業論文のテーマを個人若しくはグループで設定し、研究計画を考える。卒業論文に必要な諸資料、文献探索の方法についても指導する。夏季休暇中に合宿をおこない、卒業論文の骨子を検討する。

履修上の注意 /Remarks

夏季休暇中(9月下旬)に合宿を行い、卒業論文のテーマに即した章立・内容について検討する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育の内外の環境の中で、他者及び社会的諸関係との交流等によって、人間は、どのようにして、その人間性と人格を形成していくのかということを検討する。「基礎研究」「課題研究」「自由研究」の形態で実施する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】内はキーワード
- 第1回 人間教育についての「基礎研究」【人間性】
 - 第2回 人間教育についての「基礎研究」【人間形成】
 - 第3回 人間教育についての「基礎研究」【論理】
 - 第4回 人間教育についての「基礎研究」【感情】
 - 第5回 人間教育についての「基礎研究」【身体】
 - 第6回 人間教育についての「課題研究」【経験】
 - 第7回 人間教育についての「課題研究」【社会】
 - 第8回 人間教育についての「課題研究」【文化】
 - 第9回 人間教育についての「課題研究」【交流】
 - 第10回 人間教育についての「課題研究」【対話】
 - 第11回 人間教育についての「自由研究」【資料収集】
 - 第12回 人間教育についての「自由研究」【研究方法】
 - 第13回 人間教育についての「自由研究」【集団討議】
 - 第14回 人間教育についての「自由研究」【シェアリング】
 - 第15回 人間教育についての「自由研究」【研究発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年生での一年間の学習成果を踏まえて、卒業論文の執筆に向けての報告と検討を中心にして進める。各自の自覚的な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒論の書き方についてのプレゼンテーション
- 3回 卒論構想発表 1
- 4回 卒論構想発表 2
- 5回 卒論構想発表 3
- 6回 卒論構想発表 4
- 7回 卒論構想発表 5
- 8回 卒論構想発表 6
- 9回 卒論構想発表 7
- 10回 卒論構想発表 8
- 11回 卒論構想発表 9
- 12回 卒論構想発表 10
- 13回 卒論構想発表 11
- 14回 卒論構想発表 12
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文の完成に向けての文献の探索、研究方法の明確化を積極的に進めてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

理論研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。

1回～2回	理論的な考え方について
3回～4回	研究とは何か
5回～7回	テーマの設定と課題レポート作成計画の提出
8回	先行研究についての文献リストの作成
9回～10回	先行研究についての考察
11回～12回	分析視点と仮説の設定
13回～14回	それらの文章化
15回	まとめたものを発表しながら相互に検討・批評

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習A-1,A-2での成果や課題をふまえ、教育や子ども・若者に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 テーマ学習【子ども・若者】
- 3回 研究計画の検討(1)【研究目的・課題】
- 4回 研究計画の検討(2)【研究方法】
- 5回 卒業論文に関わる文献の検討(1)【文献リスト】
- 6回 卒業論文に関わる文献の検討(2)【先行研究の購読】
- 7回 卒業論文に関わる文献の検討(3)【先行研究の整理】
- 8回 卒業論文に関わる文献の検討(4)【先行研究の批評】
- 9回 卒業論文に関わる文献の検討(5)【課題の確定】
- 10回 フィールドワークの報告【観察分析の分かち合い】
- 11回 質問紙調査(1)【ワーディング】
- 12回 質問紙調査(2)【予備調査】
- 13回 研究計画の検討(3)【論文の構成】
- 14回 デイベート【教育に関する時事的テーマ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究テーマを決め、必要な情報や資料を収集していく段階にきました。
参加者が互いに刺激しあう演習にしていきたいと思います。

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次で学んだことを生かして、各自関心ある領域から研究テーマを決め、卒業論文にむけての準備を行う

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の卒論テーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論の書き方の確認
- 2回 卒論のテーマ・研究対象の検討①
- 3回 卒論のテーマ・研究対象の検討②
- 4回 卒論のテーマ・研究対象の検討③
- 5回 プロポーザル発表に向けての資料づくり
- 6回 合同のプロポーザル発表会
- 7回 発表会のふりかえり
- 8回 研究方法の検討(アンケート・実験などに向けて)①
- 9回 研究方法の検討(アンケート・実験などに向けて)②
- 10回 研究方法の検討(アンケート・実験などに向けて)③
- 11回 研究内容の個別指導①
- 12回 研究内容の個別指導②
- 13回 研究方法の作業①
- 14回 研究方法の作業②
- 15回 研究方法の作業③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

アンケート作成や実験を行う場合は、できるだけ夏期休暇に済ませる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。
本演習では、卒業論文作成について、テーマの選定、方法論について考え、実際に調査・測定を実施する

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成について(1)
- 3回 卒業論文作成について(2)
- 4回 卒業論文のテーマ決定
- 5回 卒業論文の予備調査
- 6回 卒業論文の方法論決定
- 7回 卒業論文の調査
- 8回 卒業論文の調査
- 9回 卒業論文プロポーザル発表
- 10回 データ処理方法について(1)
- 11回 データ処理方法について(2)
- 12回 データ処理方法について(3)
- 13回 図表の書き方(1)
- 14回 図表の書き方(1)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文のテーマ決定を行い、なるべく早く調査・測定を実施します。それと同時に、文献研究も同時に行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら、卒論完成に向けた考察を深める。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 研究分野と研究史
- 2回 文献講読の分担発表と討論
- 3回 文献講読の分担発表と討論
- 4回 文献講読の分担発表と討論
- 5回 文献講読の分担発表と討論
- 6回 文献講読の分担発表と討論
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 論文講読の分担発表と討論
- 9回 論文講読の分担発表と討論
- 10回 論文講読の分担発表と討論
- 11回 論文講読の分担発表と討論
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成と並行して、テーマ設定、関連文献の講読、研究計画について議論を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学生の卒業論文のテーマに沿って、各自の研究テーマや研究計画の検討、先行研究レビューの発表を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文テーマ検討1
- 第3回 論文テーマ検討2
- 第4回 論文テーマ検討3
- 第5回 先行研究・文献レビュー1
- 第6回 先行研究・文献レビュー2
- 第7回 先行研究・文献レビュー3
- 第8回 先行研究・文献レビュー4
- 第9回 先行研究・文献レビュー5
- 第10回 研究計画検討1
- 第11回 研究計画検討2
- 第12回 研究計画検討3
- 第13回 研究計画検討4
- 第14回 卒業論文経過発表1
- 第15回 卒業論文経過発表2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表の練習
- 2回 研究発表の練習
- 3回 中間発表
- 4回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 14回 研究発表の練習
- 15回 最終発表

合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続いて、卒業研究の作成を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 進め方は以下の通り
 研究テーマの選定
 関連する文献の購読、討議
 研究計画の立案
 研究の実施
 研究結果の分析、検討
 卒業論文の作成、提出
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表の際には、レジュメを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に必要な方法論を学ぶ。卒論テーマの決め方，文献収集の仕方，実験や調査の準備・実施，データの分析方法について，個別の卒論テーマに沿って学習をする。授業時間以外に個別指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は，各自の卒論テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 3回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 4回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 5回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 6回 卒業論文中間発表会の発表の仕方及び資料作成の指導
- 7回 卒業論文中間発表会
- 8回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 9回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 10回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 11回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 12回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 13回 卒業論文の原稿作成及び提出に関する指導
- 14回 卒業論文発表会での発表の仕方および要綱集の執筆指導
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年の1学期までに卒論のデータを取り終えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習B-1の最後で再検討した研究方針に基づいて、さらに深く研究を進めます。
自ら研究テーマを発見し、その研究方法を開発したのちデータを収集し、成果をまとめるという一連の作業のなかで、受講者には問題の発見と解決を自ら行う能力が身に付くことが期待できます。このような能力は、大学での学習だけでなく、社会において広く応用が可能な能力であり、大学在学中に是非とも身につけておくべきものであると考えます。この演習では、演習B-1と同様に、この点に重点を置きたいと思っております。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「大学生のための論理的に書きプレゼンする技術」(菊田千春ほか著 東洋経済新報社 1,575円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文をまとめるまでの過程はおおむね以下ようになります。
(1)問題発見期(テーマを設定する)(2)解決方法開発期(研究方法を開発する)(3)データ収集期(研究方法に従ってデータを収集する)(4)データ解析期(考察を行う)(5)総括期(設定した問題について論文としてまとめる) この演習は、この過程のうち(3)から(5)の過程になります。

- 1回 データを収集する 1
- 2回 データを収集する 2
- 3回 データを収集する 3
- 4回 データを収集する 4
- 5回 データを収集する 5
- 6回 データを収集する 6
- 7回 中間のまとめ
- 8回 中間のまとめ
- 9回 今後の方針の検討
- 10回 データを収集する 7
- 11回 データを収集する 8
- 12回 総括 1 全体の考察とまとめ、および論文文化
- 13回 総括 2
- 14回 総括 3
- 15回 卒論発表会へ向けたプレゼンテーションの作成

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究への積極的な姿勢をもつことが最大の準備で、それが研究を楽しくします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行うが、卒論に必要な学生は何度か学外にて社会調査を行い、データの処理、報告書の作成等も課す。しっかりとした(単なる作文ではない)卒論を仕上げるのが目標である。

教科書 /Textbooks

学生と話し合ってから指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生と話し合ってから指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～14回 卒論について構想を発表しながら、オリジナリティある卒論へと仕上げてゆく
15回 卒論発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% レジユメ50% 発表30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な理由のない限り、授業を休むことはできない。

履修上の注意 /Remarks

調査や発表等、授業時間外の準備時間が十分必要となるので注意。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人がかわいそうでしょう?ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学問のプロセスとしての論文の研究方法や書き方を学ぶことで、物事を科学的に捉えたり、筋道たてて考えるプロセスや思考や物事を深く追求する姿勢を身につけてほしい。グループ討議や発表、論文作成などを通じて、一般論としての社会福祉理論ではなく、社会福祉に対して、自分なりの考えや理解がもてることを期待している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4年次の2学期は、個別指導を中心にを行い、卒論を完成できるように指導する。中間発表や卒論発表会において報告する。

- 1回 卒業論文の進捗状況についての報告、個別指導日程調整
- 2回～4回 個別指導
- 5回 中間発表
- 6回～12回 個別指導
- 15回 卒業論文発表会 総評

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題 40...% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

個別指導の日程は学生と相談して決めますが、週1回の指導を受けるためには、教員から指摘された事項に応えられるように、加筆・修正するなど卒論執筆を進めておく必要があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士国家試験を受ける学生には1月末の試験の準備ができるように、卒業論文は12月中に完成するようにスケジュールを組みます。

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年生2学期より社会福祉援助のあり方や、その他社会福祉領域を中心としてゼミ生各人が立てた研究計画の下、卒業論文を作成する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障害者、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求を学び取っていくことが求められる。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・個別研究テーマの確認
- 2回 論文に関する個別指導
- 3回 論文に関する個別指導
- 4回 論文に関する個別指導
- 5回 論文に関する個別指導
- 6回 論文に関する個別指導
- 7回 論文に関する個別指導
- 8回 論文に関する個別指導
- 9回 論文に関する個別指導
- 10回 論文に関する個別指導
- 11回 論文に関する個別指導
- 12回 論文に関する個別指導
- 13回 論文に関する個別指導
- 14回 論文に関する個別指導
- 15回 論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年生2学期は個人若しくはグループで設定した卒業論文のテーマを、具体的にまとめていく。卒業論文に必要な諸資料、文献探索の方法についても指導する。夏期休暇中に実施した合宿での卒業論文の骨子を具体化し、論文を作成する。2月には最後の合宿として卒業論文の詳細な報告を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育の内外の環境の中で、他者及び社会的諸関係との交流等によって、人間は、どのようにして、その人間性と人格を形成していくのかと
いうことを検討する。「基礎研究」「課題研究」「自由研究」の形態で実施する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】内はキーワード
- 第1回 人間教育についての「基礎研究」【人間性】
 - 第2回 人間教育についての「基礎研究」【人間形成】
 - 第3回 人間教育についての「基礎研究」【論理】
 - 第4回 人間教育についての「基礎研究」【感情】
 - 第5回 人間教育についての「基礎研究」【身体】
 - 第6回 人間教育についての「課題研究」【経験】
 - 第7回 人間教育についての「課題研究」【社会】
 - 第8回 人間教育についての「課題研究」【文化】
 - 第9回 人間教育についての「課題研究」【交流】
 - 第10回 人間教育についての「課題研究」【対話】
 - 第11回 人間教育についての「自由研究」【資料収集】
 - 第12回 人間教育についての「自由研究」【研究方法】
 - 第13回 人間教育についての「自由研究」【集団討議】
 - 第14回 人間教育についての「自由研究」【シェアリング】
 - 第15回 人間教育についての「自由研究」【研究発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1月の卒業論文指導に向けて、前半は構想発表、後半は個人指導を中心にして進める。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。参考文献は個々の学生に合わせて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の卒論テーマに合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 卒論構想発表 1
- 3回 卒論構想発表 2
- 4回 卒論構想発表 3
- 5回 卒論構想発表 4
- 6回 卒論構想発表 5
- 7回 卒論構想発表 6
- 8回 個別指導
- 9回 個別指導
- 10回 個別指導
- 11回 中間発表会
- 12回 中間発表会
- 13回 個別指導
- 14回 個別指導
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70点 卒論発表会 30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年間の学びの集大成である卒業論文の完成に向けて、早い段階から執筆作業を始めてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について、資料や情報の整理、調査研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、卒論作成につなげます。現代社会における人間の自己教育の到達点、諸活動の課題・可能性について教育学的に解明することを課題とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。

- 1回～2回 実証研究とは何か
- 3回～4回 テーマの設定と関連活動の情報の収集・整理
- 5回～7回 課題レポート調査計画の提出
- 8回 調査活動の実施
- 9回～10回 調査結果の分析
- 11回 補足資料、補足調査の実施
- 12回～13回 それらの文章化
- 14回 まとめたものを発表しながら相互に検討・批評
- 15回 調査協力者への報告、提案

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくとゼミの内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習A-1,A-2,B-1での成果や課題をふまえ、教育や子ども・青年に関する文献の検討や様々な教育問題の討論を通して、さらなる教育学知識の習得や研究の進め方・まとめ方などを学びます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 卒業論文完成に向けて【成果に学ぶ】
- 3回 卒業論文に関わる発表・討論1【本論・事例研究】
- 4回 卒業論文に関わる発表・討論2【本論・質問紙調査】
- 5回 卒業論文に関わる発表・討論3【本論・面接調査】
- 6回 卒業論文に関わる発表・討論4【本論・テキスト分析】
- 7回 フィールドワークの報告・検討【観察したデータの分析・考察】
- 8回 卒論・中間発表【研究目的・方法、論文構成】
- 9回 卒業論文に関わる発表1【論文の仕上げ・キーワード】
- 10回 卒業論文に関わる発表2【論文の仕上げ・リライト】
- 11回 卒業論文に関わる発表3【論文の仕上げ・最終チェック】
- 12回 卒業論文に関わる発表4【論文の仕上げ・要旨】
- 13回 課題意識検討会【研究テーマ接近への支援】
- 14回 卒論発表会【研究成果のわかちあい】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習B-1に続いて、定期的な報告の機会を活用して研究を進め、卒業論文をまとめる。
授業に当たり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での研究の集大成として卒業論文をまとめあげ、また、それぞれの知的成果をわかちあう時です。
存分に学びましょう。

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒論テーマに沿って、卒業論文の作成に必要な方法を学習する。データの収集、分析を行いながら論文をまとめていく。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の卒論テーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料収集と経過報告
- 2回 卒業論文までの計画表を発表
- 3回 論文に向けての個別指導①
- 4回 論文に向けての個別指導②
- 5回 論文に向けての個別指導③
- 6回 中間発表に向けての資料作成①
- 7回 中間発表に向けての資料作成②
- 8回 合同の中間発表会①
- 9回 合同の中間発表会②
- 10回 論文に向けての個別指導①
- 11回 論文に向けての個別指導②
- 12回 論文に向けての個別指導③
- 13回 卒論提出
- 14回 合同の卒業論文発表会
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自のペースで卒論を仕上げていく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。
本演習では、卒業論文完成に向けて、データ整理、結果の解釈について考え、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文のデータ整理 (1)
- 3回 卒業論文のデータ整理 (2)
- 4回 卒業論文のデータ整理 (3)
- 5回 卒業論文のデータ整理 (4)
- 6回 結果の解釈 (1)
- 7回 結果の解釈 (2)
- 8回 統計的解釈 (1)
- 9回 統計的解釈 (2)
- 10回 卒業論文中間発表
- 11回 卒業論文作成 (1)
- 12回 卒業論文作成 (2)
- 13回 卒業論文作成 (3)
- 14回 卒業論文作成 (4)
- 15回 卒業論文最終発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 20% 卒業論文 ... 50% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文で行った、調査結果を元に、パソコンを使って、見やすい表、わかりやすいグラフの作り方などについて考えていく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。本演習では最終的なフィールド調査・分析を行うとともに、各自が導いた論旨に関する先行研究を整理して、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これまでの調査研究成果の発表
- 2回 研究計画・準備
- 3回 研究計画・準備
- 4回 調査・分析と討論
- 5回 調査・分析と討論
- 6回 調査・分析と討論
- 7回 先行研究の整理
- 8回 先行研究の整理
- 9回 調査・分析と討論
- 10回 調査・分析と討論
- 11回 調査・分析と討論
- 12回 卒業論文のまとめと討論
- 13回 卒業論文のまとめと討論
- 14回 卒業論文のまとめと討論
- 15回 卒業論文発表

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成と並行して、自身の研究のデータ分析、結果の解釈、論理的考察などについて心理学の立場から議論を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究データ分析 1
- 第3回 研究データ分析 2
- 第4回 研究データ分析 3
- 第5回 研究データ分析 4
- 第6回 研究データ分析 5
- 第7回 卒業論文中間発表 1
- 第8回 卒業論文中間発表 2
- 第9回 卒業論文作成 1
- 第10回 卒業論文作成 2
- 第11回 卒業論文作成 3
- 第12回 卒業論文作成 4
- 第13回 卒業論文作成 5
- 第14回 卒業論文研究発表 1
- 第15回 卒業論文研究発表 2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor シラバス作成しない

履修年次 4年次 単位 6単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習B-1、B-2の作業に基づいて、最終的に卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これまでの調査研究成果の発表
- 2回 研究計画・準備
- 3回 研究計画・準備
- 4回 調査・分析と討論
- 5回 調査・分析と討論
- 6回 調査・分析と討論
- 7回 先行研究の整理
- 8回 先行研究の整理
- 9回 調査・分析と討論
- 10回 調査・分析と討論
- 11回 調査・分析と討論
- 12回 卒業論文のまとめと討論
- 13回 卒業論文のまとめと討論
- 14回 卒業論文のまとめと討論
- 15回 卒業論文発表

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担保表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習してこなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ねらいは2つあります。1つは、人間関係学科の学生らしい「多角的な視点」を身に付けてもらうことです。そこでこの授業では、人間関係に関わるある1つのテーマを設定し、いろいろな学問分野からそれを眺めてみたときに、それぞれ違ったものが見えてくることを体験してもらいます。

2つ目のねらいは、「大学4年間の見通し」を立ててもらうことです。そこで、学科の先輩達を授業に招き、大学での勉強や生活の全般にわたって体験談を聞き、相談にのってもらえるような機会をもうけています。

教科書 /Textbooks

使用しません。資料は各回で担当教員が配布する場合があります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する場合があります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 先輩との交流
- 3回 図書館ツアーとレクリエーション
- 4回 図書館ツアーとレクリエーション
- 5回 グループワーク1 (2週間同じ教室、教員です)
- 6回 グループワーク1 (2週間同じ教室、教員です)
- 7回 グループワーク2 (2週間同じ教室、教員です)
- 8回 グループワーク2 (2週間同じ教室、教員です)
- 9回 まとめ
- 10回 グループワーク3 (2週間同じ教室、教員です)
- 11回 グループワーク3 (2週間同じ教室、教員です)
- 12回 グループワーク4 (2週間同じ教室、教員です)
- 13回 グループワーク4 (2週間同じ教室、教員です)
- 14回 まとめと発表
- 15回 まとめと発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・100%
※欠席はマイナス評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

授業内容に合わせて頻りに集合場所が変わるので注意して下さい。
オリエンテーションで授業の進め方を説明しますのでしっかりと把握して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では人間関係学科の実験実習の入門演習を行う。2年次の実験実習科目の選択、3・4年次のゼミ選択に関しては、実際にある程度これらの授業を体験した上で判断することが望ましい。また、2年次以降選択科目の履修においても、実践的な実習をした上で学ぶことが効果的である。

そこで、この授業では、5つの領域における入門的な実験実習によって、知識を詰め込む受験勉強では得られないような、課題発見・解決型学習や他者と協力する参加型学習・実験学習によって得られた事実に基づいた意見をレポートする練習を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員から指示がある

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～3回 ペア① A：【心理】領域の実験・実習
- 4～5回 ペア② B：【環境】領域の実験・実習
- 6～7回 ペア③ C：【福祉】領域の実験・実習
- 8回 発表
- 9回 2年次配当の実験・実習科目の説明
- 10～11回 ペア④ D：【社会】領域の実験・実習
- 12～13回 ペア⑤ E：【スポーツ】領域の実験・実習
- 14回 発表
- 15回 まとめ

※ 5つのグループに分かれて、ペア①～⑤の授業でA～Eまでの領域をローテーションでおこなう。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み等を総合的に評価する。欠席はマイナス評価として減点する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

領域毎の実験・実習によって、教室の変更があるので注意すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回 社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回 集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回 自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回 発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
- 第7回 乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
- 第8回 生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
- 第9回 発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
- 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
- 第11回 パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第12回 パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
- 第13回 不応の理解と援助①【発生機序】【防衛機制】【不安】
- 第14回 不応の理解と援助②【心理アセスメント】【ラポール】【傾聴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎心理学【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では心理学の基礎分野を概観することによって、人間のこころを明らかにする基礎心理学の領域を学ぶことを目的としている。内容としては、心理学の歴史および、感覚、知覚、学習、記憶、認知、知的過程（思考と知識）、さらには人間と機械との関係を取り上げる。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○梅本堯夫・大山正編著『心理学への招待』サイエンス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のオリエンテーション、基礎心理学とは何か？
- 2回 「近代科学革命と心理学誕生のドラマ(1)」
- 3回 「近代科学革命と心理学誕生のドラマ(2)」
- 4回 「現代における心理学研究の多様性と学際性」
- 5回 「人間の感覚過程：視力のメカニズム」
- 6回 「人間の知覚過程：3D(ステレオ)のメカニズム」
- 7回 「人間の認知過程：イリュージョンのメカニズム」
- 8回 1～7回のまとめ
- 9回 「人間の学習(その1)：条件づけ」
- 10回 「人間の学習(その2)：認知的学習」
- 11回 「人間の記憶と知識(その1)：記憶の階層」
- 12回 「人間の記憶と知識(その2)：知識構造」
- 13回 「人間と機械との関係(その1)：ヒューマンインタフェース」
- 14回 「人間と機械との関係(その2)：メディアコミュニケーション」
- 15回 9～15回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 70% 授業中の課題(レポート) ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館で少なくとも1冊は心理学関係の専門書を読む。授業ではハンドアウトを配布するので講義中にメモを取っておくと同時に次回講義の前に必ず再度目を通して復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中で、卒業論文やゼミでの実験や調査への協力をお願いすることがありますが、これも心理学を学んでいく上で大切なことですので、協力をお願いします。

キーワード /Keywords

社会学概論 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は人間関係学科の学生が人間関係学を学ぶための基礎科目として設定されている。人間が社会的存在である限り、人間関係学にとって社会学は欠かすことができない。現代社会の中において我々の人間関係や社会意識がどのようにあるのかがこの授業のテーマである。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- E. デュルケム『自殺論』(中公文庫)、
M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(岩波文庫)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 イントロダクション
 - 2回 社会学とは何か
 - 3回 【意味的行為】と人間
 - 4回 意味的行為と【間主観性】
 - 5回 意味的行為と【アイデンティティ】
 - 6回 意味的行為と現代社会
 - 7回 自殺論1【意味的行為の理解の仕方】
 - 8回 自殺論2【自己本位的自殺】
 - 9回 自殺論3【アノミー的自殺】
 - 10回 集合的意味体系と社会関係
 - 11回 【近代化】、現代化と人間
 - 12回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神1【近代批判としてのマックス・ウェーバー】
 - 13回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神2【キリスト教と禁欲：ルターとカルバン】
 - 14回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神3【予定説の意味と現代社会】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

7回以降では、指定されたテキストを読んでくることを前提に授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境概論 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 吉良 今朝芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在、環境問題は早急な対応が必要な世界共通の課題である。そのためには、環境の正しい理解が必要であることはいうまでもない。しかし、(環境問題を引き起こした)人間と環境の関係についても考えをめぐらせる必要があることは、顧みられないことが多いと思われる。この授業では、環境(問題)と同時に、環境(自然)と人間との関わりについて理解することを目的としている。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

湯浅赳夫著「環境と文明」新評論
林野庁編「森林・林業白書(各年版)」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球環境の概観 (地球史と環境問題)
- 2回 環境問題のしくみ1 (地球温暖化とオゾン層の破壊)
- 3回 環境問題のしくみ2 (自然界のバランス)
- 4回 私たちの住む場所・今という時 (自然の猛威と災害)
- 5回 環境と文明1 (気候変動と文明の盛衰)
- 6回 環境と文明2 (パラダイムの変遷)
- 7回 1~7回のまとめ
- 8回 森林の歴史と文明社会
- 9回 日本人と森林・林業とのかかわり(森林セラピーなど)
- 10回 森林の多面的機能(林産物の生産機能・環境保全機能・保健休養機能)
- 11回 山村問題と住民生活(限界集落・伝統文化の継承)
- 12回 わが国の世界自然遺産地域とその課題(屋久島・白神・知床・小笠原)
- 13回 文化財維持のための檜皮・桐・木蠟・漆・和紙
- 14回 森林特産物(きのこ・たけのこ・竹材・竹炭)などの生産と流通
- 15回 8~9回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

野井(1回~7回)試験またはレポート...50%
吉良(8回~15回)試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中にあげた資料などに目を通しておくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学概論【昼】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今までに「自己」と「他者」について深く考えてみたことはあるだろうか。他人とともに生きていくため人間関係を理解には、なにが必要だろうか。残念ながら、たとえ「心」や「社会」の仕組みがわかって、人間関係は理解できない。人間関係はつねに変わっていく「なまもの」だからだ。時代や地域や育った環境によって異なる価値観をもとに、それぞれの人は他人と交渉し合意をはかり意思決定をする。そうした倫理や判断基準を作り上げているのが「文化」である。

自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、とても不思議なことだ。

人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。時にはビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする。

内容はちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうしたたくさんの経験を通して、他人を知ることは自分を知ることでありという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。

教科書 /Textbooks

講義中にたくさんの本と映画を紹介する
そのうちで最低でも5つくらいは最終講義までに読み終えておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「人間らしさとはなにか? 人間のユニークさを明かす科学の最前線」マイケル・S・ガザニガ
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール
- 以下はほんの一部である
- 「完全な人間を目指さなくてもよい理由 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」マイケル・J・サンデル
- 「日常人類学宣言! 生活世界の深層へ / から」松田 素二
- 「熊から王へ」中沢新一
- 「人類大図鑑」ロバート・ウィンストン 小笠原景子
- 「フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門」菅原和孝
- 「身体の零度」三浦雅士
- 「自由を耐え忍ぶ」テッサ・モリス・スズキ 辛島理人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5講 交換とはなにか 1
- 第6講 交換とはなにか 2
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 政治とはなにか
- 第9講 信じるとはなにか 1
- 第10講 信じるとはなにか 2
- 第11講 自然とはなにか 1
- 第12講 自然とはなにか 2
- 第13講 わかるとはなにか 1
- 第14講 わかるとはなにか 2
- 第15講 すべてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義で紹介するさまざまな活動に参加する	...	30%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える	...	30%
講義でおこなわれるさまざまな議論に参加する	...	30%
講義の内容と上記の活動を踏まえた上で小論を書く	...	10%

人類学概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

人間とは何かについて考えており、心の準備ができている人だけ受講すること。
大学の講義は教えられることよりも、自分で考える事が大切である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

教育学概論【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育学概論では、学校や市民生活における課題のとらえ方、その克服の視点・方法・実践について基礎的な理解について考えていく。講義においては、以下の柱を中心として学習を進めていく。

- ①教育に関する基礎的な概念を通して「教育とは何か」ということの検討
 - ②今日の青少年の人格発達の問題をめぐる諸問題とその克服に向けての教育指導の課題の検討
 - ③現代社会における生涯学習・生涯教育の意義と課題の検討
 - ④人間形成と教育、子どもの教育環境についての検討
- こうした検討を踏まえて、人間形成と教育の違い、教育の意義や課題について理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、4名の教員によって行われます。

- 1回 教育とは何か-教育学の視座-
- 2回 臨床教育学の視点から1 -児童虐待やネグレクトなど乳幼児期問題
- 3回 臨床教育学の視点から2 -いじめ・不登校など学童期問題
- 4回 臨床教育学の視点から3 -思春期問題
- 5回 教育論再考1 -幸福論
- 6回 教育論再考2 -自立論
- 7回 教育論再考3 -発達論
- 8回 主体形成のプロセスと援助1 -父親と子ども
- 9回 主体形成のプロセスと援助2 -子どもの遊び
- 10回 主体形成のプロセスと援助3 -子ども自身が学ぶ
- 11回 主体形成のプロセスと援助4 -デンマークの教育と日本
- 12回 教育行政学の視点から1 -学ぶことと子どもの権利
- 13回 教育行政学の視点から2 -学校と子どもの権利、父母・住民の権利
- 14回 教育行政学の視点から3 -生涯学習する権利とその保障
- 15回 まとめ -教育学の視角と意義

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
(試験は、4人それぞれの担当者から各25点で出題、その合計点で評価します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の内容を復習し、担当教員ごとに講義の内容について、自分なりの意見を整理していくと効果的な履修になると同時に、試験への準備になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

運動やスポーツは、体育実技という枠組みを超えて、われわれの生活の様々な局面に関わりを持つようになってきた。学校の授業として「まじめ」にからだを動かすことを強いられてきた体育実技とは異なり、からだを動かすことそのものの楽しさへの認識の高まりといえる。生涯スポーツ学概論では、このような観点に立って、多方面から「生涯スポーツ」について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィットネスシリーズ〔全9巻〕○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アスリートからの視点
- 2回 スポーツの発祥
- 3回 生涯スポーツについて(1)
- 4回 生涯スポーツについて(2)
- 5回 スポーツマンシップについて
- 6回 ドーピングと薬物について
- 7回 種目の特性(野球とサッカー)
- 8回 生涯スポーツと健康
- 9回 ライフスタイルと健康
- 10回 加齢と運動
- 11回 余暇と生活
- 12回 女性の運動・スポーツ
- 13回 スポーツの楽しみ方
- 14回 障がい者のスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これからの自分の健康やスポーツとの関わり方を考えながら受講するとよいでしょう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ、QOL

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
- 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
- 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
- 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
- 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 6回 社会福祉の思想【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 9回 社会福祉の歴史(日本)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
- 10回 社会福祉の歴史(日本)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
- 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
- 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
- 13回 現代社会の変化と福祉政策【社会的排除】【社会的包摂】
- 14回 福祉政策の関連領域 【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めらるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
- 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
- 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
- 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①
- 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②
- 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③
- 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価
- 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
- 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
- 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
- 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
- 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
- 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
- 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学実験実習I【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学の基礎実験を計画、実施し、そのデータ整理、レポート作成の一連の流れを実験者、実験参加者として実際に体験し、心理学における「ところ」を測定するための方法を実践的な実験を通して学ぶ。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 市川伸一 『心理測定法への招待』サイエンス社
- フィンドレイ 『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房
- 利島保 『心理学のための実験マニュアル』北大路書房
- 木下是雄 『レポートの組み立て方』筑摩書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【実験】
- 第2回 触2点閾の測定。【触覚】、【弁別閾】
- 第3回～第4回 盲点の大きさの測定。【盲点】
- 第5回～第6回 長さの弁別閾の測定。【弁別閾】、【心理測定関数】
- 第7回～第8回 心理尺度の構成。【心理尺度】、【間隔尺度】、【一対比較】
- 第9回～第10回 幾何学的錯視の測定。【ミュラーリヤー錯視】
- 第11回～第12回 フィッツの法則の実験。【速さと正確さのトレードオフ】
- 第13回 無意味綴りの記憶。【学習曲線】、【系列位置曲線】、【リハーサル】
- 第14回 心理学実験における倫理。【人権】
- 第15回 授業全体のまとめ

(実験の順序は変更する場合がある。4年生の卒業研究実験等に参加する場合がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

提出レポート100% 4種類の実験についてのレポート(4段階評価 : A,B,C合格、D不合格)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館で少なくとも1冊は心理学実験関係の専門書を読むこと。実験を行うので動きやすい服装などに気をつける。データ処理には計算機を使用。図表を描く定規など必要なものを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査実習 (フィールドワーク) 【昼】

担当者名 /Instructor 非常勤:未定

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 (ペア) 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークをの入門として、知らない人に会ってはなしをしたり、自分が知りたいことを教えてもらうためのノウハウを学ぶ。

まず、自分がいままでずっと持っていた疑問や、興味のあることを明らかにして、何を調べるかを考える。

つぎに、調べたいことを知るためにはどんな方法があるのかをみなで議論しながら検討する。

それから、実際に外に出て町をみたり人に会ったりする。

さらに、自分が聞いてきた話にどんな意味があるのか、そこにどんな発見があるのかを分析する。

そして、長年の謎を解きおもしろさを見つけ出す。

さいごに、そのおもしろさを人に伝える。

教科書 /Textbooks

興味に応じていろいろ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィールドワークは楽しい(岩波ジュニア新書) 岩波書店 / 岩波書店
 フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門 菅原和孝 / 世界思想社
 躍動するフィールドワーク研究と実践をつなぐ 井上真 / 世界思想社
 京大式フィールドワーク入門 京都大学/京都大学東南アジア研究所 / N T T 出版
 高齢化社会における介護者と被介護者の研究地域看護学によるフィールドワークと考察 芝山江美子 / 新風舎
 学生のためのフィールドワーク入門 アジア農村研究会 / めこん
 老いと障害の質的社会学-フィールドワークから
 山田富秋 / 世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 調査計画(planning):1-2
自分の知りたいことをみつける。
- 予備調査(field-work) 手法検討(discussion):3-4
人の話をどうやって聞くのか。他者との接点をどう築いていくのか
- 本調査(field-work) 資料検討(discussion):5-7
得られた資料の傾向や関連性を考える。ほかにどんな資料が必要か
- 資料分析(desk work)考察検討(discussion):8-9
資料から導き出されるもの、発見されたものの意味を考える
- 補足調査(field-work):10
考察に基づき不足する資料を補う
- 提示検討(discussion):11-14
発見したもの、考察したものを提示し、内容を検討する。どうやって人に伝えるかを考える
- 発表会(presentation):15
調査によって明らかにされたことを人にわかるように伝える 資料と結果をレポートにまとめる

成績評価の方法 /Assessment Method

企画会議での議論... 4 0 % 調査研究... 2 0 % 考察検討... 2 0 % 発表... 2 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自、5 つくらいをめぐりに自分が調べてみたいものを考えておく。
 毎回、自分から調査研究を進めていく。

社会調査実習（フィールドワーク）【昼】

履修上の注意 /Remarks

実習なので必ず毎回出席しなくてはならない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろなことをおもしろがってほしい。

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学

社会調査実習 (サーベイ) 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 (ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

調査とは何かについて学習した後、主にアンケート調査の基本を学ぶ。班別に学内外で実際に調査を行い、調査報告書を作り、調査結果の発表をする。

教科書 /Textbooks

印刷物をテキストとする

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 調査とは何か・オリエンテーション (サーベイとフィールドワーク)
- 2回 調査の手順概説・例示
- 3回 調査テーマのためのブレイン・ストーミング
- 4回 調査テーマ決定、班分け
- 5回 質問紙の設計
- 6回 質問紙の制作、印刷
- 7回 プリテストと調査票修正
- 8回 本調査実施準備と実施
- 9回 集計方法の概説
- 10回 集計の実施
- 11回 集計結果の確認
- 12回 報告書作成についての講義
- 13回 報告書作成
- 14回 報告書の点検、製本
- 15回 発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% 報告書 50% 発表 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この実習と同時に社会福祉調査法の授業を履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

欠席は、班の他のメンバーに迷惑がかかる他、報告書が作れなくなるので、極力避けること。学外で実習は開講時間外になることもある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境実験・実習【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 太田 泰弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目では、実習や観察を通して、環境と人間のかかわりについて学びます。人間関係学科では、いくつかの環境に関する科目がありますが、本科目は、演習を除けば、唯一の実験実習形式の科目です。講義等で得た知識は、この科目で、実際に試してみたり、観察したりすることで、より具体的で、身近な知識あるいは経験として定着することでしょう。「百聞は一見に如かず」という諺がありますが、この諺の通り、学習の中でも自分の手と目と耳で経験することが、最も大切であると思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。
別途配布の「手引き書」に従って進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 実験実習のスケジュールと安全学習
- 2～3回 自然の中にある楽しさと自然と人間の関わりを考える(間島の自然と文化)
- 4回 人間と環境の関係を遺跡から考える(遺跡見学)
- 5回 環境の変遷を調べる(花粉分析)
- 6回～7回 皿倉山の自然と文化
- 8回 博物館の利用
- 9回～12回 筑豊 旧産炭地の地学と文化
- 13回～15回 照葉樹林と山岳信仰(求菩提山)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...80 % 授業態度...20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習が中心の科目ですから積極的に参加することが望まれます。テーマごとにレポートの提出が必要です。

履修上の注意 /Remarks

「間島の自然と文化」、「皿倉山の自然と文化」、「筑豊 旧産炭地の地学と文化」、「照葉樹林と山岳信仰」は、通常の時間割の時間ではなく後日通知する日程に従って実施します。これらの日程は、土曜日、日曜日または祝日になります。
予定している授業計画・内容は変更されることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯教育・生涯スポーツ実習【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科, 高西 敏正 / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

子どもから高齢者を対象とする生涯教育や生涯スポーツに関わる活動のニーズの把握、事業・指導計画、生涯学習施設の経営など、生涯学習社会の構築に関わる専門的能力の育成(専門的な知見を踏まえた実践的な能力の向上、技術の習得)及び学習者とのコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としています。

そのため、生涯教育・生涯スポーツに関わる施設や職員、市民活動などについて見学や体験、実習を行いながら、学習を支援する視点や技能を高めていきます。また活動についての聞き取りやアンケートなどを行いながら、支援者や学習者・参加者の視点や課題について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

適時、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム・スポーツ
- 3回 生涯教育支援の技法(1) ワークショップ1(コミュニケーションワークショップ)
- 4回 生涯教育支援の技法(2) ワークショップ2
- 5回 生涯教育支援の技法(3) ワークショップ3
- 6回 北方小学校運動プログラム(1) プログラム考案
- 7回 北方小学校運動プログラム(2) プログラム予行
- 8回 北方小学校へ運動プログラム実施(3) プログラム指導1
- 9回 北方小学校へ運動プログラム実施(4) プログラム指導2
- 10回 障がい者スポーツプログラム(1) 講義
- 11回 障がい者スポーツプログラム(2) 実習 「車いすバスケットボール」
- 12回 施設見学(子育て交流ふれあいプラザ)
- 13回 高齢者との交流プログラム(周望学舎)
- 14回 生涯学習・生涯スポーツの意義や課題についての考察
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スポーツ・レクリエーションなどの活動時には、運動ができる服装と体育館シューズが必要

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部の方々と積極的に関わりを持つように心がけましょう

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名
/Instructor

法:中山後任

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学部の学生を対象とする場合、法律の解釈論が中心となりますが、法学部以外の学生にとっては、この法律の解釈論はなかなか理解し難いところがあります。法学総論の受講者は、法学部以外の学生も含まれていますので、この法学総論では、法律家でない学生にも、法・法律に関する興味を持ってもらえるように、「星野英一先生の法学入門」を教科書として、教養的な立場から、できるだけ他の社会科学の学問領域とも関連させながら、法・法律を総合的に話したいと思っています。

法・法律は、その時代々の社会現象と密接に関連しており、ある法・法律がこのような社会現象と関連していたのだな、ということが解っていただければ、一応所期の目的は達したと思います。

もっとも、法・法律には、法とは何か、正義とは何か、等の法哲学的な難解な部分や、ある法律の条文の解釈にも、幾つもの解釈があり、何が妥当な解釈か理解に苦しむ部分もあります。しかし、法・法律は、所詮は、人間が作り出したものであります。皆さんが、思考をめぐらせれば、必ず、何らかの結論に到達するものと思います。学生諸君は、この法学総論で、法・法律がどのようなものであるかについて、一般的な知識を修得し、法学的な素養を養っていただければよいかと思います。

教科書 /Textbooks

著者・・・星野英一
書籍・・・「法学入門」
出版社・・・有斐閣

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の際、必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

法学総論の授業計画・内容

第1回目・・・法と法律の区別について。

第2回目・・・法学(法学の内容の多様性、法・法律の科学的研究、実定法学)。

第3回目・・・法律に対する外的視点及び法律に対する内的視点。

第4回目・・・人間生活の基本に関する部分(経済と法律、家族と法律、安全確保)。

第5回目・・・人間生活の基本に関する部分(隣人関係、団体)。

第6回目・・・法と法律の種々の局面(法・法律と道徳、法・法律と習俗)。

第7回目・・・法と法律の種々の局面(法・法律と技術)。

第8回目・・・法と法律の種々の局面(正義と自然法、法・法律と学問・芸術・宗教)。

第9回目・・・日本法の歩み。

第10回目・・・日本法の源、継受法と日本社会。

第11回目・・・法律の適用(法律の適用と解釈—民事上と刑事上の適用、適用法律の探索、事実認定)。

第12回目・・・法律の適用(法律の適用と解釈—解釈方法—拡張・縮小解釈、文理解釈、論理解釈)。

第13回目・・・法律の適用(法律の適用と解釈—立法者意思の解釈、目的論的解釈、利益考量的解釈、類推適用)。

第14回目・・・法律の適用(適用される法律—法源—正文法、判例法。その他—事実認定、証明責任)。

第15回目・・・法律の適用(紛争解決の諸態様と紛争予防)。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験のペーパーテストの成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、教科書の予習及び復習をすること。
- ②、講義に出席する場合には、必ず教科書を携帯すること。
- ③、講義に出席する場合には、必ず六法を携帯すること。

履修上の注意 /Remarks

- ①、講義は、教科書の論述に従って進めるが、重要な点については、ノートに整理することを薦めます。
- ②、講義には必ず出席すること。

法学総論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

①法と法律、②法律の解釈、③法源、④正義

政治学 【昼】

担当者名
/Instructor

濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、①現代政治に至るまでの国家と社会の変化、②構築されてきた制度、③制度の設計・維持に関わる人々（議員や市民）、④地方・国・国際等の異なるレベルの政治の関係を扱います。本講義を通じて、受講生が政治学の基礎的な概念を理解し、政治に対する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2 - 3枚）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	
第2回	政治とは何か？	【権力】【権威】【正統性】
第3回	国家と社会①	【市民革命】【議会主義】【大衆社会】
第4回	国家と社会②	【行政国家】【福祉国家】
第5回	民主主義と自由主義	【自由民主主義】
第6回	政治制度①	【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
第7回	政治制度②	【小選挙区制】【比例代表制】【中選挙区制】【混合型】
第8回	政治制度③	【一院制】【二院制】【単一国家】【連邦制国家】
第9回	制度の視点	【拒否点】【制度補完性】【集権 - 分権】
第10回	デモクラシーと代表①	【代表性】【政党】
第11回	デモクラシーと代表②	【政党システム】【二大政党制】【多党制】
第12回	デモクラシーと代表③	【政治参加】【政治的社会化】
第13回	地方自治	【ガバナンス】
第14回	国際政治	【グローバルイゼーション】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

試験（70%）、講義への参加態度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

国際関係論I 【昼】

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

わたしたちが住むのは、グローバル化の進展によって地球上のあらゆる人びとが政治・経済・社会・文化の面で意識的・無意識的に緊密につながった世界。かような世界はいま、戦争、テロリズム、基本的人権の侵害、難民の大量発生、越境する感染症、地球規模の貧困や環境問題など、複雑かつ多岐にわたる難しい問題に直面しています。

そこでこの授業では、以上の難問について多面的に思索するための方法と基礎知識の獲得をめざします。授業の前半では国際関係の主要理論について説明し、後半では現代世界が抱えるグローバル・イシューのいくつかについて理論にもとづきながら検討します。

教科書 /Textbooks

山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)、2000円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。
- 田中明彦、中西寛 [編] 『新・国際政治経済の基礎知識』 [新版] (有斐閣、2010年)。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション-なぜ国際関係論 (IR) を学ぶのか-: 理論、行為主体、争点
2. 国家とは何か: 主権、国民国家、弱い国家
3. 国内社会と国際社会: ハイアラーキー、アナーキー、権威
4. リアリズム-悲劇の国際政治-: パワー・ポリティクス、国益、慎慮
5. 構造的リアリズム-覇権が勢力均衡か-: 防衛的 / 攻撃的、相対的 / 絶対的、覇権安定論
6. リベラリズムの諸潮流-協調の国際政治-: 相互依存、制度、デモクラティック・ピース
7. ネオリベラリズム-アナーキーの下での協力-: 合理選択論、国際レジーム、ネオネオ統合
8. 英国学派-多様性と同質性の相克-: アナーキカル・ソサエティ、多元主義、連帯主義
9. コンストラクティヴィズム-現実の社会的構築-: 理念、間主観性、アイデンティティ
10. グローバル社会の到来: 冷戦の終焉、グローバル化、グローバルな市民社会
11. 現代の武力紛争と人道的介入: 内戦、複合緊急事態、R2P
12. グローバル内戦としての対テロ戦争: 先制・予防攻撃、拷問、標的殺害
13. 「核なき世界」は実現可能か: 核抑止、NPT、CTBT
14. 人権をめぐる国際政治: 普遍的人権、移民 / 難民、歓待の倫理
15. わたしたちの世界の行方-Singing our world into existence -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点: 20%
レポート課題ないし小テスト: 30% (授業の初回で説明します)
期末試験: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・資料のプリントを大量に配布します。配布プリントを整理し、授業毎に必ずもってきてください。前もって指示するので、教科書や配布プリントを読んで予習するとともに、配布プリントに記載の設問を解いて復習してください。

国際関係論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

情報量の多い授業です。かなりの集中力を要します。授業を欠席したり、授業中ボーっとしていると、たいへんなことになります。授業にはしっかり出席し、ノートをとってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では現代の国際社会が抱える様々な課題を取りあげ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的側面からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

庄司真理子・宮脇昇編著『新グローバル公共政策』晃洋書房、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済―「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 暴力と平和
- 第2回 国際システムの展開 - 近代から現代へ -
- 第3回 国際連合の役割と機能
- 第4回 貿易・通貨・金融 - プレトン・ウッズ体制 -
- 第5回 超国家機関の試み - EU -
- 第6回 国際レジームとグローバル・ガバナンス
- 第7回 グローバリゼーションと非国家アクター
- 第8回 安全保障概念の変化
- 第9回 大量破壊兵器不拡散レジームと小型武器問題
- 第10回 民主化と人権
- 第11回 ジェンダーの視点で捉える暴力
- 第12回 地球環境問題
- 第13回 貧困問題と開発
- 第14回 エネルギー問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平素から新聞を読んだり、関連の新書を読むように心がけると内容の理解がますます深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

メディア文化概論【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、「メディア」という概念そのものについて考えます。そもそも「メディア」とは、何を意味しているのか？どのようなものなのか？どのような機能をもっているのか？などについて、先行研究をふまえながら考察し、概念そのものの理解を目指します。そして、わたしたちの身の周りにおける具体的な事例を取り上げながら、社会的な文脈の中で、「メディア」というものについて考えていきたいと思えます。

さらに、この講義では、自らが生きる社会について関心を持ち、その関心に基づいて調べ考えようとする姿勢を育てることも目標とします。自らが生きる社会について関心を持ち、自分の力で調べ考える力を習得することを目指します。そのうえで、当たり前にも思っていることを、別の違う視点から見ていく姿勢を身につけることを目標とします。

「授業計画・内容」については、適宜、具体的なトピックを取り上げるため、順序の変更等を行うことがあります。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス 講義の目標などについての説明
- 第2回：「メディア」とは何か？
- 第3回：コミュニケーションとは何か？
- 第4回：メディアはメッセージ？
- 第5回：日本のメディア産業（1）～「テレビ」について考える～
- 第6回：日本のメディア産業（2）～「新聞」について考える～
- 第7回：日本のメディア産業（3）～「広告」「出版」について考える～
- 第8回：日本のメディア産業（4）～「通信」「インターネット」について考える～
- 第9回：世界の巨大メディア資本 ～他の地域のメディアはどうなっているのか？～
- 第10回：メディアへの理論的アプローチ（1）
第一次大戦終結（1920年代）から第二次大戦後（1960年代）まで
- 第11回：メディアへの理論的アプローチ（2）
1960年代以降から現在まで
- 第12回：「ニュース」について考える
- 第13回：「放送禁止」について考える
- 第14回：「考える」ための書き方・読み方・調べ方
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（コメントカード、日常の講義への取り組み）…約20% 学期末レポート約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館経営論・博物館情報論【昼】

担当者名 /Instructor 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館経営論・博物館情報論においては現代博物館の社会的機能を達成するための理論を講義する。博物館法における目的、博物館の定義及び国際博物館会議（ICOM）の博物館の定義を講義する。また、日本の博物館の法的位置付けを講義する。さらに博物館の構成・事業、博物館の学芸員の定義及び仕事内容、展示活動など現代博物館活動の基礎を講義するとともにミュージアム・マネージメント、ミュージアム・マーケティングなどの博物館経営論・情報論の基礎を講義する。

教科書 /Textbooks

博物館関係法令集（日本博物館協会編）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

博物館学教程（大堀 哲 編著、東京堂出版）、博物館学経営論（諸岡 博 著、信山社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、日本の博物館の歴史
- 2、博物館の法的位置
- 3、現代博物館の機能
- 4、博物館の資料
- 5、学芸員の定義と仕事内容
- 6、博物館活動についてI
- 7、博物館活動についてII
- 8、博物館施設についてI
- 9、博物館施設についてII
- 10、ミュージアム・マネージメントI
- 11、ミュージアム・マネージメントII
- 12、ミュージアム・マネージメントIII
- 13、ミュージアム・マーケティングI
- 14、ミュージアム・マーケティングII
- 15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率、筆記試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館資料論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「博物館資料」について、調査・収集・整理・保管・活用という一連の作業を理解する。関連の深い「文化財保護法」などの諸法令についても、その要点を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

網野善教編『博物館学概説』(関西大学出版)
『文化財保護行政ハンドブック—美術工芸編—』(ぎょうせい)
『博物館学講座』全 10 巻(雄山閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 「博物館法」と博物館資料について
- 2 回 文化財保護法の理解①<文化財の種別>
- 3 回 文化財保護法の理解②<文化財の活用>
- 4 回 地方公共団体の文化財保護行政について
- 5 回 資料の調査方法と心構え
- 6 回 資料の収集<目的と方法>
- 7 回 資料の整理方法
- 8 回 資料の保存と管理
- 9 回 資料の研究①<古文書の様式>
- 10 回 資料の研究②<古文書の解読・理解>
- 11 回 資料の取り扱い方法①<梱包方法>
- 12 回 資料の取り扱い方法②<展示方法>
- 13 回 博物館資料の評価方法
- 14 回 博物館資料と指定文化財<関連施設・所有者との連携>
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化財や博物館に関する新聞などの情報に気配りしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

要点は必ずメモするよう心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から物を大事にする習慣を身につけましょう。

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。そこでこの授業では、「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高木侃『三下り半と縁切寺』(講談社現代新書) 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社日本史リブレット) 他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子君』①
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子君』②
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
 国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
 講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
 参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
 参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
 課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
 なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
 詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

国際法I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

国際法II 【昼】

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

博物館実習I【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科, 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「博物館実習I」は「博物館実習II」の事前教育である。実際の館務実習である「博物館実習II」の教育効果を高めるために文学部の担当教員のほか、各種の博物館・美術館で実際に勤務している学芸員の方々をも講師に招き、学内における講義・実習と学外の諸施設および展示の見学とを合わせて行う。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として隔週ごとの土曜日3, 4限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を日曜や休日、休暇期間中に変更することもある。

歴史・民族・考古・美術・自然史・文学等の博物館を訪れる予定。

最初の授業の折にそのおよその授業の計画を説明するので、必ず出席のこと。

学外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。

また見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%(授業態度、日誌、プレゼンテーションなどを総合的に判断する)。理由如何を問わず3回以上欠席は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習科目なので欠席は原則として認めない。万が一欠席した場合は、見学を各自でおこない日誌を書くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館実習II 【昼】

担当者名 /Instructor	五月女 晴恵 / 比較文化学科, 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科, 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科											
履修年次 4年次 /Year	単位 2単位 /Credits	学期 1学期 (ペア) /Semester	授業形態 実習 /Class Format	クラス 4年 /Class								
対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館務実習です。実習は本学が委託した博物館・美術館で実施されますが、指導学芸員はじめ館員の方すべてが、激務のなかで時間を割いて機会を作ってください初めて実現しており、決して迷惑を掛けるようなことがあってはなりません。ことに取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品です。当然慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれます。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分5～10日間(合計45時間以上)を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行います。

「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位を修得していなければなりません。

イ、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論
ロ、教育原理(比較文化学科の学生)・教育学概論(人間関係学科の学生)
ハ、選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行います。説明会に欠席した場合は履修できません。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事があります。館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとします。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%(授業態度、日誌、プレゼンテーションなどを総合的に判断する)。理由如何を問わず3回以上欠席は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

真摯な姿勢をもって実習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下の通りである。

- ① 学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する包括的な知見を修得すること。
- ② 指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得すること。
- ③ 教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養うこと。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 【新編】新しい社会 公民東京書籍
- 【新編】新しい社会 歴史東京書籍
- 【新編】新しい社会 地理東京書籍
- "社会科 中学生の地理 世界のなかの日本(初訂版)"帝国書院
- "社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き(初訂版)"帝国書院
- "社会科 中学生の公民 地球市民をめざして(初訂版)"帝国書院
- 中学校社会科地図 帝国書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 地理的分野の目標とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題 (グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 学習指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育 [戦前・戦後の教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 . . . 30%
 レポート . . . 40%
 学習指導案 . . . 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を熟読しておくこと

履修上の注意 /Remarks

社会科学教育法 A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、一学期の社会科教育法Aの授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科教師としてのより実践的な指導力の育成と、社会科教師としての使命感の育成をめざす。

なお、本授業では中学校社会科だけでなく、高等学校の「地歴科」「公民科」の内容と中学校社会科の内容との関連についても取り扱う。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【新編】新しい社会 公民東京書籍

【新編】新しい社会 歴史東京書籍

【新編】新しい社会 地理東京書籍

"社会科 中学生の地理 世界のなかの日本(初訂版)" 帝国書院

"社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き(初訂版)" 帝国書院

"社会科 中学生の公民 地球市民をめざして(初訂版)" 帝国書院

中学校地図帳 帝国書院

高等学校学習指導要領 「地歴」

高等学校学習指導要領 「公民」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 学習指導案の作成と問題点 その1
- 7回 学習指導案の作成と問題点 その2
- 8回 模擬授業 その1 導入
- 9回 模擬授業 その2 展開
- 10回 模擬授業 その3 発問の工夫
- 11回 模擬授業 その4 資料提示と板書作成
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 13回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 14回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 15回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑 ... 30%
応答での絶対
評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジюмеや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科教育法B 【昼】

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 4年 /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 学級経営について	【学級集団づくり】【学級通信】
6回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
9回 生徒の人権と教育	【人権】【自尊感情】
10回 参加型授業の実践	【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学・高校)	【授業構成】【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校)	【授業構成】【展開】
14回 模擬授業③(中学・高校)	【授業構成】【練習】【応用】
15回 模擬授業④(中学・高校)	【指導技術】【発問】【説明】【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から敗戦（1945）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【維新の三傑】
- 第3回 不平等条約と条約改正
- 第4回 明治14年政変と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第5回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第6回 明治憲法体制【伊藤博文】
- 第7回 日露戦争【山県有朋】
- 第8回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第9回 21カ条要求【大隈重信】
- 第10回 原敬と協調外交【原敬】
- 第11回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第12回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第13回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【東条英機】【吉田茂】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって - 問題の出発点
- 2回 家族制度の歴史
- 3回 家族の機能
- 4回 ハードウェアとしての家族
- 5回 システムとしての家族① - しつけ・教育
- 6回 システムとしての家族② - 役割・役割分担
- 7回 システムとしての家族③ - 勢力・権威
- 8回 現代家族の課題① - 離婚の原因
- 9回 現代家族の課題② - 離婚制度
- 10回 現代家族の課題③ - 中高年の離婚
- 11回 現代家族の課題④ - 夫婦間暴力
- 12回 現代家族の課題⑤ - 児童虐待
- 13回 現代家族の課題⑥ - 家族の危機
- 14回 現代家族の課題⑦ - 高齢社会と家族
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。
(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかで育まれたものである。グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なるものであり、その違いを理解するのが困難なこともある。本講義では、その違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、自分なりの姿勢を身に着けるための手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化
第2回 異文化理解とは
- 第3回 家族は普遍的か？
第4回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回 ジェンダー
第7回 伝統と普遍的価値観
- 第8回 中間試験 / 経済活動に見る文化①：導入
第9回 経済活動にみる文化②：贈与・交換とは
第10回 経済活動にみる文化③：現代の贈与・交換
第11回 開発の現場における「文化の差異」
第12回 「貧しさ」とは何か
- 第13回 中間試験の講評 / 文化と世界観①：儀礼
第14回 文化と世界観②：宗教・呪術・占い

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 20%、期末試験 80% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。2年次以上対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、世界観、経済活動、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (6) 【近代科学の勃興】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界論のはじまり【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著、ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体に行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(1) (ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(2) (ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(1)
- 9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(2)
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(鬼ごっこ、ドッチビー)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(レクリエーション要素の高いバドミントン)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(卓球バレー)
- 13回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(1)
- 14回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実習には、ハードな動きのスポーツは含んでいませんので、楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く
- 第3回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第4回 学習指導案の発表①
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表②
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①
- 第9回 模擬授業と相互観察②
- 第10回 模擬授業と相互観察③
- 第11回 模擬授業と相互観察④
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講していること、②社会科教育法ないしは公民科教育法を受講していること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

自然学のまなざし (人間と生命) 【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学 第二版 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011 (羊土社)
 - 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年 (NHK出版新書)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 からだの構成単位・細胞【細胞内小器官】【核】【細胞膜】
- 3回 個体はどのようにつくられていくか【発生】【分化】
- 4回 細胞はどのように増えるか【細胞分裂】【染色体】
- 5回 遺伝子の名前と由来【変異体】【遺伝病】
- 6回 遺伝子とは何をするものか【遺伝暗号】【タンパク質】
- 7回 遺伝子で決まるもの・決まらないもの【ゲノム】【遺伝子発現】
- 8回 遺伝子の働きはどうやって知るのが【疾患モデル動物】
- 9回 細胞の寿命と個体の老化【テロメア】【iPS細胞】
- 10回 細胞にとっての情報【受容体】【ホルモン】
- 11回 細胞社会とその反逆者【がん細胞】【細胞死】
- 12回 生体防御とそのしくみ【免疫】【抗体】
- 13回 映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加40% (質問やコメントの内容で評価する)、確認のための小テスト (2〜3回実施) 30%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

くらしと化学【夜】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

そのためにまず化学と身近な問題の関係を学習し、そのかわりから化学への興味をもち、そして化学的知識の理解・習得に至る過程に関わることがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)
¥2,310円 1996年09月発行 ISBN 978-4-621-04227-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) \2200、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「沈黙の春」R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1化学の基礎
- 2砂糖と甘味料
- 3アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 4コレステロール、その働き
- 5脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 6くすり その1・・・毒と薬は紙一重
- 7くすり その2・・・その開発と副作用
- 8原子力と放射性物質 (教科書外)
- 9洗剤・・・洗淨、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10洗剤・・・洗剤と環境問題 (教科書外)
- 11塩化ビニルとダイオキシン・・・プラスチックと高分子の歴史
- 12塩化ビニルとダイオキシン・・・化学汚染と環境問題史
- 13二酸化炭素その1・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 14二酸化炭素その2・・・二酸化炭素の地球循環
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむ終えない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりゃ「その気」にさせる】「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概説(続)
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講義は、現代において生起しているそのような様々な問題の幾つかを取り上げ、それらを正確に理解したうえで問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、「現代正義論の展望」(重松)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「障害のある人の権利 — ADAを中心にして」(植木)
- 第4回 「ドメスティック・バイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「裁判員制度」(山本)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「株式会社とは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「行政活動の実効性」(福重)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「現代型商取引から生じる法律問題」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。

- ①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
- ②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。
- ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。
- ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
- ⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

キーワード /Keywords

現代社会 諸問題

国際社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）【植民地支配】
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）【冷戦】【民団と総連】
- 第8回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【エスニシティ】
- 第10回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会④【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸は三つある。第一は政治面の軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が主な内容である。第二が経済面の軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』第3版(有斐閣 2010年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【バブル経済】【冷戦の終結】
- 第14回 冷戦後の日本外交【小泉政権】【民主党政権成立】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、小林道彦『見玉源太郎』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【伊藤博文】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵【原敬】
- 第6回 山東出兵(1)【田中義一】
- 第7回 山東出兵(2)【張作霖】
- 第8回 満州事変(1)【石原莞爾】
- 第9回 満州事変(2)【牧野伸顕】
- 第10回 日中戦争(1)【近衛文麿】
- 第11回 日中戦争(2)【蒋介石】
- 第12回 太平洋戦争(1)【松岡洋右】
- 第13回 太平洋戦争(2)【東条英機】
- 第14回 太平洋戦争(3)【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 義兄の死 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義には、二つの柱がある。ひとつは、「都市と農村」あるいは「都会と田舎」という区分が、現代社会において、どのような繋がりや存在意義を持っているのかを明らかにすることである。もうひとつは、「世間」というものが、現代の私たちの生活を無意識のうちに律していることを自覚し、その存在理由を文化的に分析することである。

授業においては、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない人々の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 何気ない普段の生活を意識する
- 第2回 はじめに「都市の誘惑」都市と農村のリズム
- 第3回 「世間とは」気づかない日常の拘束力
- 第4回 「言葉の威力」言葉から都市と農村を見る
- 第5回 「新しい世間」電子メディアと文化均一化
- 第6回 「稲の魂」農村と神
- 第7回 「都市と御霊」都市の間と光
- 第8回 「祭と祭礼」都市の指標としての祭礼
- 第9回 「都会の身体 / 田舎の身体」身振りと文化
- 第10回 「人気(じんき)」国民性・県民性 集合的無意識
- 第11回 「都会のハビトゥス1」出会いと社交の技法
- 第12回 「都会のハビトゥス2」結集の技法
- 第13回 「都会のハビトゥス3」不文律の妙
- 第14回 「都市の威力」博多山笠に見る文化伝播
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近なところから問題点を発見し、自ら分析し、解決する。この知的技法の基本を楽しく伝えていきたいと思います。

キーワード /Keywords

日本民俗学 柳田國男 世間 世間体 空気を読む 文化伝播 伝統と創造 都市祭礼 フィールドワーク

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、日本・アメリカ・ヨーロッパの代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、ヨーロッパについては1930年代の世界恐慌とそれを打開しようとしたアメリカのルーズベルト大統領のニューディール政策、ドイツのヒットラーのナチス経済、世界恐慌を救済する理論を考案した経済学者M. ケインズ。ケインズ政策を使って昭和恐慌を救った高橋是清について述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていなとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 日本、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 永遠の繁栄のアメリカと賠償支払い問題で苦境のドイツ
 - 第2回 1929年世界恐慌の構造
 - 第3回 ルーズベルト大統領とニューディール政策
 - 第4回 ヒットラーとナチス経済
 - 第5回 M ケインズと不況の経済学「一般理論」
 - 第6回 高橋是清と昭和恐慌
 - 第7回 サッチャーの経済政策とバブル経済
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世的日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 「外国」になった沖縄
- 第13回 「大帝国日本」の解体
- 第14回 「日本人」の戦後問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、更にはそれを通じて東アジア諸地域の今後の在り方を自らで模索することの出来る能力を養うことを目指す。なお一般的に中国の歴史というと、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収・同化しつつ変容を繰り返しているのである。また、近隣諸地域もその影響を受けつつオリジナルな国家形成を行ってきているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。よってここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐の世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく東アジアという包括的視座に置いて各時代の政治・思想・外交・文化等の多角的な面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度... 20%・定期試験... 80%
(講義では毎回感想カードを配布回収する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては特になし。
復習としては講義中に適宜紹介するものを読んで理解を深めることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界史・東洋史に初めて触れる人にも理解しやすい講義を心がけたいと思います。
先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 : 集合意識と行為
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 : 『自殺論』
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1 : 理解社会学
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2 : 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシティ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシティ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では世界的視野で自然的要素の諸相を明らかにし、自然的条件が人間および人間社会に及ぼす影響を及ぼすかを世界の様々な地域を事例を挙げて検討する。さらに日本において生活の基礎的条件としての自然的条件が人間生活に影響を及ぼしている事例を検討する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
2. 世界の自然 - 気候、地形、地震
3. 世界の自然と農業 - 農業様式と景観
4. 未開発地域の人々の生活
5. 氷雪地域における人間の生活 - シベリア・オイミヤコン
6. 熱帯地域における人間の生活 - 酷暑地域
7. 乾燥地域における人間の生活 - アタカマ砂漠
8. 西ヨーロッパの気候と人間の生活 - イギリス、ドイツ、スペインなど
9. 世界最多雨地域における人間の生活 - マガラヤ
10. 日本の自然条件 - 気候、地形、陸水
11. 日本における気候と農業、生活
12. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 氷河性海面変動と沖積層
13. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と地盤沈下
14. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と工業立地
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

機構、地形、極寒地域、酷暑地域、温暖地域、氷河性海面変動、沖積層

土地地理学 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院 3,675円)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書 2,625円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域を対象としてとりあげ、「社会的環境の変化と地域の変化」をテーマとする。産業構造の変化、交通の変化、自治体の再編成が地域にどのような変化をもたらすかを明らかにする。
ビデオなども使い、具体的なイメージが湧くように努めたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)はじめに～地理学とは、地誌とは
- (2)産業構造の変化と地域① - 製鉄業の再編成と地域の変貌 (北九州、釜石、福山など)
- (3)産業構造の変化と地域② - 自動車産業の再編成と地域の変貌 (座間、豊田、荻田など)
- (4)産業構造の変化と地域③ - 造船業の再編成と地域の変貌 (下関、因島など)
- (5)産業構造の変化と地域④ - エネルギー革命と地域の変貌 (宇部)
- (6)産業構造の変化と地域⑤ - エネルギー革命と地域の変貌 (夕張)
- (7)交通の変化と地域の変貌① - 道路輸送、鉄道輸送の整備と地域の変貌 (農業地域、一戸、飯田など)
- (8)交通の変化と地域の変貌② - 高速交通網の整備と地域の変貌 (観光地、角館、小布施、湯布院など)
- (9)交通の変化と地域の変貌③ - 橋、トンネルの開通と地域の変貌 (下関、高松、函館、青森など)
- (10)交通の変化と地域の変貌④ - 空路輸送、海上輸送の整備と地域の変化 (ハブ港とフィーダー輸送)
- (11)自治体の再編成と地域の変貌① - 何のための自治体の再編成か
- (12)自治体の再編成と地域の変貌② - 山口県における自治体再編成と下関市の合併
- (13)自治体の再編成と地域の変貌③ - 合併しなかった自治体について (福島県矢祭町、長野県栄村など)
- (14)自治体の再編成と地域の変貌④ - 合併しなかった自治体について (山口県阿武町)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域、産業再編成、交通変化、自治体再編成、製鉄業、自動車産業、造船業、エネルギー革命、高速交通網

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【概説】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 5回 哲学と倫理 (4) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 6回 哲学と倫理 (5) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ヘレニズム期】
- 7回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【古代イスラエルの宗教】
- 8回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 9回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 10回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理【キリスト教の発展】
- 11回 近代倫理学の誕生 (1) 【イギリス経験論】
- 12回 近代倫理学の誕生 (2) 【契約説】
- 13回 近代倫理学の発展 (1) 【カント】
- 14回 近代倫理学の発展 (2) 【功利主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 学期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 . 夜間主コース /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 /Class 夜間主コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう
な項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく
と受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	リスニング プレテスト、リーディング	ユニット1
3回	リスニング ユニット1、リーディング	ユニット2
4回	リスニング ユニット2、リーディング	ユニット3
5回	リスニング ユニット3、リーディング	ユニット4
6回	リスニング ユニット4、リーディング	ユニット5
7回	リスニング ユニット5、リーディング	ユニット6
8回	リスニング ユニット6、リーディング	ユニット7
9回	リスニング ユニット7、リーディング	ユニット8
10回	リスニング ユニット8、リーディング	ユニット9
11回	リスニング ユニット9、リーディング	ユニット10
12回	リスニング ユニット10、リーディング	ユニット11
13回	リスニング ユニット11、リーディング	ユニット12
14回	リスニング ユニット12、リーディング	まとめ
15回	全体のまとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 比人夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 比人夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：世界から見た日本
ねらい：英語教材を通して、世界における日本のあり方や、日本が抱える課題、日本文化と他の文かの異同について考える。

教科書 /Textbooks

Takemura, Hideo et al. 2012. The World Watches Japan. Nan'Un-do.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 Unit 15

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音 (1)
3. 子音 (1)
4. 子音 (2)
5. 子音 (3)
6. 子音 (4)
7. 子音 (5)
8. 母音 (2)
9. 終声 (1)
10. 発音の変化
 11. 日本語のハングル表記方法
 12. ~は~ですか？【指定詞の丁寧形・疑問①】
 13. ~は~です。【指定詞の丁寧形】
 14. ~は~ではありませんか？【指定詞の丁寧形・疑問②】
 15. ~は~ではありません。【指定詞の丁寧形・否定】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』(叢基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、 白水社) 定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ、
2. 【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 【漢数詞】
4. 【固有数詞】
5. ～ですか?～ますか?【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
6. ～です、～ます。【動詞と形容詞の丁寧形】
7. ～ません、～くありません。【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
8. ～ですか?【指定詞の打ちとけた丁寧形】～ではありません。【指定詞の打ちとけた丁寧形・否定】
9. ～です、～ます。【動詞と形容詞の打ちとけた丁寧形】
10. 【尊敬表現】
11. 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
12. 【動詞と形容詞の打ちとけた丁寧形・過去】
13. 【意思・推量・婉曲表現】
14. 【願望表現～したい】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 基本文字について【基本母音と基本子音①】
2. 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
3. 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
4. パッチム【終声①】
5. パッチム【終声②】
6. 発音のルール【連音化】【濃音化】
7. 発音のルール【激音化】【鼻音化】
8. 単語と音の変化【その他の発音法則】
9. 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形・疑問】
10. 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形・否定】
11. 自己・物を紹介する時の表現②（～といます）
12. 存在の有無を尋ねる時の表現①（～がありますか？～いますか？）【存在詞のうちとけた丁寧形・疑問】【場所をあらわす助詞】
13. 存在の有無を尋ねる時の表現②（～に～があります。います）【存在詞のうちとけた丁寧形】【時を表す単語および助詞】
14. 存在の有無を尋ねる時の表現③（～に～があります。います）【存在詞のうちとけた丁寧形】【位置を表す単語および助詞】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 「これは何ですか?」②【指定詞の打ちとけた丁寧形】
4. 「日曜日に何をしますか?」①【固有数詞】【曜日】【時間】【動詞のうちとけた丁寧形】
5. 「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【助数詞】【月日】【電話番号】
6. 「日曜日に何をしますか?」③【一週間の予定】
7. 「何が好きですか?」①【動詞と容詞のうちとけた丁寧形・否定】
8. 「何が好きですか?」②【目的/～しに行く・来る】
9. 「何が好きですか?」③【動詞・形容詞の変則】
10. 「週末に何をしましたか?」①【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
11. 「週末に何をしましたか?」②【願望表現～したい】
12. 「週末に何をしましたか?」③【接続表現/～(し)て】【確認表現/～じゃないですか?】
13. 「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現/～するつもりです】【推測表現/～でしょう】
14. 「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現/～しています】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks
 「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
 「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
 (欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。フランス語Ⅳとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』(白水社、2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 あいさつ(1):自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2):お元気ですか?
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3):人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。フランス語Ⅲとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』(白水社、2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「〜できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 規則動詞(1)の活用と基本表現
- 5回 動詞estar、重要な不規則動詞
- 6回 形容詞 不規則動詞serを用いた基本的表現
- 7回 規則動詞(2)の活用と基本表現
- 8回 規則動詞(3)の活用と基本的表現
- 9回 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 人称代名詞の目的格と基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のブラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(~が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

現在調整中である。遅くなった場合には、初回の講義で書名等を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 小テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論【夜】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合，メディアを介したコミュニケーション，機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え，メディアによるコミュニケーション，機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

1. 松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」の理解。
2. 実験心理学の枠組みと、統計基礎の理解。
3. 基礎から臨床まで、心理学が分断されたものではなく、一続きだというイメージを持つ。
4. 心理学が生活や社会問題に活用できることの理解。

教科書 /Textbooks

松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西林克彦『わかつたつもり』光文社
- 吉井博明『情報化と現代社会（改訂版）』北樹出版
- 加藤隆『認知インタフェース』オーム社
- 海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 コミュニケーションとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 わかりやすい文章
- 5回 実験計画の理解と表やグラフの読み方
- 6回 スキーマによる対人認知
- 7回 ノンバーバルコミュニケーション
- 8回 対人距離
- 9回 メディアコミュニケーション
- 10回 Computer Mediated Communication
- 11回 ヒューマンインタフェース
- 12回 人と機械とのコミュニケーション
- 13回 医療事事故を心理学の視点から紐解く
- 14回 言いたいことをうまく伝えるコミュニケーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。

評価は、試験の結果のみで行います。

試験は、全て持ち込み可とします。

講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。（含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります）

欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。

その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。
- 「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの人は絶対に受講しない方が良い」
- 「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」
- 「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般の人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」
- 「心理学が生活に関連していることがわかる」
- 「心理学が役に立つものだとわかる」
- 「就活に使えるネタが集まる」
- 「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」
- 「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」
- 「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけないので覚悟すべし」
- 「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」
- 「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」
- 「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達【愛着の個人差、世代間伝達】
- 第8回 共同注意と言語発達
- 第9回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第10回 児童期における社会性の発達
- 第11回 青年期における論理的思考の発達
- 第12回 アイデンティティの模索【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期・老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会意識論 【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の日常の生活のなかでは、人間の意識のほとんどは、個人的なもののように見える。しかし、我々の道徳意識や美意識等が、主に家族等、様々な集団を通して内面化されているものであることから分かるように、意識（無意識も含めて）とは極めて集合的なものであり、歴史的なものである。また、人間の思考の多くの部分は、社会的なものである言語によって支配されている。本講義においては、社会的なものとしての意識（無意識）が、「不確実性」という特徴を次第に強める現代社会のなかで、内なる自然としての身体を持つ「個人」とおとして、どのように社会化され、さらに変容してゆくのかを考える。

教科書 /Textbooks

特になし（レジュメ資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）2500円
J・リッツァ『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版会（1999年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 【意識】とは何か
 - 2回 言語と意識との関係について
 - 3回 現象学は意識をどう捉えてきたか
 - 4回 構成主義、【構築主義】の社会学は意識をどう捉えてきたのか
 - 5回 【近代化】と意識1（E・デュルケムにとっての「意識」）
 - 6回 近代化と意識2（M・ウェーバーにとっての「意識」）
 - 7回 M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』解説
 - 8回 【個人主義化】と意識1（フロム、リースマン、ベラー論）
 - 9回 【ポストモダン】化と意識（ポストモダニズム論、ギデンズ論）
 - 10回 【消費社会化】と意識1（リッツァーの【マクドナルド化】論）
 - 11回 消費社会化と意識2（「デイズニー化」と意識）
 - 12回 日本人と意識の歴史1（戦後～70年代）
 - 13回 日本人と意識の歴史2（70年代以降）
 - 14回 現代社会の「不確実性」と現代人の意識
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題30% 試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学 【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の前半においては現代文化の特徴についての諸理論、諸分野を解説し、後半（4回程度）はその応用領域として観光文化について、主に理論的に講義をする。本講義では文化を、「真/偽」「美/醜」「善/悪」等の基準はカッコに入れ、それらの基準を成り立たせているメカニズムとして、分析的に考える。

教科書 /Textbooks

特になし（レジュメ資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）2500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- （【 】はキーワード）
- 1回 【文化】とは何か（【イメージ】の生産とイメージの解釈・消費のしくみについて）
 - 2回 【近代化】と文化1（M・ウェーバーの近代化論を中心に）
 - 3回 儀礼と世俗化（V・ターナーの通過儀礼論、PLバーガーの世俗化論を中心に）
 - 4回 現代文化における実在と記号（イメージの生産とイメージの消費についての近代システム）
 - 5回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化1 建築、絵画
 - 6回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化2 絵画・写真
 - 7回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化3 映画（鑑賞）
 - 8回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化3 映画
 - 9回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化2 文学・哲学
 - 10回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化2 音楽
 - 11回 現代社会と表象システム
 - 12回 【観光】文化とは何か（近・現代社会と場所の消費としての観光について）
 - 13回 日常世界の観光化と観光の日常化（テーマパークとモールについて）
 - 14回 観光とアイデンティティの政治学
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題30% 試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

11回以降では、指定された参考書に従って授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要になる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント(講義レジュメ・資料)を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【夜】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に關する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 進路指導の場面を想定してのロールプレイ実習
- 14回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、進路指導

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法等を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案の作成
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 学校行事の指導計画案の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

健康科学【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 健康指標
- 4回 健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 休養・こころの健康づくりと健康
- 9回 睡眠
- 10回 タバコ・アルコールと健康
- 11回 ヘルスプロモーション
- 12回 産業保健(1) VDT作業
- 13回 産業保健(2) 腰痛予防
- 14回 産業保健(3) メンタルヘルス
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

身体スポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】、【運動の必要性】
 - 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動
 - 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
 - 5回 運動神経について【運動センス】
 - 6回 " 【遺伝】
 - 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
 - 8回 " 【運動軸】、【調整能力】
 - 9回 " 【思春期】、【成熟期】
 - 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】
 - 11回 筋線維の種類と特性
 - 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
 - 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
 - 14回 スポーツ指導【コーチング】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。
現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つかれば嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード
【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】
【アスリート】、【競技スポーツ】

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2 回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3 回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育、学校体系等
- 4 回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5 回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6 回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7 回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8 回 教育課程の意義と編成 (1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9 回 教育課程の意義と編成 (2) 学校の教育課程編成
- 10 回 学校における教育課程経営
- 11 回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12 回 教育課程の評価
- 13 回 教育課程の開発
- 14 回 今日の課題と教育課程
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者名 /Instructor 村田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康と疾病、医療と医学、医療制度、現代医療の抱える諸問題、さらに現在トピックスとなっている疾患や医療関連の諸問題について解説する。

教科書 /Textbooks

『人体の構造と機能及び疾病』（中央法規）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	人の成長・発達と老化：	身体の成長・発達、精神の成長・発達、老化
2～3回	身体構造と心身の機能：	人体部位の名称 各器官の構造と機能
4～7回	疾病の概要：	生活習慣病、メタボリックシンドローム、日本人の三大死因疾患、 感染症、神経・精神疾患、先天性疾患、難病、高齢者と疾患等 終末期医療と緩和ケア
8～9回	障害の概要：	身体障害、知的障害、発達障害、 精神障害・認知症・高次脳機能障害
10～11回	リハビリテーションの概要	
12回	国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要：	国際障害分類 (ICDH) から国際生活機能分類 (ICF) へ
13～14回	健康のとらえ方：	健康の概念とプライマリヘルスケア、日本の人口統計 人口の高齢化と家族、国民健康づくり対策、感染症対策等
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

適切な方法論にそった社会調査とその分析結果は、社会に生きる人々の全体的な意識や問題意識を把握することができる。本講義では、社会調査の基礎について学ぶことを目的とする。社会調査についての基礎的な概念の理解や、調査にあたって適切な方法論を選択するための問題設定について学びながら、実際の資料を用いての分析も試みる。

教科書 /Textbooks

大谷信介(共編),1999,『社会調査へのアプローチ：論理と方法』 ミネルヴァ書房
佐藤郁也,2002,『フィールドワークの技法』 新曜社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安田三郎,1960,『社会調査ハンドブック』 有斐閣
Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (共編),2006,『質的研究ハンドブック第1巻・第2巻』 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 社会調査とは何か
- 02回 量的調査—アンケート調査の実際 【アンケート調査】
- 03回 量的調査—アンケート調査の実際 【測定尺度】
- 04回 量的調査—アンケート調査の実際 【調査統計】
- 05回 度数分布【階級】【相対度数分布】
- 06回 分散と標準偏差【平均】【分散】
- 07回 分散と標準偏差【標準偏差】
- 08回 分散と標準偏差【信頼区間】
- 09回 分散と標準偏差のまとめ・小テスト
- 10回 相関関係【単相関係数の推定・検定】 t 検定【母平均の検定】【対応あり・なし】
- 11回 カイ2乗検定【帰無仮説】【有意水準】
- 12回 分散分析【分散分析表】【F分布】【主効果】【交互作用】
- 13回 質的調査—フィールドワークとは何か【フィールドワーク】
- 14回 フィールドワークの方法論【参与観察】【インタビュー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20% 小テスト・・・30% 期末試験・・・50%
5回以上の欠席があった場合は、課題提出及び期末試験の受験資格を失うものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

耳慣れない言葉が毎回出てきますので、都度習熟の上で次の講義に望んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 非常勤:未定
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。
 そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。
 しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。
 そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6 ケースワークの諸過程01
- 7 ケースワークの諸過程02
- 8 ケースワークの諸過程03
- 9 面接技法01
- 10 面接技法02
- 11 事例演習01
- 12 事例演習02
- 13 事例演習03
- 14 事例演習04
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソーシャルグループワークは、ソーシャルワーカーが、グループメンバーの相互作用やプログラム活動を意図的に活用することによって、グループの発達ひいてはメンバー1人ひとりの成長や問題解決を援助する技術である。ソーシャルグループワークの歴史の変遷、原則、展開方法について概観すると共に、演習によって集団の力動を体験することによって、グループワークを展開するために必要となる実践的な援助技術の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません(適宜レジュメを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・「社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」中央法規出版 2730円
- ・「グループワーク論」 ミネルヴァ書房 大塚達雄・硯川真旬・黒木保博 2310円
- ・「グループワーク」 勁草書房 大角一雄 2400円
- ・「グループワークの専門技術」 中央法規出版 黒木保博、横山穰、水野良也、岩間伸之 2625円
- ・「セルフヘルプ運動と新しいソーシャルワーク実践」 中央法規出版 岩田泰夫 3570円
- ・「セルフヘルプグループ」 星和書店 岡 知史 1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ソーシャルグループワークを学ぶために
- 2回 人と人が関わることの意義とかわりがもたらすもの
- 3回 人間の発達に果たす集団の役割
- 4回 「集団という場」で働く不思議な力
- 5回 リーダーシップの構造と機能【ソーシャルワーカーに求められるリーダーシップ】
- 6回 グループワークの歴史、定義、原則
- 7回 ソーシャルワーカーの自己覚知
- 8回 グループワークの構成要素
- 9回 グループワークの展開過程1 【準備期におけるワーカーの役割と技術】
- 10回 グループワークの展開過程2 【開始期におけるワーカーの役割と技術】
- 11回 グループワークの展開過程3 【作業期におけるワーカーの役割と技術】
- 12回 グループワークの展開過程4 【終結・移行期におけるワーカーの役割と技術】
- 13回 セルフヘルプグループのもつ力とその活用方法
- 14回 ソーシャルワーカーの自己活用のために 【ソーシャルワーカー自身のエンパワメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・30% 課題・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中央法規出版の「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」の集団援助技術の章をあらかじめ読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、様々なワークやディスカッションを用いて参加体験型で行う予定です。受講者の授業への積極的参加を希望します。

キーワード /Keywords

グループダイナミクス、シェアードリーダーシップ、相互援助システム、自己覚知、エンパワメント

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

難波利光・田中裕美子著『福祉財政と労働(仮題)』ふくろう出版 2012年3月 予価2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能 1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能 2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能 3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制 1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制 2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制 3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地の小さな運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換する時代となった。本科目では公的介護保険の動向も視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学習する。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第2版」 ISBN974-4-8058-3258-5

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営のベースである理念・使命を理解しながら、福祉ニーズとサービスの提供、そしてそれを支える具体的な福祉施設の経営を理解する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名
/Instructor

坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。

国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の小レポート(30%) + 課題(20%) + 期末試験(50%) = 合計100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者に対する支援と介護保険制度1では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、高齢者福祉の対象及び理念、制度・政策及び介護保険法成立のまで歴史的経緯の理解を目的とする。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2012年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、人口構成高齢化の現状
- 第2回 現代社会と人口減少、少子・高齢化問題
- 第3回 高齢者の生活と社会
- 第4回 高齢者福祉の歴史的経緯 1【福祉六法成立まで】
- 第5回 高齢者福祉の歴史的経緯 2【ノーマリゼーション】
- 第6回 高齢者福祉の歴史的経緯 3【ゴールドプラン】
- 第7回 介護保険制度の経緯【措置から契約へ】
- 第8回 高齢者の生活実態二ーズ
- 第9回 介護の概念と介護予防 1【理念】
- 第10回 介護の概念と介護予防 2【ケアマネジメント】
- 第11回 高齢者ケアの実際 1【認知症】
- 第12回 高齢者ケアの実際 2【終末期ケア】
- 第13回 高齢者福祉関係の法制度 1【老人福祉法】
- 第14回 高齢者福祉関係の法制度 2【医療関係の法制度】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% 授業態度 20% 授業への参加(レポートなど) 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 では、各論として介護保険制度及び関連する法制度、介護予防やケアマネジメントの理解をねらいとする。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2012年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第 2 回 介護保険制度の仕組み 1 【対象】
- 第 3 回 介護保険制度の仕組み 2 【介護保険法】
- 第 4 回 介護保険制度の仕組み 3 【財政、動向と課題】
- 第 5 回 介護保険制度の運営 1 【組織及び団体の役割】
- 第 6 回 介護保険制度の運営 2 【組織及び団体の役割】
- 第 7 回 介護保険制度の運営 3 【組織及び団体の役割】
- 第 8 回 地域包括支援センターの役割 1 【介護予防、ケアマネジメント】
- 第 9 回 地域包括支援センターの役割 2 【地域支援事業】
- 第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法
- 第11回 高齢者福祉制度と関連法 1 【老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律】
- 第12回 高齢者福祉制度と関連法 2 【老人虐待防止法、権利擁護】
- 第13回 高齢者の生活と地域福祉
- 第14回 高齢者福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% 授業態度 20% 課題の提出 (レポートなど) 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【夜】

専門教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、児童福祉実施機関、児童福祉施設などの種類、目的、機能などは、視聴覚機材などを用いて、その実際が理解しやすいようにしたい。

教科書 /Textbooks

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉法】【母子及び寡婦福祉法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害児】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ワーキングプア、ネットカフェ難民、多重債務者、DV、児童虐待、自殺、過労死、孤独死、派遣切り、ホームレス、家庭と地域社会の崩壊など、近年の国民生活の状況を見ると、多様で新しい形態の貧困と生活不安を抱えるに至っているといわなければならない。国民の生活困窮の解消と生存権の保障に取り組む諸制度について以下の目的に従って講義を行う。

1. 生存権とそれを保障する公的制度の意義について理解する。
2. 生活保護法制度および生活保護に係る他の法制度について理解する。
3. 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。
4. 低所得階層の生活実態とこれをとりまく社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
5. 社会経済的背景の動向と公的扶助の展望について考察する。

教科書 /Textbooks

岩田正美、杉村宏、岡部卓「公的扶助論」ミネルヴァ書房
パワーポイント資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田 正美著「現代の貧困」ちくま新書
社会保障法学会編「ホームレス施策と社会保険の現代的課題」法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 生存権と福祉国家における公的扶助の意義と役割
2. 貧困問題の歴史と現代的貧困
3. 世界および日本における公的扶助の歴史
4. 生活保護の基本原則と実施上の原則
5. 生活保護法による保護の種類・範囲・方法
6. 生活保護基準と生活保護制度の運用
7. 生活保護の実施機関、保護施設、財源
8. 生活保護行政の体系と福祉事務所の活動、被保護者の権利
9. 生活保護における援助活動、保健医療、労働政策など関連機関・専門職との連携
10. 非保護層の動向と課題、生活保護費と保護率の動向
11. 母子世帯と児童扶養手当制度
12. 生活福祉資金貸付制度と他の低所得政策
13. ホームレス自立支援政策の概要
14. 低所得・貧困層に対する自立支援プログラムの目的、実際と課題
15. まとめ-生活保護制度と公的扶助制度の改革の展望

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代の貧困問題と社会問題について各自自分なりに調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 医療保険制度の概要
- 第2回～第3回 医療費に関する政策動向
- 第4回～第5回 保健医療サービスの概要
- 第6回 保健医療対策の概要
- 第7回～第12回 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際【医師の役割、医療ソーシャルワーカーの役割、医療職の連携等】
- 第13回～第14回 地域の社会資源との連携
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講の態度・参加度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【夜】

担当者名 /Instructor シラバス作成しない

履修年次 4年次 単位 6単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学演習B-2の作業に基づいて、最終的に卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 卒業論文の計画
- 2回 調査研究の分担発表と討論
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 現地調査
- 5回 現地調査
- 6回 調査研究の分担発表と討論
- 7回 調査研究の分担発表と討論
- 8回 卒業論文執筆指導
- 9回 卒業論文執筆指導
- 10回 現地調査
- 11回 卒業論文執筆指導
- 12回 卒業論文執筆指導
- 13回 論文発表準備作業
- 14回 論文発表練習
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回 社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回 集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回 自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回 発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
- 第7回 乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
- 第8回 生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
- 第9回 発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
- 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
- 第11回 パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第12回 パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
- 第13回 不応の理解と援助①【発生機序】【防衛機制】【不安】
- 第14回 不応の理解と援助②【心理アセスメント】【ラポール】【傾聴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
- 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
- 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
- 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
- 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 6回 社会福祉の思想の独自性と重要性【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 9回 社会福祉の歴史(日本 - 戦前から高度経済成長まで)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】
- 10回 社会福祉の歴史(日本 - 福祉元年以降)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
- 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
- 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
- 13回 現代社会の変化と福祉政策【社会的排除】【社会的包摂】
- 14回 福祉政策の関連領域 【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉2 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、労働政策、司法政策を含む）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）『4 現代社会と福祉-社会福祉原論』中央法規（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要①【目的概念、実体概念、L字型構造】
- 2回 福祉政策の概要②【倫理要綱、専門職】
- 3回 福祉政策における必要と資源【ニード、社会資源マップ】
- 4～5回 福祉政策の主体と手法【福祉レジーム、NPM】
- 6～7回 福祉政策の関連領域【保健医療、住宅政策、教育、雇用】
- 8～9回 社会福祉制度の体系【社会政策、社会福祉法、社会福祉基礎構造改革】
- 10回 福祉サービスの供給【福祉多元主義、指定管理者制度】
- 11～12回 福祉政策の国際比較
- 13回 福祉サービスと援助活動【バイステック、ストレングス、エンパワメント】
- 14回 福祉政策の課題と展望【ノーマライゼーション、インクルージョン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の小テスト ... 50% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の内容について、翌週の授業開始時に小テストを行うので、復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グラントデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際法I【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

国際法I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する教材研究の講義を行う。それらの内容を踏まえ、学習指導案の作成方法について説明し、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）
『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。
"高等学校 新現代社会(改訂版) 現代社会の課題を巡る78の視点"清水書院
現代社会東京書籍 高等学校 改訂版 現代社会第一学習社 高校現代社会(新訂版) 実教出版
倫理東京書籍 "高等学校 新倫理(改訂版) 人間とは何か-思索のために"清水書院
高校倫理実教出版 新倫理 ~自己を見つめて~教育出版
高等学校 改訂版 政治・経済第一学習社 高校 政治・経済 新訂版実教出版 "高等学校 新政治・経済(改訂版)
自ら思考する地球市民へ"清水書院 政治・経済東京書籍

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公民科とは何か ~成立過程と位置づけ~
- 第2回 公民科のねらいと内容
- 第3回 現代社会の課題
- 第4回 経済社会と経済活動
- 第5回 民主主義と政治のしくみ
- 第6回 国際社会と日本
- 第7回 青年期の課題と自己形成
- 第8回 指導計画の作成と内容の取扱い
- 第9回 学習指導案の作成上の留意点
- 第10回 学習指導案の作成の実際
- 第11回 環境問題、模擬授業
- 第12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 第13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 第14回 人種・民族問題、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

公民科(「現代社会」、「倫理」、「政治経済」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。
模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

公民科教育法Bは、本授業を受講したのちに履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。

後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）、授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年

『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

現代社会 東京書籍 高等学校 改訂版 現代社会 第一学習社 高校現代社会（新訂版）実教出版

倫理 東京書籍 "高等学校 新倫理（改訂版） 人間とは何か-思索のために" 清水書院

高校倫理実教出版 新倫理 ~自己を見つめて~教育出版

高等学校 改訂版 政治・経済第一学習社 高校 政治・経済 新訂版 実教出版 "高等学校 新政治・経済（改訂版）

自ら思考する地球市民へ"清水書院 政治・経済 東京書籍

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論
- 第4回 社会科初志の会の授業理論
- 第5回 学習指導案の作成上の留意点
- 第6回 学習指導案の作成作業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業... 50% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 30%

授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は原則として、公民科教育法Aの授業を履修後に履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法C 【夜】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下の通りである。

- ① 学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する包括的な知見を修得すること。
- ② 指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得すること。
- ③ 教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養うこと。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学社会 地理 ~地域にまなぶ~教育出版
 中学社会 公民 ~ともに生きる~教育出版
 中学社会 歴史 ~未来をみつめて~教育出版
 中学生の社会科 公民 現代の社会日本文教出版
 中学生の社会科 歴史 日本の歩みと世界日本文教出版
 中学生の社会科 地理 世界と日本の国土日本文教出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 学習指導要領の地理的分野の目標と内容
- 3回 地理的分野の授業例
- 4回 学習指導要領の歴史的分野の目標と内容
- 5回 歴史的分野の授業例
- 6回 学習指導要領の公民的分野の目標と内容
- 7回 社会科における参加型学習(グループワーク)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 社会科における資料活用
- 11回 学習指導案の作成の留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育 [戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 教科目標と各分野の目標

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 演習 ... 30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科教育法C 【夜】

キーワード /Keywords

社会科教育法D 【夜】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、一学期の社会科教育法Cの授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科教師としてのより実践的な指導力の育成と、社会科教師としての使命感の育成をめざしていきたい。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学社会 地理 ~地域にまなぶ~教育出版
 中学社会 公民 ~ともに生きる~教育出版
 中学社会 歴史 ~未来をみつめて~教育出版
 中学生の社会科 公民 現代の社会日本文教出版
 中学生の社会科 歴史 日本の歩みと世界日本文教出版
 中学生の社会科 地理 世界と日本の国土日本文教出版
 中学校地図帳 帝国書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの社会科教育に求められる者
- 2回 教師に求められる資質能力
- 3回 学習指導における評価
- 4回 学習指導における評価の実際
- 5回 生徒の実態把握
- 6回 教材研究の進め方
- 7回 指導案の作成方法の説明
- 8回 指導案の作成作業
- 9回 模擬授業 その1 導入
- 10回 模擬授業 その2 展開
- 11回 模擬授業 その3 資料の活用
- 12回 模擬授業 その4 発問と板書の留意点
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 … 30%、 レポート提出内容 … 40%、 授業中の質疑 … 30%
 応答での絶対評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
6回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 生徒の人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 参加型授業の実践	【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学・高校)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校)	【授業構成】 【展開】
14回 模擬授業③(中学・高校)	【授業構成】 【練習】 【応用】
15回 模擬授業④(中学・高校)	【指導技術】 【発問】 【説明】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords